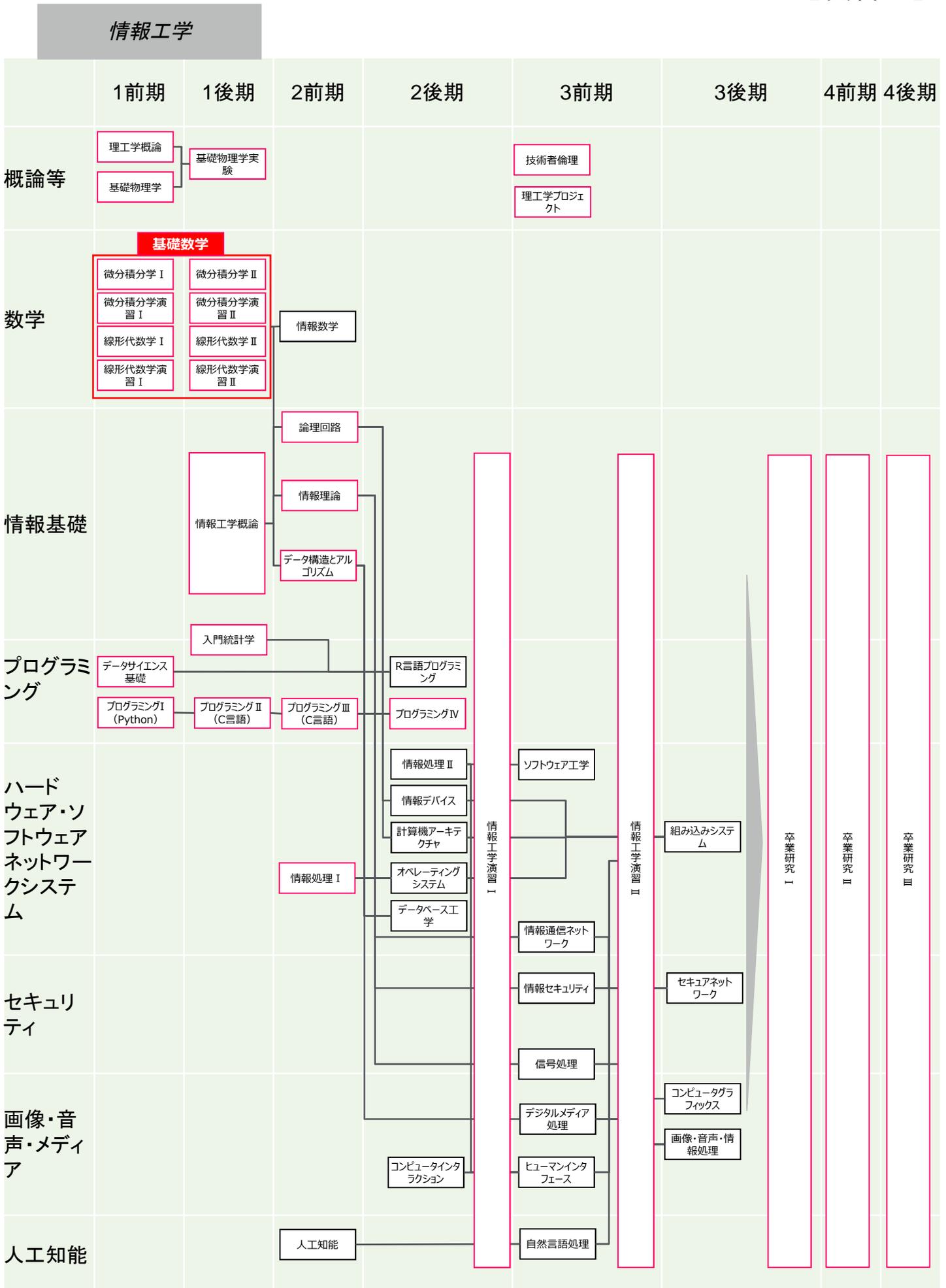


追手門学院大学 理工学部情報工学科カリキュラムマップ

		赤字は必修科目	実験・実習	演習	演習 ※講義	講義 ※演習		
養成する人材像	幅広く深い教養及び主体的な判断力と豊かな人間性を身に付け、倫理観をもって理学と工学の両方の立場からの基礎的な視点を持ち、情報工学に関する「プログラミング」「ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークシステム」「情報セキュリティ」「デジタル情報」「人工知能」などの専門領域に係る教育研究から、基本原理の理解と基礎的な技術力、問題解決能力をもって、現代社会の諸課題に対してプログラミングや情報処理の技術をもって取り組むことで社会に貢献する職業人							
ディプロマポリシー	職業生活や社会生活で必要となる汎用的技能や現代社会に関する幅広い知識と主体的な職能開発や自主的な学習態度を修得している。	情報工学に必要な自然科学の基本を修得するとともに、倫理観をもって理学と工学の両方の立場から物事を捉えるための基礎的な知識・技能、思考法を身に付けている。	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。			情報工学との関連性や応用性を有する数理学、データサイエンス分野や工業分野に関する基礎的な知識を身に付けている。	これまでに修得した知識・技能を活用して、情報工学に関する社会における課題を発見し、主体的に向き合って解決する能力を修得している。	
カリキュラムポリシー	日本語と外国語によるコミュニケーション能力、数的処理能力や情報リテラシー及び人と社会や自然との関わりの理解、職能開発力を高めるための科目群を設ける。	情報工学に必要な自然科学の基本を修得するとともに、倫理観をもって理学と工学の両方の立場から物事を捉えるための基礎的な知識と技能を修得するための科目群を設ける。	情報工学を修得するうえでの基礎となる知識・技能を修得するための科目群を設ける。	情報工学に関する理論とその実践に関する専門的な知識・技能を得るための科目群を設ける。	各々の興味関心に基づき、情報工学の立場から課題を発見し解決するための思考力を得るための科目群を設ける。	情報工学との関連性や応用性が深い数理学、データサイエンス分野や工業分野に関する基礎的な教育内容を取り扱うための科目群を設ける。	卒業研究を通して、情報工学に関連する問題発見方法や課題解決手法の修得及び批判力、論理性、表現力を高めるための科目群を設ける。	
到達目標	<p>▼日本語と外国語によるコミュニケーション能力、数的処理能力や情報リテラシーに関する知識・技能を修得する（ファウンデーション科目群）。</p> <p>▼人と社会や自然とのかかわりを理解する（リベラルアーツ・サイエンス科目群）。</p> <p>▼職能開発力を高めて身に付ける（主体的学び科目群）。</p>	<p>▼倫理観 技術にまつわる倫理的問題の理解とそれに対応するための知識や考え方を身につける。</p> <p>▼理学と工学の両方の立場から物事を捉えるための基礎的な知識 科学の歴史や社会との関係や学び、理学や工学の現代社会における役割や責任を理解し、その基礎となる数学や物理学の基礎的な知識を修得する（理工学概論、数学講義科目、基礎物理学）。さらに、デジタル社会の基礎的な素養としての統計やデータサイエンスの基礎的な知識を修得する（データサイエンス基礎、入門統計学）。</p> <p>▼理学と工学の両方の立場から物事を捉えるための基礎的な技能 基礎的な数学、物理学の知識を応用するための技能を修得する（数学演習科目、基礎物理学実験）。プログラミングの基本文法の習得と理工系で必要となるモジュールの使い方を修得する（プログラミング科目）。理学と工学のそれぞれの立場から物事を捉え、協働して課題を解決する技能を修得する（理工学プロジェクト）。</p>	<p>▼基礎となる知識 情報工学の社会との関わりを理解し（概論）、情報の表現、伝送、処理、符号化等に関連する数学的な理論や論理回路の基礎的な知識を修得する（情報理論、論理回路）。プログラムを設計する際の適切なデータ構造とアルゴリズムの知識を理解する（データ構造とアルゴリズム）。</p> <p>▼基礎となる技能 情報工学の基礎を理解し、プログラミング開発や基礎のためのプログラミング技能を修得する（情報処理I、プログラミングIV）。</p>	<p>▼情報工学に関する実践 社会における情報システム、ビジネスにおけるDXへの取り組み事例を学び、社会やビジネスにとって役立つ情報システムの企画デザインを行い、それをまとめて発表する技能を修得する（情報工学演習）。</p> <p>▼実践に関する専門的な知識 情報工学の基礎的な知識を理解した上で、関連する専門的な知識を修得する（情報数学、講義科目）。</p> <p>▼実践に関する専門的な技能 情報工学の基礎を理解し、プログラミング開発や応用のためのプログラミング技能を修得している（情報セキュリティ、ハード・ソフト・ネットワーク）。</p>	<p>▼課題発見解決の知識 情報工学が社会実装された事例を学び、情報工学がどのように社会課題を解決しているかを理解する。</p>	<p>▼関連・応用分野の理解 情報工学との関連性や応用性が深い数理学、データサイエンス分野や工業分野に関する基礎的な内容を理解する。</p>	<p>▼主体的課題解決能力の涵養 これまでに修得した知識・技能を活用して自主的に実験・解析・設計・試作等を計画し、継続して研究に取り組み、得られた成果に考察を加えることができる。また、成果を卒業論文または卒業制作としてまとめることができ、研究成果を口頭で発表し、討議することができる。</p>	
科目区分	共通教育科目	基礎共通科目	専門基礎科目	専門基幹科目	専門発展科目	専門展開科目	研究科目	
4年次	後期 前期							卒業研究III 卒業研究II
3年次	後期					組込みシステム セキュアネットワーク 画像・音声・情報処理 コンピュータグラフィックス	無線通信システム 光通信 制御工学II 時系列解析	卒業研究I
	前期		理工学プロジェクト 文献講読 技術者倫理		情報工学演習II ソフトウェア工学 ヒューマンインタフェース 自然言語処理 信号処理 デジタルメディア処理 情報セキュリティ 情報通信ネットワーク		波形処理 制御工学I ロボットの機構と運動 ベイズ統計学 深層学習 機械学習II 多変量解析	
2年次	後期	ファウンデーション科目群 24科目28単位 リベラルアーツ・サイエンス科目群 33科目 82単位	科学技術英語 科学技術史	プログラミングIV	情報工学演習I R言語プログラミング 情報デバイス 情報処理II データベース工学 コンピュータインタラクション オペレーティングシステム 計算機アーキテクチャ		電気電子計測 フーリエ解析 機械学習I 統計的推測II	
	前期	主体的学び科目群 45科目63単位	知的財産論 プログラミングIII プログラミングII 線形代数学演習II 線形代数学II 微分積分学演習II 微分積分学II 入門統計学 基礎物理学実験	論理回路 データ構造とアルゴリズム 情報理論 情報処理I	人工知能 情報数学		電子回路I テキストマイニング 数値最適化 微分方程式 統計的推測I	
1年次 または 1年次以上	後期							
	前期						オペレーションズ・リサーチ 確率・統計	
アドミッション ポリシー	<p>1) 本学科の養成する人材像を理解し、プログラミングや情報処理の技術に興味を有している者</p> <p>2) 高等学校で履修した数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している者</p> <p>3) 物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる能力を有している者</p>							



別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																	
(理工学部情報工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
初年次科目	数的処理入門	1前・後			2			○							1		
	日本語表現	1前			2				○						1		
	コンピュータ入門1	1前			1			○							1		
	コンピュータ入門2	1後			1			○							1		
小計(4科目)		—	—	0	6	0		—			0	0	0	0	0	3	
ファウンデーション科目群	総合英語1	1前		2				○							1		
	総合英語2	1後		2				○							1		
	Advanced English1	2前			1				○						1		
	Advanced English2	2後			1				○						1		
	Academic English1	2・3前			1				○						1		
	Academic English2	2・3後			1				○						1		
	Online English Seminar1	1前		1					○						1		
	Online English Seminar2	1後		1					○						1		
	Online English Seminar3	2前			1				○						1		
	Online English Seminar4	2後			1				○						1		
	ドイツ語1	1前・後			1				○						1		
	ドイツ語2	1前・後			1				○						1		
	フランス語1	1前・後			1				○						1		
	フランス語2	1前・後			1				○						1		
	中国語1	1前・後			1				○						1		
	中国語2	1前・後			1				○						1		
小計(16科目)		—	—	6	12	0		—			0	0	0	0	0	5	
体育科目	スポーツ実習1	1前			1					○					1		
	スポーツ実習2	1後			1					○					1		
	ネイチャーアクティビティ1	1休			1					○					1	集中	
	ネイチャーアクティビティ2	1休			1					○					1	集中	
小計(4科目)		—	—	0	4	0		—			0	0	0	0	0	1	
リベラルアーツ・サイエンス系科目	知の探究	1後			2				○						1		
	未来課題	2前・後			2			○							1		
	L&Sゼミ	2前・後			2				○						1		
	小計(3科目)		—	—	0	6	0		—			0	0	0	0	0	3
人文系科目	哲学	1前・後			2			○							1		
	芸術学	1前・後			2			○							1		
	日本文学	1前・後			2			○							1		
	中国文学	1前・後			2			○							1		
	西洋文学	1前・後			2			○							1		
	言語学	1前・後			2			○							1		
	ことばと文化	1前・後			2			○							1		
	日本史	1前・後			2			○							1		
アジア・オセアニア史	1前・後			2			○							1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員		
共通教育科目	人文学系科目	西洋史	1前・後			2		○								1		
		人文地理学	1前・後			2		○								1		
		民俗学	1前・後			2		○								1		
		国際異文化理解1	2・3後			10			○							1		
		国際異文化理解2	3・4前			10			○							1		
		小計(14科目)	—	—	0	44	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	
	リベラルアーツ・サイエンス科目群	社会科学系科目	法学	1前・後			2		○								1	
			日本国憲法	1前・後			2		○								1	
			政治学	1前・後			2		○								1	
			国際関係論	1前・後			2		○								1	
			経済学	1前・後			2		○								1	
			経営学	1前・後			2		○								1	
			社会・経済思想	1前・後			2		○								1	
			社会学	1前・後			2		○								1	
			社会福祉学	1前・後			2		○								1	
教育学			1前・後			2		○								1		
スポーツ学			1前・後			2		○								1		
社会の心理			1前・後			2		○								1		
認知の科学			1前・後			2		○								1		
	小計(13科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11		
自然科学系科目	ものの科学	1前・後			2		○								1			
	生命の科学	1前・後			2		○								1			
	情報の科学	1前・後			2		○								1			
	小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3		
キャリア形成系科目	自己との対話	1前			1			○							1			
	追手門アイデンティティ	1前			2		○								1			
	キャリアデザイン	2前・後			2		○								1			
	ボランティア論	1前・後			2		○								1			
	キャリア形成プロジェクト	1前・後			2		○								1			
	キャリア言語	1前・後			2		○								1			
	キャリア数学	1前・後			2		○								1			
	リーダーシップ入門	1前・後			2			○							1			
	ファシリテーション入門	1前・後			2			○							1			
		小計(9科目)	—	—	0	17	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	
主体的学び科目群	キャリア展開系科目	リーダーシップ実地基礎演習	1・2・3・4通			2				○					1			
		リーダーシップゼミナール1	2・3前			2			○						1			
		リーダーシップゼミナール2	2・3後			2			○						1			
		リーダーシップ実地発展演習	2・3・4通			2				○					1			
		キャリア実践英語1	1前			2		○							1			
		キャリア実践英語2	1後			2		○							1			
		プロジェクト実践Ⅰ	1・2・3通			1					○				1	集中		
		プロジェクト実践Ⅱ	1・2・3通			1					○				1	集中		
		プロジェクト実践Ⅲ	1・2・3通			1					○				1	集中		
		プロジェクト実践Ⅳ	1・2・3通			1					○				1	集中		
		インターンシップ実習Ⅰ	3・4通			1					○				1	集中		
		インターンシップ実習Ⅱ	3・4通			1					○				1	集中		
		インターンシップ実習Ⅲ	3・4通			1					○				1	集中		
		インターンシップ実習Ⅳ	3・4通			1					○				1	集中		
		スポーツケア演習	1前・後			2				○						1		
交換留学Ⅰ	1・2・3後			4				○						1				
交換留学Ⅱ	2・3・4前			4				○						1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員			
共通教育科目	キャリア展開系科目																		
	主體的学び科目群																		
	海外セミナー	1・2・3休			4			○							1	集中			
	短期海外セミナー	1・2・3休			2			○							1	集中			
	海外インターンシップ	3休				4									1	集中			
	国際現地研修	2・3休				4									1	集中			
	グローバルキャリア論	2・3前			2			○							1	集中			
	小計(22 科目)	—	—	0	46	0		—		0	0	0	0	0	0	6			
学科学科目	基盤共通科目	理工学概論	1前		2			○			3						6	オムニバス	
		データサイエンス基礎	1前		2			○									2		
		基礎物理学	1前		2			○									1		
		基礎物理学実験	1後		2					○							11	オムニバス・一部共同 ※ 講義	
		入門統計学	1後		2			○									2		
		微分積分学Ⅰ	1前		2			○									6		
		微分積分学Ⅱ	1後		2			○									6		
		微分積分学演習Ⅰ	1前		1				○								6		
		微分積分学演習Ⅱ	1後		1				○								6		
		線形代数学Ⅰ	1前		2			○									6		
		線形代数学Ⅱ	1後		2			○									6		
		線形代数学演習Ⅰ	1前		1				○								6		
		線形代数学演習Ⅱ	1後		1				○								6		
		プログラミングⅠ	1前		2				○				1	1			1	※講義	
		プログラミングⅡ	1後		2				○			2	1				1	※講義	
		プログラミングⅢ	2前		2				○			2	1				1	※講義	
		科学技術史	2後		2			○									1		
		科学技術英語	2後		2			○									1		
		知的財産論	2前		2			○									1		
		技術者倫理	3前		2			○									1		
		文献講読	3前		2			○				2	1				4		
		理工学プロジェクト	3前		2				○			1							
	小計(22 科目)	—	—	32	8	0		—		6	1	1	1	0	29				
専門基礎科目	情報工学概論	1後	○	2			○			6	1	1	1				6	オムニバス	
	情報処理Ⅰ	2前	○	2				○		1							1	※講義	
	プログラミングⅣ	2後	○	2				○		1		1					1	※講義	
	情報理論	2前	○	2			○			1							1		
	データ構造とアルゴリズム	2前	○	2			○			1							1		
	論理回路	2前	○	2			○			1							1		
	小計(6 科目)	—	—	12	0	0		—		6	1	1	1	0	0				
専門基幹科目	情報数学	2前	○	2			○			1								1	※演習
	人工知能	2前	○	2			○			1									
	計算機アーキテクチャ	2後	○	2			○			1									
	オペレーティングシステム	2後	○	2			○			1									
	コンピュータインタラクション	2後	○	2			○			1		1							
	データベース工学	2後	○	2			○			1									
	情報処理Ⅱ	2後	○	2				○		1									※講義
	情報デバイス	2後	○	2			○			1									
	R言語プログラミング	2後	○	2				○		1							1		※講義
	情報通信ネットワーク	3前	○	2			○			1									
	情報セキュリティ	3前	○	2			○			1									
	デジタルメディア処理	3前	○	2			○			1									
信号処理	3前	○	2			○			1										
自然言語処理	3前	○	2			○										1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門基幹科目	ヒューマンインタフェース	3前	○		2		○										
	ソフトウェア工学	3前	○		2		○										
	情報工学演習Ⅰ	2後	○	2				○			1	1					
	情報工学演習Ⅱ	3前	○	2				○			1	1					
	小計(18科目)	—	—	4	32	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
専門発展科目	コンピュータグラフィックス	3後			2		○										※演習
	画像・音声・情報処理	3後			2		○										※演習
	セキュアネットワーク	3後			2		○										
	組込みシステム	3後			2		○					1					
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学科学目 専門展開科目	確率・統計	1後			2		○										1
	オペレーションズ・リサーチ	1後			2		○										1
	統計的推測Ⅰ	2前			2		○										1
	統計的推測Ⅱ	2後			2		○										1
	微分方程式	2前			2		○										1
	数値最適化	2前			2		○										1
	テキストマイニング	2前			2		○										1
	機械学習Ⅰ	2後			2		○										1
	フーリエ解析	2後			2		○										1
	多変量解析	3前			2		○										1
	機械学習Ⅱ	3前			2		○										1
	深層学習	3前			2		○										1
	ベイズ統計学	3前			2		○										1
	時系列解析	3後			2		○										1
	電子回路Ⅰ	2前			2		○										1
	電気電子計測	2後			2		○										1
	ロボットの機構と運動	3前			2		○										1
	制御工学Ⅰ	3前			2		○										1
	制御工学Ⅱ	3後			2		○										1
	波形処理	3前			2		○										1
光通信	3後			2		○										1	
無線通信システム	3後			2		○										1	
	小計(22科目)	—	—	0	44	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15
研究科目	卒業研究Ⅰ	3後	○	2				○									
	卒業研究Ⅱ	4前	○	4				○									
	卒業研究Ⅲ	4後	○	4				○									
	小計(3科目)	—	—	10	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計(163科目)		—	—	64	259	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
共通教育科目から20単位以上(うち必修科目6単位、リベラルアーツ・サイエンス科目群の選択科目から8単位以上)、学科学目から82単位以上(うち必修科目58単位、基盤共通科目の選択科目から2単位以上、専門基幹科目の選択科目から12単位以上、専門発展科目の選択科目から4単位以上、専門展開科目の選択科目から6単位以上)を修得し、総計124単位を取得すること。 (履修科目の登録の上限:44単位(年間))							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			13週							
							1時限の授業の標準時間			105分							

教 育 課 程 等 の 概 要

（理工学部情報工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外（助手を除く）の教員	
初年次科目	数的処理入門	1前・後			2			○								1	
	日本語表現	1前			2				○							1	
	コンピュータ入門1	1前			1			○								1	
	コンピュータ入門2	1後			1			○								1	
	小計(4科目)	—	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	0	3	
フアウンテーション科目群	総合英語1	1前		2				○								1	
	総合英語2	1後		2				○								1	
	Advanced English1	2前			1				○							1	
	Advanced English2	2後			1				○							1	
	Academic English1	2・3前			1				○							1	
	Academic English2	2・3後			1				○							1	
	Online English Seminar1	1前		1					○							1	
	Online English Seminar2	1後		1					○							1	
	Online English Seminar3	2前			1				○							1	
	Online English Seminar4	2後			1				○							1	
	ドイツ語1	1前・後			1				○							1	
	ドイツ語2	1前・後			1				○							1	
	フランス語1	1前・後			1				○							1	
	フランス語2	1前・後			1				○							1	
	中国語1	1前・後			1				○							1	
	中国語2	1前・後			1				○							1	
	小計(16科目)	—	—	6	12	0		—		0	0	0	0	0	0	5	
エンベラルーツ・サイ	知の探究	1後			2				○							1	
	未来課題	2前・後			2				○							1	
	L&Sゼミ	2前・後			2				○							1	
	小計(3科目)	—	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	0	3	
リベラルアーツ・サイエンス科目群	哲学	1前・後			2				○							1	
	芸術学	1前・後			2				○							1	
	日本文学	1前・後			2				○							1	
	中国文学	1前・後			2				○							1	
	西洋文学	1前・後			2				○							1	
	言語学	1前・後			2				○							1	
	ことばと文化	1前・後			2				○							1	
	日本史	1前・後			2				○							1	
	アジア・オセアニア史	1前・後			2				○							1	
	西洋史	1前・後			2				○							1	
	人文地理学	1前・後			2				○							1	
	民俗学	1前・後			2				○							1	
	国際異文化理解1	2・3後			10					○						1	
	国際異文化理解2	3・4前			10					○						1	
	小計(14科目)	—	—	0	44	0		—		0	0	0	0	0	0	9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
リベラルアーツ・サイエンス科目群	法学	1前・後			2		○									1	
	日本国憲法	1前・後			2		○									1	
	政治学	1前・後			2		○									1	
	国際関係論	1前・後			2		○									1	
	経済学	1前・後			2		○									1	
	経営学	1前・後			2		○									1	
	社会・経済思想	1前・後			2		○									1	
	社会学	1前・後			2		○									1	
	社会福祉学	1前・後			2		○									1	
	教育学	1前・後			2		○									1	
	スポーツ学	1前・後			2		○									1	
	社会の心理	1前・後			2		○									1	
	認知の科学	1前・後			2		○									1	
小計(13科目)	—	—	—	0	26	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	
自然科学系	ものの科学	1前・後			2		○									1	
	生命の科学	1前・後			2		○									1	
	情報の科学	1前・後			2		○									1	
	小計(3科目)	—	—	—	0	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	3	
共通教育科目	自己との対話	1前			1			○								1	
	追手門アイデンティティ	1前			2		○									1	
	キャリアデザイン	2前・後			2		○									1	
	ボランティア論	1前・後			2		○									1	
	キャリア形成プロジェクト	1前・後			2		○									1	
	キャリア言語	1前・後			2		○									1	
	キャリア数学	1前・後			2		○									1	
	リーダーシップ入門	1前・後			2			○								1	
	ファシリテーション入門	1前・後			2			○								1	
	小計(9科目)	—	—	—	0	17	0	—	—	—	—	—	—	—	—	5	
主体的学び科目群	リーダーシップ実地基礎演習	1・2・3・4通			2				○							1	
	リーダーシップゼミナール1	2・3前			2			○								1	
	リーダーシップゼミナール2	2・3後			2			○								1	
	リーダーシップ実地発展演習	2・3・4通			2				○							1	
	キャリア実践英語1	1前			2		○									1	
	キャリア実践英語2	1後			2		○									1	
	プロジェクト実践Ⅰ	1・2・3通			1				○							1	集中
	プロジェクト実践Ⅱ	1・2・3通			1				○							1	集中
	プロジェクト実践Ⅲ	1・2・3通			1				○							1	集中
	プロジェクト実践Ⅳ	1・2・3通			1				○							1	集中
	インターンシップ実習Ⅰ	3・4通			1				○							1	集中
	インターンシップ実習Ⅱ	3・4通			1				○							1	集中
	インターンシップ実習Ⅲ	3・4通			1				○							1	集中
	インターンシップ実習Ⅳ	3・4通			1				○							1	集中
	スポーツケア演習	1前・後			2			○								1	
	交換留学Ⅰ	1・2・3後			4			○								1	
	交換留学Ⅱ	2・3・4前			4			○								1	
海外セミナー	1・2・3休			4			○								1	集中	
短期海外セミナー	1・2・3休			2			○								1	集中	
海外インターンシップ	3休			4				○							1	集中	
国際現地研修	2・3休			4					○						1	集中	
グローバルキャリア論	2・3前			2			○								1		
小計(22科目)	—	—	—	0	46	0	—	—	—	—	—	—	—	—	6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員		
学 科 科 目	基 盤 共 通 科 目	理工学概論	1前		2			○			3					6	オムニバス	
		データサイエンス基礎	1前		2			○								2		
		基礎物理学	1前		2			○								1		
		基礎物理学実験	1後		2					○						11	オムニバス・一部共同 ※ 講義	
		入門統計学	1後		2			○								2		
		微分積分学Ⅰ	1前		2			○								6		
		微分積分学Ⅱ	1後		2			○								6		
		微分積分学演習Ⅰ	1前		1				○							6		
		微分積分学演習Ⅱ	1後		1					○						6		
		線形代数学Ⅰ	1前		2			○								6		
		線形代数学Ⅱ	1後		2			○								6		
		線形代数学演習Ⅰ	1前		1				○							6		
		線形代数学演習Ⅱ	1後		1					○						6		
		プログラミングⅠ	1前		2					○				1	1	1		※ 講義
		プログラミングⅡ	1後		2					○						1		※ 講義
	小計(15科目)	—	—	26	0	0	—	—	—	5	0	1	1	0	25			
専 門 目 基 礎	情報工学概論	1後	○	2			○			6	1	1	1			オムニバス		
	小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	6	1	1	1	0	0			
専 門 展 開 目	確率・統計	1後			2		○								1			
	オペレーションズ・リサーチ	1後			2		○								1			
	小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	2			
合計(102科目)		—	—	34	167	0	—	—	—	6	1	1	1	0	56			
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野				工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
共通教育科目から20単位以上(うち必修科目6単位、リベラルアーツ・サイエンス科目群の選択科目から8単位以上)、学科科目から82単位以上(うち必修科目58単位、基盤共通科目の選択科目から2単位以上、専門基幹科目の選択科目から12単位以上、専門発展科目の選択科目から4単位以上、専門展開科目の選択科目から6単位以上)を修得し、総計124単位を取得すること。 (履修科目の登録の上限:44単位(年間))									1学年の学期区分			2期						
									1学期の授業期間			13週						
									1時限の授業の標準時間			105分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学部情報工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員			
共通教育科目	フアウンテン・イノベーション科目群 体育科目	スポーツ実習1	1前		1				○							1		
		スポーツ実習2	1後		1				○							1		
		ネイチャーアクティビティ1	1休		1				○							1	集中	
		ネイチャーアクティビティ2	1休		1				○							1	集中	
		小計(4科目)	—	—	0	4	0			—	0	0	0	0	0	0	1	
基盤共通科目	プログラミングⅢ	2前		2				○		2		1						
	科学技術史	2後			2			○								1		
	科学技術英語	2後			2			○								1		
	知的財産論	2前			2			○								1		
	技術者倫理	3前	2					○								1		
	文献講読	3前		2				○		2	1					4		
	理工学プロジェクト	3前		2					○	1								
	小計(6科目)	—	—	4	8	0			—	5	1	1	0	0	0	8		
	専門基礎科目	情報処理Ⅰ	2前	○	2				○		1							※講義
		プログラミングⅣ	2後	○	2				○		1		1					※講義
情報理論		2前	○	2				○		1								
データ構造とアルゴリズム		2前	○	2				○		1								
論理回路		2前	○	2				○		1								
小計(5科目)	—	—	10	0	0			—	3	0	1	0	0	0	0			
学科学科目	専門基幹科目	情報数学	2前	○		2		○			1							※演習
		人工知能	2前	○		2		○			1							
		計算機アーキテクチャ	2後	○		2		○			1							
		オペレーティングシステム	2後	○		2		○			1							
		コンピュータインタラクション	2後	○		2		○				1						
		データベース工学	2後	○		2		○			1		1					
		情報処理Ⅱ	2後	○		2			○		1							※講義
		情報デバイス	2後	○		2		○			1							
		R言語プログラミング	2後	○		2			○								1	※講義
		情報通信ネットワーク	3前	○		2		○			1							
		情報セキュリティ	3前	○		2		○			1							
		デジタルメディア処理	3前	○		2		○			1							
		信号処理	3前	○		2		○			1							
		自然言語処理	3前	○		2		○									1	
		ヒューマンインタフェース	3前	○		2		○				1						
		ソフトウェア工学	3前	○		2		○			1							
		情報工学演習Ⅰ	2後	○	2					○	1	1						
		情報工学演習Ⅱ	3前	○	2					○	1	1						
小計(18科目)	—	—	4	32	0			—	6	1	0	0	0	0	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
専門 発展 科目	コンピュータグラフィックス	3後			2		○			1							※演習
	画像・音声・情報処理	3後			2		○			1							※演習
	セキュアネットワーク	3後			2		○			1							
	組込みシステム	3後			2		○					1					
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	3	0	1	0	0	0		
学 科 科 目	統計的推測Ⅰ	2前			2		○									1	
	統計的推測Ⅱ	2後			2		○									1	
	微分方程式	2前			2		○									1	
	数理最適化	2前			2		○									1	
	テキストマイニング	2前			2		○									1	
	機械学習Ⅰ	2後			2		○									1	
	フーリエ解析	2後			2		○									1	
	多変量解析	3前			2		○									1	
	機械学習Ⅱ	3前			2		○									1	
	深層学習	3前			2		○									1	
	ベイズ統計学	3前			2		○									1	
	時系列解析	3後			2		○									1	
	電子回路Ⅰ	2前			2		○									1	
	電気電子計測	2後			2		○									1	※演習
	ロボットの機構と運動	3前			2		○									1	
	制御工学Ⅰ	3前			2		○									1	※演習
	制御工学Ⅱ	3後			2		○									1	※演習
	波形処理	3前			2		○									1	※演習
光通信	3後			2		○									1		
無線通信システム	3後			2		○									1	※演習	
	小計(20科目)	—	—	0	40	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	14	
研 究 科 目	卒業研究Ⅰ	3後	○	2					○		6	1					
	卒業研究Ⅱ	4前	○	4					○		6	1					
	卒業研究Ⅲ	4後	○	4					○		6	1					
	小計(3科目)	—	—	10	0	0	—	—	—	6	1	0	0	0	0		
合計(61科目)		—	—	28	92	0	—	—	—	6	1	1	0	0	22		
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
共通教育科目から20単位以上(うち必修科目6単位、リベラルアーツ・サイエンス科目群の選択科目から8単位以上)、学科科目から82単位以上(うち必修科目58単位、基盤共通科目の選択科目から2単位以上、専門基幹科目の選択科目から12単位以上、専門発展科目の選択科目から4単位以上、専門展開科目の選択科目から6単位以上)を修得し、総計124単位を取得すること。 (履修科目の登録の上限:44単位(年間))							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			13週							
							1時限の授業の標準時間			105分							

新

科目名	情報処理	科目区分	専門基礎科目	担当教員	寶珍 輝尚
		単位数	2単位	授業形態	演習
授業テーマ	シェルを理解し、シェルを用いた情報処理方法を習得する。				
授業の目的	オペレーティングシステムの初歩的な機能について、シェルの学習を通じて習熟することを目的とする。また、面倒な処理をシェルスクリプトにより簡便に行う手法を習得し、実際に使用できるようになることを目的とする。				
授業の概要	本科目は、シェルを理解し、シェルを用いた情報処理方法を習得することをテーマとする。まず、コンピュータ利用者にオペレーティングシステムの機能を簡便に利用できるようにしているシェルについて学ぶ。ここでは、ファイル管理、ヒストリ、標準入出力、リダイレクト、パイプ、プロセス管理、ジョブ管理、ならびに、正規表現等について、PowerShell を使用して学習する。次に、コマンドを使用して簡易なプログラムを書くことができるシェルスクリプトについて学習する。変数、演算子や制御構文に加えて、文字列操作や関数等について学習する。				
到達目標	シェルの基本機能を理解する。 シェルスクリプトが書けるようになる。 シェルスクリプトを用いた情報処理ができるようになる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	概要、ファイル管理	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	シェルの概念とファイル管理について学び、演習によりシェルとファイルの操作を習得する。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第2回	フォルダー移動、ヒストリ、別名	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	フォルダー移動、ヒストリ、別名について学び、演習によりフォルダーの移動、ヒストリと別名の利用に習熟する。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第3回	標準入出力、リダイレクト、パイプ	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	標準入出力、リダイレクト、パイプについて学び、演習により標準入出力、リダイレクト、パイプの使用を習得する。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		

第4回	プロセス管理、ジョブ管理	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	プロセスとジョブについて学び、演習を通してシェルのプロセス管理とジョブ管理について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第5回	正規表現、grep	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	正規表現について学び、コマンド grep を用いた演習により正規表現を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第6回	シェルスクリプト(1) (作成と実行)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	演習を通してシェルスクリプトの作成と実行について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第7回	シェルスクリプト(2) (変数と演算子)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	変数と演算子について学び、演習を通して変数と演算子の使い方を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第8回	シェルスクリプト(3) (文字列操作)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	文字列操作について学び、演習を通して文字列操作を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第9回	シェルスクリプト(4) (制御構文:条件分岐)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	制御構文(条件分岐)について学び、演習を通して条件分岐の使い方を学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第10回	シェルスクリプト(5) (制御構文:繰り返し)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	制御構文(繰り返し)について学び、演習を通して繰り返しの使い方を学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第11回	シェルスクリプト(6) (引数)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	引数について学び、演習を通して引数の使い方を学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第12回	シェルスクリプト(7) (関数)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。
		学習内容	関数について学び、演習を通して関数の使い方とその利点を学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第13回	シェルスクリプト(8)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。

	(情報処理)	学習内容	シェルスクリプトを用いた演習を行う。
		事後学習	授業内容を復習し、最終課題を行う。
教科書	『動くサンプルで学べる Windows PowerShell コマンド&スクリプティングガイド』(五十嵐貴之 著、ソシム、平成 27 年)		
参考書	なし		
評価方法	<p>1. 第 1 回から第 12 回の内容に即した「課題」を提供し、理解度を測る。 「課題」は 6 点満点で、計 72 点満点とする。</p> <p>2. 第 13 回の「最終課題」を提出する。「最終課題」は 28 点満点とする。</p> <p>1.及び2.により総合的に評価を行う。(「課題」と「最終課題」を合わせた 100 点満点のうち、60 点以上を合格とする。)</p> <p>成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)</p>		

科目名	情報処理	科目区分	専門基礎科目	担当教員	寶珍 輝尚
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	シェルを理解し、シェルを用いた情報処理方法を習得する。				
授業の目的	オペレーティングシステムの初歩的な機能について、シェルの学習を通じて習熟することを目的とする。また、面倒な処理をシェルスクリプトにより簡便に行う手法を習得し、実際に使用できるようになることを目的とする。				
授業の概要	本科目は、シェルを理解し、シェルを用いた情報処理方法を習得することをテーマとする。まず、コンピュータ利用者にオペレーティングシステムの機能を簡便に利用できるようにしているシェルについて学ぶ。ここでは、ファイル管理、ヒストリ、標準入出力、リダイレクト、パイプ、プロセス管理、ジョブ管理、ならびに、正規表現等について、PowerShell を使用して学習する。次に、コマンドを使用して簡易なプログラムを書くことができるシェルスクリプトについて学習する。変数、演算子や制御構文に加えて、文字列操作や関数等について学習する。				
到達目標	シェルの基本機能を理解する。 シェルスクリプトが書けるようになる。 シェルスクリプトを用いた情報処理ができるようになる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	概要、ファイル管理	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	シェルの概念とファイル管理について学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第2回	フォルダー移動、ヒストリ、別名	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	フォルダー移動、ヒストリ、別名について学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第3回	標準入出力、リダイレクト、パイプ	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	標準入出力、リダイレクト、パイプについて学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第4回	プロセス管理、ジョブ管理	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	プロセスとジョブについて学び、シェルのプロセス管理とジョブ管理について学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第5回	正規表現、grep	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		

		学習内容	正規表現について学び、コマンド grep を用いて正規表現を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第6回	シェルスクリプト(1) (作成と実行)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	シェルスクリプトの作成と実行について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第7回	シェルスクリプト(2) (変数と演算子)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	変数と演算子について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第8回	シェルスクリプト(3) (文字列操作)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	文字列操作について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第9回	シェルスクリプト(4) (制御構文:条件分岐)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	制御構文(条件分岐)について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第10回	シェルスクリプト(5) (制御構文:繰り返し)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	制御構文(繰り返し)について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第11回	シェルスクリプト(6) (引数)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	引数について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第12回	シェルスクリプト(7) (関数)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	関数について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第13回	シェルスクリプト(8) (情報処理)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	シェルスクリプトを用いて情報処理を行う。
		事後学習	授業内容を復習し、最終課題を行う。
教科書	『動くサンプルで学べる Windows PowerShell コマンド&スクリプティングガイド』(五十嵐貴之 著、ソシム、平成 27 年)		
参考書	なし		
評価方法	<p>1. 第1回から第12回の内容に即した「課題」を提供し、理解度を測る。 「課題」は6点満点で、計72点満点とする。</p> <p>2. 第13回の「最終課題」を提出する。「最終課題」は28点満点とする。</p> <p>1.及び2.により総合的に評価を行う。(「課題」と「最終課題」を合わせた100点満点のうち、60点以上を合格とする。)</p> <p>成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。</p>		

S:90~100 (GP4)、A:80~89 (GP3)、B:70~79 (GP2)、C:60~69 (GP1)、D:0~59 (GP0)

新

科目名	プログラミング	科目区分	専門基礎科目	担当教員	宮本 行庸 辻 広生
		単位数	2単位	授業形態	演習
授業テーマ	C言語のより高度な文法事項に触れ、プログラミング手法の応用技術を習得する。				
授業の目的	C言語の概念を理解して、より高度なプログラムを記述し、実行することができるようになる。 また、より高度なプログラム応用技法を理解し、小規模アプリケーションが開発できるようになる。				
授業の概要	本科目は、C言語のより高度な文法事項を理解し、他者のプログラムが読解でき、自身でも高度なプログラムが記述・実行ができるよう、知識・技術が十分に習得できることを目的としている。先行科目にて修得したC言語の基本文法事項を元に、よりハードウェア寄りのメモリ管理技術について学ぶ。また、データベース・GUI・Webと連携し、課題を通じて具体的なアプリケーション開発能力を向上させるよう、個別要素技術の理解を深めていく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. C言語における応用レベルの文法を理解し、より高度なプログラムを記述し、実行できるようになる。 2. メモリアクセスについて理解し、問題に適切なメモリ管理を行うことができる。 3. エラー処理を理解し、エラーの回避およびエラー発生時の適切な対応ができるようになる。 4. Webアプリケーション等の応用レベル技術について理解し、適切なソフトウェア設計及び開発ができるようになる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	授業ガイダンス	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。		
		学習内容	授業の進め方について解説し、成績評価方法等の説明について理解する。		
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。		
第2回	メモリアクセスの基本	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。		
		学習内容	ポインタと配列の違い、およびポインタ演算について学び、簡単なプログラムで動作確認を行う。		
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。		
第3回	メモリ管理	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。		
		学習内容	メモリ領域のコピー、メモリ領域の確保と解放について学び、簡単なプログラムで動作確認を行う。		
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。		

第 4 回	複数ファイルによる開発	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	開発効率とは何か、およびチーム開発、ビルドについて学び、簡単なプログラムで動作確認を行う。
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 5 回	開発ツール	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	シェルスクリプト、および make と Makefile について学び、簡単なプログラムで動作確認を行う。
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 6 回	アプリケーション開発	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	簡単なパズルゲームアプリの製作について実践し、アプリケーション開発の基本を学ぶ。
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 7 回	前半の復習と課題	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	第 1 回～第 6 回の内容について復習し、課題演習を行う。
		事後学習	授業内で指示した課題を実施する。
第 8 回	データベース	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	データベースとの連携、および SQL について学び、簡単なプログラムで動作確認を行う。
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 9 回	ウィンドウアプリケーション	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	CUI と GUI、GTK+ について学び、簡単なプログラムで動作確認を行う。
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 10 回	Web アプリケーション	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	インターネットアクセス、Web サーバ、セキュリティについて学び、簡単なプログラムで動作確認を行う。
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 11 回	エラー処理	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	コンパイルエラーと実行エラー、デバッグについて学び、簡単なプログラムで動作確認を行う。
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 12 回	後半の復習と課題	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	第 8 回～第 11 回の内容について復習し、課題演習を行う。
		事後学習	授業内で指示した課題を実施する。
第 13 回	総復習	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。

		学習内容	第1回～第12回の総復習を行い、課題解説により未修得部分の理解を深める。
		事後学習	今期の学習内容について復習する。
教科書	『スッキリわかるC言語入門 第2版』(中山清喬著、インプレス、令和3年)		
参考書	『プログラミング言語C 第2版』(B.カーニハン・D.リッチー著、石田晴久訳、共立出版、平成元年)		
評価方法	<p>1. 授業時(第7・12・13回を除く)に提示された小課題の提出: 20点</p> <p>2. 第7回および第12回の授業時に実施した課題の提出: $40 \times 2 = 80$点</p> <p>以上、1. 及び2. により総合的に成績評価を行う。</p> <p>成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。</p> <p>S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)</p>		

科目名	プログラミング	科目区分	専門基礎科目	担当教員	宮本 行庸 辻 広生
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	C言語のより高度な文法事項に触れ、プログラミング手法の応用技術を習得する。				
授業の目的	C言語の概念を理解して、より高度なプログラムを記述し、実行することができるようになる。 また、より高度なプログラム応用技法を理解し、小規模アプリケーションが開発できるようになる。				
授業の概要	本科目は、C言語のより高度な文法事項を理解し、他者のプログラムが解読でき、自身でも高度なプログラムが記述・実行ができるよう、知識・技術が十分に習得できることを目的としている。先行科目にて修得したC言語の基本文法事項を元に、よりハードウェア寄りのメモリ管理技術について学ぶ。また、データベース・GUI・Webと連携し、課題を通じて具体的なアプリケーション開発能力を向上させるよう、個別要素技術の理解を深めていく。				
到達目標	1. C言語を使用して、より高度なプログラムを記述し、実行できるようになる。 2. より高度なプログラム技法(メモリアクセス・エラー処理など)を理解する。				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
		タイトル	内容		
第1回	授業ガイダンス	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。		
		学習内容	授業の進め方、成績評価方法等の説明		
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。		
第2回	メモリアクセスの基本	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。		
		学習内容	ポインタと配列の違い、ポインタ演算		
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。		
第3回	メモリ管理	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。		
		学習内容	メモリ領域のコピー、メモリ領域の確保と解放		
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。		
第4回	複数ファイルによる開発	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。		
		学習内容	開発効率とは、チーム開発、ビルド		
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。		
第5回	開発ツール	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。		
		学習内容	シェルスクリプト、makeとMakefile		

		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 6 回	アプリケーション開発	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	簡単なパズルゲームアプリの製作
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 7 回	前半の復習と課題	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	第 1 回～第 6 回の復習と課題
		事後学習	授業内で指示した課題を実施する。
第 8 回	データベース	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	データベースとの連携、SQL
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 9 回	ウィンドウアプリケーション	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	CUI と GUI、GTK+
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 10 回	Web アプリケーション	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	インターネットアクセス、Web サーバ、セキュリティ
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 11 回	エラー処理	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	コンパイルエラーと実行エラー、デバッグ
		事後学習	授業内で指示した小課題を実施する。
第 12 回	後半の復習と課題	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	第 8 回～第 11 回の復習と課題
		事後学習	授業内で指示した課題を実施する。
第 13 回	総復習	事前学習	指定教科書の該当ページを読んでおく。
		学習内容	第 1 回～第 12 回の総復習、課題解説
		事後学習	今期の学習内容について復習する。
教科書	『スッキリわかる C 言語入門 第 2 版』(中山清喬著、インプレス、令和 3 年)		
参考書	『プログラミング言語 C 第 2 版』(B.カーニハン・D.リッチー著、石田晴久訳、共立出版、平成元年)		
評価方法	<p>1. 授業時(第 7・12・13 回を除く)に提示された小課題の提出: 20 点</p> <p>2. 第 7 回および第 12 回の授業時に実施した課題の提出: $40 \times 2 = 80$ 点</p> <p>以上、1. 及び 2. により総合的に成績評価を行う。</p> <p>成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。</p> <p>S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)</p>		

新

科目名	情報数学	科目区分	専門基幹科目	担当教員	山口 一章
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	情報工学に関連する数学的な基礎を学ぶ。				
授業の目的	情報工学の分野で必要とされる数学的な思考や表現、解析、設計などの能力を養う。				
授業の概要	<p>本科目は、情報工学に関連する数学的な基礎を学ぶ。命題論理を用いて論理的な記述や推論の方法を習得する。集合に関する帰納的定義について学んだ上で、数学的帰納法や背理法といった証明技法について学ぶ。順列組み合わせの数え上げの方法を学び、鳩の巣原理や包除原理を用いた証明法について学ぶ。同値関係や順序関係、基本的な写像および写像の合成といったデータ間のつながりを考察する方法を学ぶ。グラフという離散的な構造を表現する方法と性質について学ぶ。形式言語の基礎として正規言語と有限オートマトンの関係、計算量に関する基礎を学ぶ。</p>				
到達目標	論理的な記述や推論、証明の記述法などを理解し、集合やグラフの性質や定理を証明できるようになること。				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル		内容		
第1回	命題論理、集合の基礎1	事前学習	教科書1章、2章に目を通しておく。		
		学習内容	命題、論理式、集合の記法、関係や演算について学ぶ。		
		事後学習	基本的用語の定義を正しく理解する。		
第2回	命題論理、集合の基礎2	事前学習	教科書1章、2章の復習をしておく。		
		学習内容	命題、論理式、集合の記法、関係や演算についての演習を行う。		
		事後学習	演習での間違いを確認し、正しく理解する。		
第3回	帰納的定義と証明技法、数え上げ1	事前学習	教科書3章、4章に目を通しておく。		
		学習内容	数学的帰納法、背理法、順列組合せ、鳩の巣原理、包除原理、母関数について学ぶ。		
		事後学習	証明や数え上げの例題で理解度を確認する。		
第4回		事前学習	教科書3章、4章の復習をしておく。		

	帰納的定義と証明技法、数え上げ2	学習内容	数学的帰納法、背理法、順列組合せ、鳩の巣原理、包除原理、母関数についての演習を行う。
		事後学習	演習での間違いを確認し、正しく理解する。
第5回	関係、関数の基礎1	事前学習	教科書5章、6章に目を通しておく。
		学習内容	関係の表記法、演算、同値関係、順序関係、関数の分類、合成、置換、再帰関数について学ぶ。
		事後学習	関係や関数の例題を読み、理解度を確認する。
第6回	関係、関数の基礎2	事前学習	教科書5章、6章の復習をしておく。
		学習内容	関係の表記法、演算、同値関係、順序関係、関数の分類、合成、置換、再帰関数についての演習を行う。
		事後学習	演習での間違いを確認し、正しく理解する。
第7回	グラフ、木、探索1	事前学習	教科書7章に目を通しておく。
		学習内容	グラフと連結性などの性質、2分木、順序木、全域木、探索木について学ぶ。
		事後学習	様々な例から性質を確認する。
第8回	グラフ、木、探索2	事前学習	教科書7章、8章の復習をしておく。
		学習内容	グラフと連結性などの性質、2分木、順序木、全域木、探索木についての演習を行う。
		事後学習	演習での間違いを確認し、正しく理解する。
第9回	ネットワーク1	事前学習	教科書9章に目を通しておく。
		学習内容	最短経路問題、マッチング、平面グラフ、彩色問題について学ぶ。
		事後学習	グラフアルゴリズムの動作を試し理解する。
第10回	ネットワーク2	事前学習	教科書9章の復習をしておく。
		学習内容	最短経路問題、マッチング、平面グラフ、彩色問題について演習を行う。
		事後学習	演習での間違いを確認し、正しく理解する。
第11回	形式言語理論の基礎	事前学習	授業HP「形式言語」に目を通しておく。
		学習内容	有限長系列の集合とその応用について学ぶ。
		事後学習	用語や表記法について確認する。
第12回	正規表現、オートマトンと計算可能性1	事前学習	授業HP「正規表現とオートマトン」に目を通しておく。
		学習内容	正規表現の性質、有限オートマトンとの関連について学ぶ。
		事後学習	有限オートマトンの動作をシミュレートする。
第13回		事前学習	正規表現やオートマトンについて復習しておく。

	正規表現、オートマトンと計算可能性2	学習内容	正規表現やオートマトンに関する演習を行う。
		事後学習	演習での間違いを確認し、正しく理解する。
教科書	『情報系のための離散数学』(猪俣俊光、南野謙一 著、共立出版、平成 12 年)		
参考書	『形式言語・オートマトン(第 2 版)』(富田悦次、横森貴 著、森北出版、令和 5 年)		
評価方法	<p>演習課題(10 点満点 * 6 回)と最終課題(40 点)による総合評価とする。</p> <p>成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。</p> <p>S:90 ~ 100 (GP4)、A:80 ~ 89 (GP3)、B:70 ~ 79 (GP2)、C:60 ~ 69 (GP1)、D:0 ~ 59 (GP0)</p>		

科目名	情報数学	科目区分	専門基幹科目	担当教員	山口 一章
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	情報工学に関連する数学的な基礎を学ぶ。				
授業の目的	情報工学の分野で必要とされる数学的な思考や表現、解析、設計などの能力を養う。				
授業の概要	<p>本科目は、情報工学に関連する数学的な基礎を学ぶ。命題論理を用いて論理的な記述や推論の方法を習得する。集合に関する帰納的定義について学んだ上で、数学的帰納法や背理法といった証明技法について学ぶ。順列組み合わせの数え上げの方法を学び、鳩の巣原理や包除原理を用いた証明法について学ぶ。同値関係や順序関係、基本的な写像および写像の合成といったデータ間のつながりを考察する方法を学ぶ。グラフという離散的な構造を表現する方法と性質について学ぶ。形式言語の基礎として正規言語と有限オートマトンの関係、計算量に関する基礎を学ぶ。</p>				
到達目標	論理的な記述や推論、証明の記述法などを理解し、集合やグラフの性質や定理を証明できるようになること。				
ディプロマ・ホルシ -との関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	命題論理	事前学習	教科書1章に目を通しておく。		
		学習内容	命題と論理式について学ぶ。		
		事後学習	基本的用語の定義を正しく理解する。		
第2回	集合の基礎	事前学習	教科書2章に目を通しておく。		
		学習内容	集合の記法、関係や演算について学ぶ。		
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。		
第3回	帰納的定義と証明技法	事前学習	教科書3章に目を通しておく。		
		学習内容	数学的帰納法、背理法について学ぶ。		
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。		
第4回	数え上げの基礎	事前学習	教科書4章に目を通しておく。		
		学習内容	順列組合せ、鳩の巣原理、包除原理、簿関数について学ぶ。		
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。		
第5回		事前学習	教科書5に目を通しておく。		

	関係	学習内容	関係の表記法、演算、同値関係、順序関係について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
第6回	関数の基礎	事前学習	教科書6章に目を通しておく。
		学習内容	関数の分類、合成、置換、再帰関数について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
第7回	グラフの基礎	事前学習	教科書7章に目を通しておく。
		学習内容	有向グラフ、無向グラフ、連結性やその他の性質について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
第8回	木と探索	事前学習	教科書8章に目を通しておく。
		学習内容	2分木、順序木、全域木、探索木について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
第9回	ネットワーク	事前学習	教科書9章に目を通しておく。
		学習内容	最短経路問題、マッチング、平面グラフ、彩色問題について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
第10回	形式言語理論の基礎	事前学習	授業HP「形式言語」に目を通しておく。
		学習内容	有限長系列の集合とその応用について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
第11回	正規表現	事前学習	授業HP「正規表現」に目を通しておく。
		学習内容	正規表現について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
第12回	オートマトン	事前学習	授業HP「オートマトン」に目を通しておく。
		学習内容	有限オートマトンとポンプの補題について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
第13回	計算量	事前学習	授業HP「計算量」に目を通しておく。
		学習内容	チューリング機械、計算可能性について学ぶ。
		事後学習	確認課題に取り組み授業内容を確認する。
教科書	『情報系のための離散数学』(猪俣俊光、南野謙一 著、共立出版、平成12年)		
参考書	『形式言語・オートマトン(第2版)』(富田悦次、横森貴 著、森北出版、令和5年)		
評価方法	<p>確認課題(5点満点*12回)と最終課題(40点)による総合評価とする。</p> <p>成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。</p> <p>S:90~100 (GP4)、A:80~89 (GP3)、B:70~79 (GP2)、C:60~69 (GP1)、D:0~59 (GP0)</p>		

新

科目名	情報処理	科目区分	専門基幹科目	担当教員	寶珍 輝尚
		単位数	2単位	授業形態	演習
授業テーマ	プログラム開発や応用のためのプログラミング手法を習得する。				
授業の目的	オブジェクト指向プログラミング、イベント駆動型プログラミングとグラフィカル・ユーザ・インタフェース(GUI)、ネットワークプログラミングについて学ぶ。				
授業の概要	<p>本科目は、まず、オブジェクト指向の考え方を学び、クラス、継承、オーバーロード、他クラスの利用を通してオブジェクト指向プログラミングについて学ぶ。次に、グラフィカル・ユーザ・インタフェース(GUI)の実現について学び、これを通してイベント駆動型プログラミングについて学ぶ。ここでは、GUIをうまく実現するための枠組みについても学ぶ。さらに、ネットワークプログラミングの基礎を習得する。最後に、これらを総合したプログラム課題に取り組む。</p>				
到達目標	<p>オブジェクト指向の考え方を理解し、クラスが利用できるようになる。 グラフィカル・ユーザ・インタフェース(GUI)が実現できるようになる。 基礎的なネットワークプログラミングができるようになる。</p>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル		内容		
第1回	オブジェクト指向(1) (歴史と考え方)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。		
		学習内容	オブジェクト指向の歴史と考え方を学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第2回	オブジェクト指向(2) (クラスとインスタンス)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。		
		学習内容	クラスとインスタンスについて学び、演習によりクラスとインスタンスを体得する。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第3回	オブジェクト指向(3) (継承、オーバーライド)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。		
		学習内容	継承、オーバーライドについて学び、演習により継承とオーバーライドを習得する。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第4回		事前学習	授業コンテンツと教科書で予習をしておく。		

	オブジェクト指向(4) (オーバーロード)	学習内容	オーバーロードについて学び、演習によりオーバーロードを習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第5回	オブジェクト指向(5) (他クラスの利用)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	他クラスの利用について学び、演習により他クラスの利用を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第6回	GUI(1) (GUIの基礎、GUI部品)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	GUIの基礎、GUI部品について学び、演習によりGUI部品の配置を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第7回	GUI(2) (イベント処理)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	イベント処理について学び、演習によりイベント処理を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第8回	GUI(3) (MVCモデル)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	MVC(モデル - ビューコントローラ)モデルについて学び、演習によりMVCモデルを習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第9回	ネットワークプログラミング (1)(TCP/IPとソケットの基礎)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	TCP/IPとソケットの基礎について学び、演習によりソケットの利用を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第10回	ネットワークプログラミング (2)(ソケットプログラミング)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	演習によりソケットプログラミングについて学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第11回	ネットワークプログラミング (3)(ウェブアプリケーションの基礎)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	ウェブアプリケーションの基礎について学び、演習によりウェブアプリケーションの基礎を習得する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第12回	システム設計	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	オブジェクト指向の考え方でGUIによりネットワークアクセスを行うシステムを設計する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第13回	システム実装	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	オブジェクト指向の考え方でGUIによりネットワークアクセスを行うシステムを実装する。

	事後学習	授業内容を復習し、最終課題を行う。
教科書	『速習 Python 3 中: オブジェクト指向編 Kindle 版』(伊藤裕一 著、平成 28 年)	
参考書	『Python による TCP/IP ソケットプログラミング』(小高知宏 著、オーム社、平成 31 年)	
評価方法	<p>1. 第 1 回から第 11 回の内容に即した「課題」を提供し、理解度を測る。 「課題」は 7 点満点で、計 77 点満点とする。</p> <p>2. 第 12 回と第 13 回の「総合演習課題」を提出する。「総合演習課題」は 23 点満点とする。</p> <p>1.及び2.により総合的に評価を行う。(「課題」と「最終課題」を合わせた 100 点満点のうち、60 点以上を合格とする。)</p> <p>成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)</p>	

科目名	情報処理	科目区分	専門基幹科目	担当教員	寶珍 輝尚
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	プログラム開発や応用のためのプログラミング手法を習得する。				
授業の目的	オブジェクト指向プログラミング、イベント駆動型プログラミングとグラフィカル・ユーザ・インタフェース(GUI)、ネットワークプログラミングについて学ぶ。				
授業の概要	<p>本科目は、まず、オブジェクト指向の考え方を学び、クラス、継承、オーバーロード、他クラスの利用を通してオブジェクト指向プログラミングについて学ぶ。次に、グラフィカル・ユーザ・インタフェース(GUI)の実現について学び、これを通してイベント駆動型プログラミングについて学ぶ。ここでは、GUIをうまく実現するための枠組みについても学ぶ。さらに、ネットワークプログラミングの基礎を習得する。最後に、これらを総合したプログラム課題に取り組む。</p>				
到達目標	<p>オブジェクト指向の考え方を理解し、クラスが利用できるようになる。 グラフィカル・ユーザ・インタフェース(GUI)が実現できるようになる。 基礎的なネットワークプログラミングができるようになる。</p>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル		内容		
第1回	オブジェクト指向(1) (歴史と考え方)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	オブジェクト指向の歴史と考え方を学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第2回	オブジェクト指向(2) (クラスとインスタンス)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	クラスとインスタンスについて学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第3回	オブジェクト指向(3) (継承、オーバーライド)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	継承、オーバーライドについて学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第4回	オブジェクト指向(4) (オーバーロード)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		
		学習内容	オーバーロードについて学ぶ。		
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。		
第5回		事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。		

	オブジェクト指向(5) (他クラスの利用)	学習内容	他クラスの利用について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第6回	GUI(1) (GUIの基礎、GUI部品)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	GUIの基礎、GUI部品について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第7回	GUI(2) (イベント処理)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	イベント処理について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第8回	GUI(3) (MVCモデル)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	MVC(モデル - ビューコントローラ)モデルについて学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第9回	ネットワークプログラミング (1)(TCP/IPとソケットの基礎)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	TCP/IPとソケットの基礎について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第10回	ネットワークプログラミング (2)(ソケットプログラミング)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	ソケットプログラミングについて学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第11回	ネットワークプログラミング (3)(ウェブアプリケーションの基礎)	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	ウェブアプリケーションの基礎について学ぶ。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第12回	システム設計	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	オブジェクト指向の考え方でGUIによりネットワークアクセスを行うシステムを設計する。
		事後学習	授業内容を復習し、課題を行う。
第13回	システム実装	事前学習	授業コンテンツと教科書で予習しておく。
		学習内容	オブジェクト指向の考え方でGUIによりネットワークアクセスを行うシステムを実装する。
		事後学習	授業内容を復習し、最終課題を行う。
教科書	『速習 Python 3 中: オブジェクト指向編 Kindle 版』(伊藤裕一 著、平成 28 年)		
参考書	『Python による TCP/IP ソケットプログラミング』(小高知宏 著、オーム社、平成 31 年)		
評価方法	<p>1. 第1回から第11回の内容に即した「課題」を提供し、理解度を測る。 「課題」は7点満点で、計77点満点とする。</p> <p>2. 第12回と第13回の「総合演習課題」を提出する。「総合演習課題」は23点満点とする。</p>		

1.及び2.により総合的に評価を行う。(「課題」と「最終課題」を合わせた100点満点のうち、60点以上を合格とする。)

成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。

S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)

科目名	R 言語プログラミング	科目区分	専門基礎科目	担当教員	本浦 庄太
		単位数	2単位	授業形態	演習
授業テーマ	R 言語プログラミングの基礎と主要パッケージの使用方法				
授業の目的	データサイエンスを行うための R 言語プログラミングスキルを習得する。				
授業の概要	<p>本科目は、R 言語プログラミングのスキルを習得する。R 言語は統計解析で用いられるプログラミング言語である。本授業は前半と後半から構成される。前半(1回～8回)では、RStudio と呼ばれる R 言語のための開発環境を用いた演習を通じて、R 言語の基本的な事項を理解しその操作方法を習得する。後半(9回～13回)では分析で使用されるパッケージと呼ばれるデータや関数をまとめたものについて理解し演習を通じてその操作方法を習得する。特に、tidyverse と呼ばれるパッケージ集に含まれるパッケージを用いたデータの操作方法を習得する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. R について、基本的な操作を実行するスクリプトを書くことができる。 2. tidyverse に含まれるパッケージに関して、基本的な操作を実行するスクリプトを書くことができる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	<p>数理学、データサイエンスに関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、数学的な論理や思考、データの統計的処理に基づいて、数理学・データサイエンスの手法を用いた課題解決をするための思考力を有している。</p>				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル		内容		
第1回	R の概要とインストール	事前学習	教科書1の付録Aを読み、RとRStudioのインストールを試みておき、どこでつまづいたかを把握しておく。		
		学習内容	Rの概要について理解する。さらにRおよびRStudioインストールの方法について理解し、事前学習のインストール時につまづいた箇所について、自ら実機で解決を試みる。		
		事後学習	RとRStudioのインストールを完了する。		
第2回	基本操作とパッケージ	事前学習	教科書1の1～2章を読む。		
		学習内容	RStudioのインターフェースの基本的な操作、関数やオブジェクトの概念と記述方法、およびパッケージ一般の基本的な使い方を、実際に処理を実行しながら習得する。		

		事後学習	教科書1の1～2章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第3回	オブジェクト	事前学習	教科書1の3章を読む。
		学習内容	Rのオブジェクトに関する操作方法を習得する。特に、アトムベクトルからデータフレームまでの操作方法を、実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書1の3章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第4回	Rの記法と値の書き換え	事前学習	教科書1の4～5章を読む。
		学習内容	データフレームなどのオブジェクト中の値の取り出し方や代入といった操作を、実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書1の4～5章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第5回	環境	事前学習	教科書1の6章を読む。
		学習内容	Rがオブジェクトを格納する領域である「環境」とは何かを理解し、環境に関する操作を実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書1の6章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第6回	プログラム	事前学習	教科書1の7章を読む。
		学習内容	Rでプログラムを書く基本的な方法を習得する。特に、if、else文やルックアップテーブルの使い方を実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書1の7章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「クイズ」と「練習問題」、「応用問題」を解く。
第7回	S3	事前学習	教科書1の8章を読む。
		学習内容	Rでオブジェクト指向プログラミングを行うためのS3システムについて理解し、その使い方を実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書1の8章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第8回	ループとスピード	事前学習	教科書1の9～10章を読む。
		学習内容	for、while、repeatのループを使った反復処理の自動化の方法と大規模なデータを処理するためのベクトル化と呼ばれる高速化手法を、実際に処理を実行しながら習得する。

		事後学習	教科書1の9～10章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」と「応用問題」を解く。
第9回	ggplot2	事前学習	教科書2の1章を読む。
		学習内容	ggplot2 と呼ばれるパッケージを用いてデータを可視化する方法を、実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書2の1章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第10回	dplyr (1): データ変換	事前学習	教科書2の2～3章に目を通す。
		学習内容	データフレームを操作するためのパッケージである dplyr を用いた操作のうち、単一のデータフレームに対する操作方法を、実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書2の2～3章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。また、教科書2の4～5章のサンプルコードを実行し「練習問題」を解くことを推奨する。
第11回	tidyr	事前学習	教科書2の6～9章を読む。
		学習内容	tibble 呼ばれるデータフレームと readr と呼ばれるファイル入出力用のパッケージの使い方、および tidyr を用いたデータの整理の方法を、実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書2の6～9章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第12回	dplyr (2): 関係データ	事前学習	教科書2の10章を読む。
		学習内容	dplyr を用いた複数のデータフレームを対象とした操作の方法を、実際に処理を実行しながら習得する。
		事後学習	教科書2の10章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第13回	その他のパッケージ	事前学習	教科書2の11章～13章を読む。
		学習内容	文字列を扱う stringr、ファクタ(カテゴリ変数)を扱う forcats、日付や時刻を扱う lubridate について、実際に処理を実行しながらその操作方法を習得する。
		事後学習	教科書2の11章～13章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。

教科書	『RStudioではじめるRプログラミング入門』（Garrett Golemund 著、大橋真也 監訳、長尾高弘 訳、オライリー・ジャパン、平成 27 年） 『Rではじめるデータサイエンス』（Hadley Wickham、Garrett Golemund 著、黒川利明 訳、大橋真也 技術監修、オライリー・ジャパン、平成 29 年）
参考書	なし
評価方法	各回の終わりに、事後学習に関連したレポート課題を提示する。そのレポートの評価を各回の課題の難易度に合わせて重み付き和を取り、この授業の最終評価とする。 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S:90～100(GP4)、A:80～89(GP3)、B:70～79(GP2)、C:60～69(GP1)、D:0～59(GP0)

科目名	R 言語プログラミング	科目区分	専門基礎科目	担当教員	本浦 庄太
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	R 言語プログラミングの基礎と主要パッケージの使用方法				
授業の目的	データサイエンスを行うための R 言語プログラミングスキルを習得する。				
授業の概要	<p>本科目は、R 言語について学習する。R 言語は統計解析で用いられるプログラミング言語である。本授業では前半と後半から構成される。前半(1回～8回)では、RStudio と呼ばれる R 言語のための開発環境を用いながら、R 言語の基本的な事項と操作について学習する。後半(9回～13回)では分析で使用されるパッケージと呼ばれるデータや関数をまとめたものについて学習する。特に、tidyverse と呼ばれるパッケージ集に含まれるパッケージを用いたデータの操作について学習する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. R について、基本的な操作を実行するスクリプトを書くことができる。 2. tidyverse に含まれるパッケージに関して、基本的な操作を実行するスクリプトを書くことができる。 				
ディプロマ・ホリソンの関連	<p>数理科学・データサイエンス学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、数学的な論理や思考に基づいた、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。</p>				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル		内容		
第1回	R の概要とインストール	事前学習	教科書1の付録Aを読み、R と RStudio のインストールを試みておき、どこでつまずいたかを把握しておく。		
		学習内容	R の概要について理解する。さらに R および RStudio インストールの方法について理解し、事前学習のインストール時につまずいた箇所の解決法を知る。		
		事後学習	R と RStudio をインストールする。		
第2回	基本操作とパッケージ	事前学習	教科書1の1～2章を読む。		
		学習内容	RStudio のインターフェースの基本的な操作を理解する。また、関数やオブジェクトの概念と記述方法を理解する。さらに、パッケージ一般の基本的な使い方理解する。		
		事後学習	教科書1の1～2章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。		
第3回	オブジェクト	事前学習	教科書1の3章を読む。		

		学習内容	R のオブジェクトについて学習する。特に、アトミックベクトルからデータフレームまでを学習する。
		事後学習	教科書1の3章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第4回	R の記法と値の書き換え	事前学習	教科書1の4～5章を読む。
		学習内容	データフレームなどのオブジェクト中の値の取り出し方や代入といった操作について学習する。
		事後学習	教科書1の4～5章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第5回	環境	事前学習	教科書1の6章を読む。
		学習内容	R がオブジェクトを格納する領域である「環境」とは何かと、R がどのように環境を使っているかを理解する。
		事後学習	教科書1の6章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第6回	プログラム	事前学習	教科書1の7章を読む。
		学習内容	R でプログラムを書く基本的な方法を学ぶ。特に、if、else 文やルックアップテーブルについて学ぶ。
		事後学習	教科書1の7章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「クイズ」と「練習問題」、「応用問題」を解く。
第7回	S3	事前学習	教科書1の8章を読む。
		学習内容	R でオブジェクト指向プログラミングを行うための S3 システムについて学ぶ。
		事後学習	教科書1の8章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第8回	ループとスピード	事前学習	教科書1の9～10章を読む
		学習内容	for、while、repeat のループを使った反復処理の自動化の方法を学ぶ。さらに、大規模なデータを処理するためのベクトル化と呼ばれる高速化手法を学ぶ。
		事後学習	教科書1の9～10章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」と「応用問題」を解く。
第9回	ggplot2	事前学習	教科書2の1章を読む
		学習内容	ggplot2 と呼ばれるパッケージを用いたデータの可視化を学ぶ。

		事後学習	教科書2の1章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第10回	dplyr (1): データ変換	事前学習	教科書2の2～3章に目を通す
		学習内容	データフレームを操作するためのパッケージである dplyr を用いた操作のうち、単一のデータフレームに対する操作を学ぶ。
		事後学習	教科書2の2～3章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。また、教科書2の4～5章のサンプルコードを実行し「練習問題」を解くことを推奨する。
第11回	tidyr	事前学習	教科書2の6～9章を読む
		学習内容	tibble と呼ばれるデータフレームと readr と呼ばれるファイル入出力用のパッケージについて学んだ後、tidyr によるデータの整理の方法について学ぶ。
		事後学習	教科書2の6～9章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第12回	dplyr (2): 関係データ	事前学習	教科書2の10章を読む
		学習内容	dplyr による複数のデータフレームを対象とした操作について学ぶ。
		事後学習	教科書2の10章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
第13回	その他のパッケージ	事前学習	教科書11章～13章を読む
		学習内容	文字列を扱う stringr、ファクタ(カテゴリ変数)を扱う forcats、日付や時刻を扱う lubridate について学ぶ。
		事後学習	教科書2の11章～13章のサンプルコードを実行し処理を理解する。さらに、「練習問題」を解く。
教科書	『RStudio ではじめる R プログラミング入門』 (Garrett Golemund 著、大橋真也 監訳、長尾高弘 訳、オライリー・ジャパン、平成 27 年) 『R ではじめるデータサイエンス』 (Hadley Wickham, Garrett Golemund 著、黒川利明 訳、大橋真也 技術監修、オライリー・ジャパン、平成 29 年)		
参考書	なし		
評価方法	各回の終わりに、事後学習に関連したレポート課題を提示する。そのレポートの評価を各回の課題の難易度に合わせて重み付き和を取り、この授業の最終評価とする。 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S: 90～100 (GP4)、A: 80～89 (GP3)、B: 70～79 (GP2)、C: 60～69 (GP1)、D: 0～59 (GP0)		

新

科目名	コンピュータグラフィックス	科目区分	専門発展科目	担当教員	佐藤宏介
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	撮影原理に基づく画像や映像、アニメーションの作成並びに処理する技術を学ぶ。				
授業の目的	カメラ撮影を模倣したコンピュータグラフィックスの基礎理論と実装技法を理解します。2D および 3D 世界のモデル化と変換、レンダリング、アニメーションを包括的に習得します。グラフィックスプログラミングを通して、情報システムの様々な表示系に対応できる専門的な活躍の基盤とします。				
授業の概要	本科目は、情報処理の基幹知識を統合し、2D/3D グラフィックスを基本から実践的な応用レベルまでを幅広く取り扱う。3次元対象の撮影原理に基づき3次元物体とカメラ撮像の数学モデルから、光源照明モデルと物体反射モデル、テクスチャ表現、画素のレンダリング処理までに至るコンピュータグラフィックス全体の手続きと内部データの流れ、各段階の具体的な処理手法を学ぶ。次にアニメーションの原理や物理シミュレーションとの関係を学び、これらを実践的な三次元 CG グラフィックス統合環境 Unity の手続きとしてプログラム記述できる能力を身に付ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータグラフィックスの基本概念と基盤技術を数学的に理解でき、それらと物理法則との関係を説明できる。 ・コンピュータグラフィックスにおける基礎表現と高質感表現との連携を理解し、各具体技術の利点と限界を評価し、現実のグラフィックス表現要求に対して適切なグラフィックス処理技術を選択できる。 ・特定のプログラミング環境と描画ライブラリにおいてグラフィックス表現を一連の手続きとして記述でき、実践的な三次元 CG グラフィックス統合環境 Unity 上で自らのグラフィックスプログラミングにより描画して作品制作できる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	コンピュータグラフィックスの概要	事前学習	指定教科書の章構造を確認し、Python や Processing 言語の開発環境を確認する。		
		学習内容	コンピュータグラフィックスの数学的表現として、ピンホールカメラと画像平面によるモデル、並びに画像背面の標本化と画素明暗軸の量子化とを学ぶ。		
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。		
第2回	座標変換	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。		

		学習内容	2次元図形の座標変換と行列演算との関係を理解し、幾何変換とアフィン変換との関係、加えて同次座標系表現から3次元の幾何変換とその連続合成を実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第3回	3次元図形処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	3次元モデルから2次元画素配列に至る3次元CG全体の処理手順を理解し、クリッピング処理とビューポート変換、隠面消去処理を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第4回	3次元形状表現	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	3次元形状表現として、多面体形状のポリゴン表現、エッジ構造とそれに基づく自由形状の近似的レンダリングを実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第5回	自由曲線・自由曲面	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	ベジェ曲線、Bスプライン曲線の自由曲線表現の理解を通して、3次元曲面の数学表現を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第6回	ウェブCG表現応用(1)	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	第1回から第5回までで学んだ要素技術と、実用的なウェブ上のCG表現との関係をプログラミング言語を通して実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第7回	質感付加	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	レンダリング時の質感付加技法として、テクスチャマッピング、法線マッピング、環境マッピングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第8回	反射モデル	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	高質感表現における光源-物体間の光学関係を双方向反射率分布関数に基づく反射モデルとして、

			Phong 反射モデル、Torrance-Sparrow 反射モデルを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第9回	照明計算	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	高質感表現における光源-物体間の光学関係における照明・陰影モデルとして、光源種と影付け、大域照明をイメージベース手法とともに学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第10回	レイトレーシング	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	レイトレーシング法を概覧し、内部処理の光線と物体モデルとの交点計算、反射・屈折による光線追跡やフォトンマッピングについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第11回	アニメーション	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	アニメーション法を概覧し、キーフレームアニメーション、ボーン表現によるキャラクターアニメーション、柔軟体や流体の表現法について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第12回	物理シミュレーション	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	風による揺れや物体の弾性反射等を高リアリティでアニメーション表現するために必要な、物理現象のシミュレーション技法について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第13回	ウェブCG表現応用(2)	事前学習	教科書全体を復読し、専門用語を見直しておく。
		学習内容	第7回から第12回までで学んだ要素技術と、実用的なウェブ上のアニメーション表現との関係をプログラミング言語を通して実践する。
		事後学習	課題レポート全体を見直し、まとめて仕上げる。
教科書	『IT Text コンピュータグラフィックスの基礎』(宮崎大輔、床井浩平、結城修、吉田典正著、オーム社、令和2年)		
参考書	参考文献については、オリエンテーション時に指定する。		

評価方法

1. 各回の内容に即した「授業課題」を授業中に実施し、理解度を測る。「授業課題」は5点満点で、60点満点(12回分)とする。
2. 事後学習の一環として「課題レポート」を課し、提出する。「課題レポート」は40点満点とする。以上 1.及び 2.を用いて総合的に評価を行う。(「授業課題」と「課題レポート」を合わせた100点満点のうち、60点以上を合格とする。) 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。
S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)

科目名	コンピュータグラフィクス	科目区分	専門発展科目	担当教員	佐藤 宏介
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	撮影原理に基づく画像や映像、アニメーションの作成並びに処理する技術を学ぶ。				
授業の目的	カメラ撮影を模倣したコンピュータグラフィクスの基礎理論と実装技法を理解します。2D および 3D 世界のモデル化と変換、レンダリング、アニメーションを包括的に習得します。グラフィックスプログラミングを通して、情報システムの様々な表示系に対応できる専門的な活躍の基盤とします。				
授業の概要	本科目は、2D/3D グラフィックスを基本から応用レベルまでを幅広く取り扱う。3 次元対象の撮影原理に基づき 3 次元物体とカメラ撮像の数学モデルから、光源照明モデルと物体反射モデル、テクスチャ表現、画素のレンダリング処理までに至るコンピュータグラフィックス全体の手続きと内部データの流れ、各段階の具体の処理手法を学ぶ。次にアニメーションの原理や物理シミュレーションとの関係を学び、これらをグラフィックス言語の手続きとしてプログラム記述できる能力を身に付ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータグラフィックスの基本概念と基盤技術を数学的に理解でき、それらと物理法則との関係を説明できる。 ・コンピュータグラフィックスにおける基礎表現と高質感表現との連携を理解し、各具体技術の利点と限界を評価し、現実のグラフィックス表現要求に対して適切なグラフィックス処理技術を選択できる。 ・特定のプログラミング環境と描画ライブラリにおいてグラフィックス表現を一連の手続きとして記述でき、自らのグラフィックスプログラミングにより描画して作品制作できる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は 105 分)				
	タイトル		内容		
第1回	コンピュータグラフィクスの概要	事前学習	指定教科書の章構造を確認し、Python や Processing 言語の開発環境を確認する。		
		学習内容	コンピュータグラフィックスの数学的表現として、ピンホールカメラと画像平面によるモデル、並びに画像背面の標本化と画素明暗軸の量子化とを学ぶ。		
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。		
第2回	座標変換	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。		
		学習内容	2 次元図形の座標変換と行列演算との関係を理解し、幾何変換とアフィン変換との関係、加えて同次		

			座標系表現から3次元の幾何変換とその連続合成を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第3回	3次元図形処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	3次元モデルから2次元画素配列に至る3次元CG全体の処理手順を理解し、クリッピング処理とビューポート変換、隠面消去処理を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第4回	3次元形状表現	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	3次元形状表現として、多面体形状のポリゴン表現、エッジ構造とそれに基づく自由形状の近似的レンダリングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第5回	自由曲線・自由曲面	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	ベジェ曲線、Bスプライン曲線の自由曲線表現の理解を通して、3次元曲面の数学表現を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第6回	ウェブCG表現基本技術	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	第1回から第5回までで学んだ要素技術と、実用的なウェブ上のCG表現との関係をプログラミング言語を通して学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第7回	質感付加	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	レンダリング時の質感付加技法として、テクスチャマッピング、法線マッピング、環境マッピングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第8回	反射モデル	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	高質感表現における光源-物体間の光学関係を双方向反射率分布関数に基づく反射モデルとして、Phong反射モデル、Torrance-Sparrow反射モデルを学ぶ。

		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第9回	照明計算	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	高質感表現における光源-物体間の光学関係における照明・陰影モデルとして、光源種と影付け、大域照明をイメージベース手法とともに学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第10回	レイトレーシング	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	レイトレーシング法を概覧し、内部処理の光線と物体モデルとの交点計算、反射・屈折による光線追跡やフォトンマッピングについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第11回	アニメーション	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	アニメーション法を概覧し、キーフレームアニメーション、ボーン表現によるキャラクタアニメーション、柔軟体や流体の表現法について学ぶ
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第12回	物理シミュレーション	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	風による揺れや物体の弾性反射等を高リアリティでアニメーション表現するために必要な、物理現象のシミュレーション技法について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第13回	ウェブCG表現応用技術	事前学習	教科書全体を復読し、専門用語を見直しておく。
		学習内容	第7回から第12回までで学んだ要素技術と、実用的なウェブ上のアニメーション表現との関係をプログラミング言語を通して学ぶ。
		事後学習	課題レポート全体を見直し、まとめて仕上げる。
教科書	『IT Text コンピュータグラフィックスの基礎』（宮崎大輔、床井浩平、結城修、吉田典正 著、オーム社、令和2年）		
参考書	参考文献については、オリエンテーション時に指定する。		
評価方法	1. 各回の内容に即した「授業課題」を授業中に実施し、理解度を測る。「授業課題」は5点満点で、60点満点(12回分)とする。		

2. 事後学習の一環として「課題レポート」を課し、提出する。「課題レポート」は40点満点とする。以上 1.及び 2.を用いて総合的に評価を行う。(「授業課題」と「課題レポート」を合わせた100点満点のうち、60点以上を合格とする。) 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。
S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)

新

科目名	画像・音声・情報処理	科目区分	学科発展科目	担当教員	佐藤宏介
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	音声と画像をデジタルメディアを処理するための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードとともに学ぶ。				
授業の目的	デジタルメディア処理の基礎的な概念を習得済みの学生に対して、情報処理の基幹知識を統合して音声と画像をするための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードとともに学ぶことで、音声と画像に関係する情報処理システムを構築する際に必要となる知識と技能を涵養する。それにより、産業用画像検査のアルゴリズムを題材にして、卒業研究で必要となる実践的なマルチメディア処理アプリケーション開発に繋げる。				
授業の概要	本科目は、デジタルメディア処理の最先端技術の多くは高度な数学的背景に基づいて設計されており、それらの技術を習得し、活用する際に必要となる、音声・画像データの変換と雑音除去、そして認識するための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードに対応付けながら学ぶ。音声や画像等のパターン情報は、時間周波数や空間周波数等の他の数学的表現で取り扱うことが問題解決に繋がるため、音声処理と画像処理の共通性を意識しながら、その数学的処理の知識と技能の習得を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音や画像のデジタルデータをサンプリング、量子化としての表現方法と特性を理解し、説明できる。 ・フーリエ変換などの数学的手法を適用し、音や画像データの解析法や変換法を理解し、説明できる。 ・音や画像のフィルタリングなどの基本的な処理を理解し、限定されたデータに対して具体的にプログラミングできる。 ・産業画像検査アルゴリズム(ノイズ除去、特徴抽出、異常検査など)を実施できるようになる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	簡単な音声処理	事前学習	指定教科書の章構造を確認し、Python 開発環境を確認する。		
		学習内容	1次元データの可視化と時間波形の線形重畳、加えて音声データの加工法について実践する。		
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。		
第2回	簡単な画像処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。		

		学習内容	カメラと静止画像・動画像の対応関係と画像領域抽出手法、加えてプログラミング言語における画像入力法について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第3回	音声のフーリエ変換	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	フーリエ変換と逆フーリエ変換、窓関数、音声のフレーム処理について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第4回	フィルタ(音声)	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	周波数フィルタとして、線形フィルタとインパルス応答を理解し、FIR フィルタ、IIR フィルタ、移動平均フィルタについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第5回	画像の周波数領域処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	空間周波数を理解し、2次元フーリエ変換と逆変換、周波数領域でのフィルタ処理について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第6回	画像の空間領域処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	2次元畳み込みを理解し、微分オペレータ、エッジ検出、平滑化フィルタについて実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第7回	音声データの相関	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	一次元信号間の相関を理解し、ベクトル類似度、相互相関関数、自己相関について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第8回	画像データの類似度	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像の類似度を理解し、領域の相関、テンプレートマッチングについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。

第9回	複素信号	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	信号の複素指数関数表現を理解し、位相と瞬時周波数との関係、任意音の周波数変調について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第10回	画像の幾何学的処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像の回転、平行移動、拡大縮小に関して、同次座標表現、アフィン変換、射影変換を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第11回	分類	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	短時間エネルギー、零交差等の画像特徴量を理解し、k最近傍分類法等の画像クラスタリングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第12回	画像処理の応用	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像間や画像特徴の類似度や変化の検出法についてステレオ画像処理のマッチング処理について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第13回	産業用画像検査応用	事前学習	教科書全体を復読し、専門用語を見直しておく。
		学習内容	産業用画像検査システムの構造とプログラミング言語の画像処理ライブラリの利用法について実践する。
		事後学習	課題レポートを精査し仕上げる。
教科書	『Python で学ぶ実践画像・音声処理入門』伊藤克亘、花泉弘、小泉悠馬著、コロナ社、平成30年)		
参考書	参考文献については、オリエンテーション時に指定する。		
評価方法	<p>1. 各回の内容に即した「授業課題」を授業中に実施し、理解度を測る。「授業課題」は5点満点で、60点満点(12回分)とする。</p> <p>2. 事後学習の一環として「課題レポート」を課し、提出する。「課題レポート」は40点満点とする。以上1.及び2.を用いて総合的に評価を行う。(「授業課題」と「課題レポート」を合わせた100点満点のうち、60点以上を合格とする。)成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S:90~100 (GP4)、A:80~89 (GP3)、B:70~79 (GP2)、C:60~69 (GP1)、D:0~59 (GP0)</p>		

科目名	画像・音声・情報処理	科目区分	専門発展科目	担当教員	佐藤 宏介
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	音声と画像をデジタルメディアを処理するための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードとともに学ぶ。				
授業の目的	デジタルメディア処理の基礎的な概念を習得済みの学生に対して、音声と画像をするための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードとともに学ぶことで、音声と画像に関係する情報処理システムを構築する際に必要となる知識と技能を涵養する。それにより、卒業研究で必要となる具体のマルチメディア処理アプリケーション開発への導入とする。				
授業の概要	本科目は、デジタルメディア処理の最先端技術の多くは高度な数学的背景に基づいて設計されており、それらの技術を習得し、活用する際に必要となる、音声・画像データの変換と雑音除去、そして認識するための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードに対応付けながら学ぶ。音声や画像等のパターン情報は、時間周波数や空間周波数等の他の数学的表現で取り扱うことが問題解決に繋がるため、音声処理と画像処理の共通性を意識しながら、その数学的処理の知識と技能の習得を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音や画像のデジタルデータをサンプリング、量子化としての表現方法と特性を理解し、説明できる。 ・フーリエ変換などの数学的手法を適用し、音や画像データの解析法や変換法を理解し、説明できる。 ・音や画像のフィルタリングなどの基本的な処理を理解し、限定されたデータに対して具体的にプログラミングできる。 ・実際のタスク(ノイズ除去、特徴抽出など)を実施できるようになる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	簡単な音声処理	事前学習	指定教科書の章構造を確認し、Python 開発環境を確認する。		
		学習内容	1次元データの可視化と時間波形の線形重畳、加えて音声データの加工法について学ぶ。		
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。		
第2回	簡単な画像処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。		

		学習内容	カメラと静止画像・動画像の対応関係と画像領域抽出手法、加えてプログラミング言語における画像入力法について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第3回	音声のフーリエ変換	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	フーリエ変換と逆フーリエ変換、窓関数、音声のフレーム処理について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第4回	フィルタ(音声)	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	周波数フィルタとして、線形フィルタとインパルス応答を理解し、FIR フィルタ、IIR フィルタ、移動平均フィルタについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第5回	画像の周波数領域処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	空間周波数を理解し、2次元フーリエ変換と逆変換、周波数領域でのフィルタ処理について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第6回	画像の空間領域処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	2次元畳み込みを理解し、微分オペレータ、エッジ検出、平滑化フィルタについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第7回	音声データの相関	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	一次元信号間の相関を理解し、ベクトル類似度、相互相関関数、自己相関について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第8回	画像データの類似度	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像の類似度を理解し、領域の相関、テンプレートマッチングについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第9回	複素信号	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。

		学習内容	信号の複素指数関数表現を理解し、位相と瞬時周波数との関係、任意音の周波数変調について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 10 回	画像の幾何学的処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像の回転、平行移動、拡大縮小に関して、同次座標表現、アフィン変換、射影変換を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 11 回	分類	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	短時間エネルギー、零交差等の画像特徴量を理解し、k 最近傍分類法等の画像クラスタリングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 12 回	音声・画像処理の応用	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	音響信号の合成法と画像間の变化領域の解析法について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 13 回	応用	事前学習	教科書全体を復読し、専門用語を見直しておく。
		学習内容	マルチメディア処理アプリケーションの構造とプログラミング言語の音声・画像処理ライブラリとその利用法について学ぶ。
		事後学習	課題レポートを精査し仕上げる。
教科書	『Python で学ぶ実践画像・音声処理入門』伊藤克亘、花泉弘、小泉悠馬 著、コロナ社、平成 30 年)		
参考書	参考文献については、オリエンテーション時に指定する。		
評価方法	<p>1. 各回の内容に即した「授業課題」を授業中に実施し、理解度を測る。「授業課題」は 5 点満点で、60 点満点(12 回分)とする。</p> <p>2. 事後学習の一環として「課題レポート」を課し、提出する。「課題レポート」は 40 点満点とする。以上 1.及び 2.を用いて総合的に評価を行う。(「授業課題」と「課題レポート」を合わせた 100 点満点のうち、60 点以上を合格とする。) 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)</p>		

(1) 学則案の全文

追手門学院大学学則

昭和41年4月1日

制定

第1章 総則

第1条 本大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門的な知識を授け、その研究と応用の能力を養うことを目的とし、高い人格教養と優れた健康を併せそなえ、国家の発展と社会福祉の増進に寄与する独自の実践力に富む指導的人材の育成を使命とする。

第2条 本大学は、「追手門学院大学」と称する。

第3条 削除

第2章 組織

第4条 本大学に次の学部及び学科を置く。

文学部 人文学科

国際学部 国際学科

心理学部 心理学科

社会学部 社会学科

法学部 法律学科

経済学部 経済学科

経営学部 経営学科

地域創造学部 地域創造学科

理工学部 数理・データサイエンス学科

機械工学科

電気電子工学科

情報工学科

2 本大学に共通教育機構を置く。

3 共通教育機構に関する規程は、別に定める。

第5条 本大学の修業年限は、4年とする。

2 在学年限は、8年を超えることができない。

第6条 本大学各学部及び学科の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	人文学科	220名	5名	890名
国際学部	国際学科	150名	5名	610名
心理学部	心理学科	220名	10名	900名
社会学部	社会学科	350名	7名	1,414名
法学部	法律学科	230名		920名
経済学部	経済学科	400名	10名	1,620名
経営学部	経営学科	443名	7名	1,786名
地域創造学部	地域創造学科	230名		920名
理工学部	数理・データサイエンス学科	30名		120名
	機械工学科	50名		200名
	電気電子工学科	50名		200名
	情報工学科	70名		280名
	計	200名		800名

第7条 本大学に大学院を置く。

2 大学院に関する規程は、別に定める。

第3章 学年、学期及び休業日

第8条 本大学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年は、春学期と秋学期の2学期に分け、期間については別に定める。

第9条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 学院創立記念日（5月29日）
- (4) 本学が定めた夏期、冬期及び春期休業日

2 前項第4号の休業期間は、本学学年暦による。

3 学長は、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第4章 教育課程

第10条 授業科目は、共通教育科目、学科科目及び資格取得に関する科目に分ける。

第11条 共通教育科目及び学科科目の名称及び単位数並びに卒業に必要な単位数は、別表第1のとおりとする。

第12条 教育課程は、各授業科目を、必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

第13条 削除

第14条 本大学における卒業の要件は、124単位以上を修得することのほか、本大学が定めることとする。

第15条 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）の規定により、卒業後中学校又は高等学校の教員の免許状を得ようとする者のために教職課程を置く。

2 本大学において、教職課程の履修により授与資格を取得できる免許状の種類及び教科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	教科
文学部	人文学科	中学校教諭一種免許状	国語 社会
		高等学校教諭一種免許状	国語 地理歴史
国際学部	国際学科	中学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	英語
心理学部	心理学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
社会学部	社会学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
経済学部	経済学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史 公民 商業
経営学部	経営学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民 商業
地域創造学部	地域創造学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民

3 教職課程における資格取得に関する科目の種類及び単位数は、別表第2のとおりとする。

4 教職課程に関する規程は、別に定める。

第16条 博物館法（昭和26年法律第285号）の規定により、卒業後学芸員の資格を得ようとする者のために、博物館に関する科目を設ける。

2 博物館に関する科目の種類及び単位数は、別表第3のとおりとする。

3 学芸員資格取得のための履修規程は、別に定める。

第17条 社会教育法（昭和24年法律第207号）の規定により、社会教育主事となる資格及び社会教育士（養成課程）の称号を得ようとする者のために、社会教育主事の養成に係る社会教育に関する科目を設ける。

2 社会教育主事の養成に係る社会教育に関する科目の種類及び単位数は、別表第4のとおりとする。

3 社会教育主事となる資格及び社会教育士（養成課程）の称号を得るための履修規程は、別に定める。

第18条 削除

第19条 各授業科目の単位は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

4 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

5 本大学は、第3項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

6 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第3項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

第20条 一年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、十分な教育効果を上げることができるよう、8週、10週、15週

その他の本大学が定める適切な期間を単位として行うものとする。

第20条の2 本大学が一の授業科目について同時に授業を行う学生数は、授業の方法及び施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分に上げられるような適当な人数とするものとする。

第21条 本大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第5章 科目修了、卒業及び学位

第22条 本大学は、一の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の本大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。

2 成績評点は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。

3 合格を得た科目に対して所定の単位を与える。

第23条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第24条第2項の場合に準用する。

3 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った第24条の2第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与えることができる。

4 前3項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第24条第1項(同条第2項において準用する場合を含む。)及び第24条の2第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第24条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が、外国の大学(専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。)又は外国の短期大学に留学する場合、外国の大学又は外国の短期大学が行う通信教

育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第24条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第25条 各科目とも出席すべき授業時数の3分の1以上欠席した者は、科目修了の認定を受けることができない。

第26条 卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第19条第4項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

第27条 本大学を卒業した者には、次のとおり学位を授与する。

文学部

人文学科 学士（文学）

国際学部

国際学科 学士（国際学）

心理学部

心理学科 学士（心理学）

社会学部

社会学科 学士（社会学）

法学部

法律学科 学士（法学）

経済学部

経済学科 学士（経済学）

経営学部

経営学科 学士（経営学）

地域創造学部

地域創造学科 学士（地域創造学）

理工学部

数理・データサイエンス学科 学士（理学）

機械工学科 学士（工学）

電気電子工学科 学士（工学）

情報工学科 学士（工学）

2 学位及び学位授与に関しては、本学則に定めるもののほか、本大学学位規程の定めるところによる。

第6章 入学、編入学、転学、在学、休学及び退学

第28条 入学の時期は、毎学年の始めとする。ただし、再入学については、学期の始めとすることができる。

第29条 本大学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程で文部科学大臣が指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程により大学入学資格検定に合格した者を含む）
- (8) 本大学における個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

第30条 入学志願者に対して、検定を行い選抜する。検定の方法は、別に定める。

2 入学は、学部会議の意見を聴き学長が決定する。

第31条 入学に必要な手続は、別に定める。

第32条 所定の期日までに入学手続を履行しない者は、入学の許可を取り消す。

第33条 本大学の第3年次へ編入学又は他大学から本大学に転学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とし、選考の上、これを許可する。

- (1) 大学を卒業した者又は学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定に

より学士の学位を授与された者

- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であること、その他文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- (6) 高等学校等の専攻科のうち、文部科学大臣が定める基準を満たすものを修了した者（学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

2 前項により入学した者の既修得単位の認定に関する事項については、別に定める。

第34条 前条により編入学又は転学を許可された者は、第5条の規定にかかわらず、修業年限は2年とし、在学年限は4年を超えることができない。

第35条 本大学の他学部への転学部及び他学科への転学科は、欠員がある場合に限り、選考の上、第2年次又は第3年次の始めにおいて許可することがある。

第36条 病気その他やむを得ない理由で修学できない場合は、保証人連署の上、休学願を学部長に提出し、その許可を得てその学期又はその年度を休学することができる。ただし、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 休学の期間は、引き続き2年を超えることができない。

3 休学の期間は、通算して3年を超えることができない。

4 休学の期間は、在学年数に算入しない。

第37条 休学の理由が消滅し、復学しようとするときは、復学願を学部長に提出し、その承認を得なければならない。

第38条 休学中は、授業料その他の学費を減免する。

2 前項により減免する授業料その他の学費及びその額は、別にこれを定める。

第39条 退学しようとする者は、その事由を具して保証人連署の上、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第40条 前条により退学した者又は除籍された者が同一の学科に再入学を願い出たときは、退学又は除籍後2年以内に限り、選考の上許可することがある。ただし、第66条第1号の規定により除籍された者は、再入学を許可しない。

第41条 他の大学へ入学又は転学を志望するときは、学長の許可を受けなければならない。

第7章 委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人特別学生

第42条 学校、官庁その他の公共団体等から特定の学科目を指定して修学を委託されたときは、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

第43条 本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して履修を願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生がその履修した授業科目の試験を受け、合格した授業科目については、単位を与える。

第44条 本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

第45条 本大学において研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

第46条 外国人で第29条に定める資格を有する者が、第30条によらないで本邦所在の外国公館の推薦により出願するときは、選考の上、外国人特別学生として入学を許可することがある。

2 外国人特別学生には、本学則の規定を準用する。

第47条 委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人特別学生に関する規則は、この学則に定めるもののほか、別に定める。

第48条 第1条から第4条まで、第7条から第11条まで、第15条から第21条まで、第31条、第32条、第39条、第42条から第45条まで、前条、第53条、第54条、第57条から第61条まで、第64条から第66条までの規定は、委託生、科目等履修生、聴講生及び研究生に準用する。

2 前項に定める規定のほか、第28条、第29条の規定は、委託生及び聴講生に準用する。

3 第1項に定める規定のほか、第23条、第25条、第29条の規定は、科目等履修生に準用する。

第8章 入学検定料、入学金、授業料等

第49条 本大学に入学を出願する者は、入学検定料を納付しなければならない。

2 前項に定める入学検定料の額については、追手門学院大学授業料等納付規程にこれを定める。

3 既納の入学検定料は、いかなる事情があっても返付しない。

第50条 本大学に入学を許可された者は、入学金及び所定の学費を納付しなければならない。

2 入学金は、160,000円とする。

第51条 学生は、授業料他所定の学費を納付しなければならない。

第52条 授業料その他学費の額は、別表第6のとおりとし、その徴収については別にこれを定める。

第53条 委託生は、次に定める研修指導費を納付しなければならない。

(1) 非実験系 月額 15,000円

(2) 実験系 月額 20,000円

2 科目等履修生は、次に定める審査料及び履修料を納付しなければならない。

(1) 履修を出願するとき

審査料 15,000円

本大学の卒業者又は科目等履修生継続者は免除する。

(2) 履修を許可されたとき

履修料 1単位につき 15,000円

3 聴講生は、次に定める審査料及び聴講料を納付しなければならない。

(1) 聴講を出願するとき

審査料 10,000円

本大学の卒業者又は聴講生継続者は免除する。

(2) 聴講を許可されたとき

聴講料 1単位につき 8,000円

4 研究生は、次に定める審査料及び研究指導費を納付しなければならない。

(1) 研究生として出願するとき

審査料 15,000円

本大学の卒業者又は研究生継続者は免除する。

(2) 研究生として許可されたとき

研究指導費 300,000円

本大学の卒業者又は研究生継続者は、研究指導費の半額を免除する。

第54条 既納の入学金、授業料その他の学費、研修指導費、履修料、聴講料、審査料及び研究指導費は、いかなる事情があっても返付しない。

2 前項の規定にかかわらず、本大学に入学を許可された者が指定の期日までに入学辞退を申し出た場合は、その請求により入学金を除く授業料その他の学費を返付する。

3 前項の返付に関する取扱いは、別に定める。

第9章 職員組織

第55条 本大学に教員及び事務職員を置く。

- 2 教員を分けて教授、准教授、講師及び助教とする。
- 3 事務職員の職制については、別に定める。

第56条 本大学に学長、副学長、学部長及び副学部長を置く。

- 2 学長は、校務を掌り所属教職員を統督する。
- 3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務を掌る。副学長に関する規程は、別に定める。
- 4 学部長は、当該学部の学務を管掌する。
- 5 副学部長は、学部長を補佐し、学部長の指示の下で、学部の業務を掌理する。

第10章 全学教授会、学部会議、教育研究評議会及び委員会

第57条 本大学に全学教授会、学部会議、教育研究評議会及び必要に応じ各種委員会を置く。

- 2 全学教授会、学部会議及び教育研究評議会は、学長の諮問機関とする。
- 3 全学教授会、学部会議及び教育研究評議会について必要な事項に関する規程並びに各種委員会に関する規程は、別に定める。

第11章 附置施設及び附属図書館

第58条 本大学に研究所、センターその他の附置施設を置くことができる。

- 2 附置施設に関する規程は、別に定める。

第59条 本大学に附属図書館を置く。

- 2 附属図書館に関する規程は、別に定める。

第12章 附属施設及び福利厚生施設

第60条 本大学に次の附属施設を置く。

- (1) 体育館
- (2) 学生会館
- (3) 学友会センター
- (4) 第2学友会センター
- (5) 日本文化研修道場
- (6) トレーニングセンター

- 2 附属施設に関する規程は、別に定める。

第61条 本大学に次の福利厚生施設を置く。

- (1) 食堂
- (2) 売店

2 福利厚生施設に関する事項は、別に定める。

第13章 学友会

第62条 本大学に学友会を設ける。

2 本大学学生は、すべて学友会に加入しなければならない。

3 学友会に関する会則は、別に定める。

第14章 賞罰及び除籍

第63条 学生で特に他の学生の模範とすべき行為のあったときは、表彰することがある。

第64条 学生で本大学の規則若しくは命令に違背し、又は学生の本分に反する行為があったときは、その軽重に従ってこれを懲戒する。懲戒処分の手続については別に定める。

2 懲戒は、戒告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第65条 学生で学力劣等にして成業の見込みがないと認められる者又は正当の理由がなく出席が常でない者は、当該学部会議の議を経て、これを退学させる。

第66条 学生で次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。

(1) 在学8年を超える者

(2) 休学期間が第36条第2項又は第3項の上限を超える者

(3) 疾病その他の事故により成業の見込みがないと認められる者

(4) 授業料その他学費を督促しても納付しない者

附 則

この学則は、昭和41年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和45年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和47年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和51年12月10日から施行する。

附 則

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和56年6月24日から施行する。

附 則

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。ただし、第6条の規定にかかわらず昭和61年度から昭和70年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員
経済学部	名
経済学科	300

経営学科	300
文学部	
心理学科	100
社会学科	100
東洋文化学科	100
イギリス・アメリカ語学文学科	100
計	1,000

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、第6条の規定にかかわらず平成2年度から平成10年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	
	平成2年度～平成7年度	平成8年度～平成10年度
経済学部	名	名
経済学科	350	300
経営学科	350	300
文学部		
心理学科	120	90
社会学科	120	90
東洋文化学科	120	80
イギリス・アメリカ語学文学科	120	120
計	1,180	980

附 則

この学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第15条の規定については、平成2年度入学者から適用する。

附 則

この学則は、平成3年12月13日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、1993年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、1994年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、1995年4月1日から施行する。

(経済学部経営学科並びに文学部心理学科及び社会学科の存続に関する経過措置)

(1) 経済学部経営学科並びに文学部心理学科及び社会学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、1995年3月31日に当該学部学科に在学する者が、当該学部学科に在学しなくなる日までの間存続するものとする。

(1995年3月31日に在学する者の経過措置)

(2) 1995年3月31日に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(入学定員の臨時措置)

(3) この学則による改正後の第6条の規定にかかわらず、1995年度から1998年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	
	1995年度	1996年度～1998年度
経済学部	名	名
経済学科	350	300
経営学部		
経営学科	350	300
人間学部		
心理学科	120	90
社会学科	120	90
文学部		
東洋文化学科	120	80

イギリス・アメリカ語学文学科	120	120
計	1,180	980

附 則

この学則は、1996年4月1日から施行する。ただし、第6条の規定にかかわらず1996年度から1999年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	
	1996年度～1998年度	1999年度
経済学部	名	名
経済学科	350	300
経営学部		
経営学科	350	300
人間学部		
心理学科	120	100
社会学科	120	100
文学部		
東洋文化学科	120	100
イギリス・アメリカ語学文学科	120	100
計	1,180	1,000

附 則

この学則は、1997年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、1998年4月1日から施行する。

(文学部東洋文化学科及びイギリス・アメリカ語学文学科の存続に関する経過措置)

- (1) 文学部東洋文化学科及びイギリス・アメリカ語学文学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、1998年3月31日に当該学部学科に在学する者が、当該学部学科に在学しなくなる日までの間存続するものとする。

(1998年3月31日に在学する者の経過措置)

- (2) 1998年3月31日に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(入学定員の臨時措置)

- (3) この学則による改正後の第6条の規定にかかわらず、1998年度から1999年度までの

入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	
	1998年度	1999年度
経済学部	名	名
経済学科	230	200
国際経済学科	160	140
経営学部		
経営学科	350	300
人間学部		
心理学科	120	100
社会学科	120	100
文学部		
アジア文化学科	150	130
英語文化学科	120	100
計	1,250	1,070

附 則

この学則は、1998年5月1日から施行する。

附 則

この学則は、1999年4月1日から施行する。ただし、第6条の規定にかかわらず、1999年度の入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員
	1999年度
経済学部	名
経済学科	230
国際経済学科	160
経営学部	
経営学科	230
国際経営学科	160
人間学部	
心理学科	160
社会学科	120

文学部	
アジア文化学科	150
英語文化学科	120
計	1,330

附 則

この学則は、1999年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、2000年4月1日から施行する。ただし、第6条の規定にかかわらず、2000年度から2003年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員			
	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
経済学部	名	名	名	名
経済学科	224	218	212	206
国際経済学科	156	152	148	144
経営学部				
経営学科	224	218	212	206
国際経営学科	156	152	148	144
人間学部				
心理学科	155	150	145	140
社会学科	115	110	105	100
文学部				
アジア文化学科	144	138	132	126
英語文化学科	118	116	114	112
計	1,292	1,254	1,216	1,178

附 則

この学則は、2001年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2002年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2003年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2003年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2005年4月1日から施行する。

(経済学部国際経済学科及び経営学部国際経営学科の存続に関する経過措置)

(1) 経済学部国際経済学科及び経営学部国際経営学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、2005年3月31日に当該学部学科に在学する者が、当該学部学科に在学しなくなる日までの間存続するものとする。

(2005年3月31日に在学する者の経過措置)

(2) 2005年3月31日に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2006年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2006年4月1日から施行する。

(人間学部心理学科及び社会学科の存続に関する経過措置)

- (1) 人間学部心理学科及び社会学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、2006年3月31日に当該学部学科に在学する者が、当該学部学科に在学しなくなる日までの間存続するものとする。

(2006年3月31日に在学する者の経過措置)

- (2) 2006年3月31日に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、2006年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2006年12月22日から施行する。

附 則

この学則は、2007年4月1日から施行する。

(文学部アジア文化学科及び英語文化学科の存続に関する経過措置)

- (1) 文学部アジア文化学科及び英語文化学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、2007年3月31日に当該学部学科に在学する者が、当該学部学科に在学しなくなる日までの間存続するものとする。

(2007年3月31日に在学する者の経過措置)

- (2) 2007年3月31日に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、2007年4月1日から施行する。

(文学部アジア文化学科及び英語文化学科の存続に関する経過措置)

- (1) 文学部アジア文化学科及び英語文化学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、2007年3月31日に当該学部学科に在学する者が、当該学部学科に在学しなくなる日までの間存続するものとする。

(2007年8月31日に在学する者の経過措置)

- (2) 2007年3月31日に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2007年4月1日から施行する。ただし、2006年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2009年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2009年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則
この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則
この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則
この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則
この学則は、2011年4月1日から適用する。

附 則
この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則
この学則は、2012年4月1日から施行する。

この学則は、2012年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2012年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2012年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2013年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2013年5月1日から施行する。

附 則

この学則は、2013年6月28日から施行する。

この学則は、2014年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2014年5月29日から施行する。

附 則

この学則は、2014年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、2014年9月1日から施行する。

附 則

この学則は、2014年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、2015年4月1日から施行する。

(経済学部ヒューマンエコノミー学科の存続に関する経過措置)

(1) 経済学部ヒューマンエコノミー学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、2015年3月31日に当該学部学科に在学する者が、当該学部学科に在学しなくなる日までの間存続するものとする。(2015年3月31日に在学する者の経過措置)

附 則

この学則は、2015年4月1日より施行する。

附 則

この学則は、2015年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、2015年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2015年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、2015年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、2016年4月1日から施行する。

附 則

この学則は2017年4月1日から施行し、国際教養学部アジア学科から国際教養学部国際日本学科への名称変更に伴う改正規定は、2017年4月1日以降の入学生に適用する。

(2017年3月31日に在学する者の経過措置)

2017年3月31日に国際教養学部アジア学科に在学する者については、この学則の改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、2016年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、2017年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2017年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、2018年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2019年4月1日から施行する。ただし、第13条第1号「経済学部」 学科科目の改正については、2017年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、2019年4月1日から施行する。

(経営学部マーケティング学科の存続等に関する経過措置)

(1) 経営学部マーケティング学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、2019年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

(2019年3月31日に在学する者の経過措置)

(2) 2019年3月31日に経営学部マーケティング学科に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(経営学部の収容定員に関する経過措置)

(3) 改正後の第6条の規定にかかわらず、経営学部マーケティング学科の2019年度からの学生募集停止に伴う経営学部の2019年度から2021年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学科	2019年度	2020年度	2021年度
経営学科	1,117名	1,340名	1,563名
マーケティング学科	666名	440名	220名
経営学部 計	1,783名	1,780名	1,783名

附 則

この学則は、2019年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2020年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2021年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2022年4月1日から施行する。

(国際教養学部国際教養学科及び国際日本学科の存続等に関する経過措置)

- (1) 国際教養学部国際教養学科及び国際日本学科は、この学則による改正後の第4条の規定にかかわらず、2022年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

(2022年3月31日に在学する者の経過措置)

- (2) 2022年3月31日に国際教養学部国際教養学科及び国際日本学科に在学する者については、この学則による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、2022年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2023年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2024年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2025年4月1日から施行する。

別表第1(第11条関係)

1 共通教育科目

(1) ファウンデーション科目群

科目分野	授業科目	単位数
初年次科目	数的処理入門	2
	日本語表現	2
	コンピュータ入門1	1
	コンピュータ入門2	1
外国言語科目	総合英語1	2
	総合英語2	2
	Online English Seminar1	1
	Online English Seminar2	1
	Online English Seminar3	1
	Online English Seminar4	1
	Advanced English1	1

	Advanced English2	1
	Academic English1	1
	Academic English2	1
	ドイツ語1	1
	ドイツ語2	1
	フランス語1	1
	フランス語2	1
	中国語1	1
	中国語2	1
	日本語読解中級1	1
	日本語読解中級2	1
	日本語聴解中級1	1
	日本語聴解中級2	1
	日本語読解上級1	1
	日本語読解上級2	1
	日本語聴解上級1	1
	日本語聴解上級2	1
体育科目	スポーツ実習1	1
	スポーツ実習2	1
	ネイチャーアクティビティ1	1
	ネイチャーアクティビティ2	1

は、大学が指定する留学生等を対象とした科目である。

(2) リベラルアーツ・サイエンス科目群

科目分野	授業科目	単位数
リベラルアーツ・サイエンス系科目	知の探究	2
	未来課題	2
	L&Sゼミ	2
人文学系科目	哲学	2
	芸術学	2
	日本文学	2

	中国文学	2
	西洋文学	2
	言語学	2
	ことばと文化	2
	日本史	2
	アジア・オセアニア史	2
	西洋史	2
	人文地理学	2
	民俗学	2
	国際異文化理解1	10
	国際異文化理解2	10
社会科学系科目	法学	2
	日本国憲法	2
	政治学	2
	国際関係論	2
	経済学	2
	経営学	2
	社会・経済思想	2
	社会学	2
	社会福祉学	2
	教育学	2
	スポーツ学	2
	社会の心理	2
	認知の科学	2
自然科学系科目	ものの科学	2
	生命の科学	2
	情報の科学	2

(3) 主体的学び科目群

科目分野	授業科目	単位数
キャリア形成系科目	自己との対話	1

	追手門アイデンティティ	2
	キャリアデザイン	2
	ボランティア論	2
	キャリア形成プロジェクト	2
	キャリア言語	2
	キャリア数学	2
	リーダーシップ入門	2
	ファシリテーション入門	2
	日本事情1	2
	日本事情2	2
キャリア展開系科目	リーダーシップ実地基礎演習	2
	リーダーシップゼミナール1	2
	リーダーシップゼミナール2	2
	リーダーシップ実地発展演習	2
	キャリア実践英語1	2
	キャリア実践英語2	2
	インターンシップ実習	1
	プロジェクト実践	1
	スポーツケア演習	2
	交換留学	4
	交換留学	4
	海外セミナー	4
	短期海外セミナー	2
	Japan Program	2

(Japanese History and Literature) 1	
Japan Program	2
(Japanese History and Literature) 2	
Japan Program	2
(Japanese Traditional and Contemporary Culture) 1	
Japan Program	2
(Japanese Traditional and Contemporary Culture) 2	
Japan Program	2
(Modern Japanese Society) 1	
Japan Program	2
(Modern Japanese Society) 2	
Japan Program	2
(Japanese Business and Management) 1	
Japan Program	2
(Japanese Business and Management) 2	
Japan Program	2
(Social Issues in Japan) 1	
Japan Program	2
(Social Issues in Japan) 2	
海外インターンシップ	4
国際現地研修	4
グローバルキャリア論	2
日本事情3	2
日本事情4	2
留学生キャリア形成演習1	2
留学生キャリア形成演習2	2

は、大学が指定する留学生等を対象とした科目である。

別に定める放送大学の科目を修得した場合並びに大学コンソーシアム大阪単位互換協定により科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は、主体的学び科目群の単位として認定する。

2 学科科目

(1) 文学部

人文学科

授業科目	単位数	備考
新入生演習	2	共通教育科目から28単位以上、学科科目から68単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
日本学入門	2	
人文学演習	2	
日本文学概論1	2	
日本文学概論2	2	
古典基礎1	2	
古典基礎2	2	
日本語学概論1	2	
日本語学概論2	2	
日本史概論	2	
グローバル化と日本	2	
文化人類学	2	
日本文化論	2	
美学概論	2	
日本美術史概論	2	
建築文化入門	2	
くずし字	2	
博物館入門	2	
人文学情報検索法	2	
日本文学1(古典)	2	
日本文学2(近現代)	2	
日本文学3(超域)	2	
日本文学4(漢文1)	2	

日本文学5（漢文2）	2
日本文学史1（古典）	2
日本文学史2（近現代）	2
日本語学1（音声・音韻）	2
日本語学2（文法）	2
日本語史	2
日本古代史	2
日本中世史	2
日本近世史	2
日本近現代史	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
日本文化史1	2
日本文化史2	2
西洋文化史1	2
西洋文化史2	2
日本文化遺産論	2
批評理論	2
日本の芸能と文学	2
大阪・京都の文学	2
アジアの文学	2
文学作品研究	2
日本語の方言	2
日本芸能史	2
芸能研究	2
近代演劇論	2
シナリオ論	2
アニメ・漫画文化論	2
日本文学特殊講義1（古典）	2

日本文学特殊講義2（近現代）	2
日本文学特殊講義3（超域）	2
書道1	2
書道2	2
古文書学	2
日本史料学	2
史料演習	2
日本宗教・思想史	2
グローバルヒストリー	2
畿内・上方文化論	2
大阪学	2
日本史特殊講義1	2
日本史特殊講義2	2
アジア文化論	2
メディア文化論	2
ポップカルチャー論	2
デザイン文化論	2
都市文化史	2
建築文化計画	2
都市景観論	2
建築の環境1	2
建築の環境2	2
生活文化史	2
居住空間史	2
住宅構法論	2
日本建築史	2
西洋建築史	2
近代建築史	2
建築文化設計1	3
建築文化設計2	3
地誌学1	2

地誌学2	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
日本文化特殊講義1	2
日本文化特殊講義2	2
日本文化フィールドワーク	2
日本語教育入門	2
日本語教授法	2
日本語教育演習	2
日本語教育実習	1
国語科教育論1	2
国語科教育論2	2
国語科教育論3	2
国語科教育論4	2
電子出版	2
第二言語習得	2
言語と心理	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
コンピュータデザイン	2
博物館実習	3
製図基礎	2
建築の構造1	2
建築の構造2	2

建築文化論1	2
建築文化論2	2
建築文化論3	2
建築文化論4	2
法律学概論1	2
法律学概論2	2
社会学概論1	2
社会学概論2	2
哲学概論1	2
哲学概論2	2
倫理学概論1	2
倫理学概論2	2
社会科教育論1（地理歴史分野）	2
社会科教育論2（公民分野）	2
社会科・地理歴史科教育論	2
社会科・公民科教育論	2
社会教育概論1	2
社会教育概論2	2
国際コミュニケーション論	4
国際事情	4
国際特別演習	4
国際表現演習	4
文献講読	2
専門演習1	2
専門演習2	2
専門演習3	2
専門演習4	2
専門演習5	2
卒業研究	6

(2) 国際学部

国際学科

授業科目	単位数	備考
English 1 (Reading & Writing)	4	共通教育科目から28単位以上、学科科目から70単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
English 2 (Reading & Writing)	4	
English 3(Communication)	4	
English 4 (Speech & Presentation)	4	
English 5 (English for Qualification)	2	
English 6 (English for Conversation)	2	
Advanced English 1 (プレゼンテーション演習)	2	
Advanced English 2 (クリティカルシンキング演習)	2	
Advanced English 3 (資格英語演習)	2	
Advanced English 4 (アカデミックライティング演習)	2	
国際・地域文化関係論 (基礎)	2	
国際・地域交流論 (基礎)	2	
国際・地域言語表現論 (基礎)	2	
グローバルビジネス論	2	
グローバルビジネス論	2	
グローバルビジネス論	2	
国際開発支援論	2	
国際開発支援論	2	
国際開発支援論	2	
英語学概論1	2	
英語学概論2	2	
英語学概説1	2	
英語学概説2	2	
英文学概論	2	
米文学概論	2	
イギリス歴史・文化講義	2	
アメリカ歴史・文化講義	2	

異文化交流1	6
異文化交流2	6
グローバルリベラルアーツ1	2
グローバルリベラルアーツ2	2
グローバルリベラルアーツ3	2
グローカル論	2
多文化マネジメント論	2
ICTとイノベーション	2
国際・地域文化関係論（展開）	2
国際・地域交流論（展開）	2
国際・地域言語表現論（展開）	2
国際・地域文化関係論（特殊講義）	2
国際・地域交流論（特殊講義）	2
国際・地域言語表現論（特殊講義）	2
グローバルビジネス論	2
グローバルビジネス論特殊講義	2
グローバルビジネス論特殊講義	2
国際開発支援論	2
国際開発支援論特殊講義	2
国際開発支援論特殊講義	2
グローバル言語特殊講義	2
留学特別演習1	1
留学特別演習2	1
国際体験	4
国際体験	4
国際体験	4
国際研究演習1	4
国際研究演習2	4

数理・DS・AI 1	2	
数理・DS・AI 2	2	
情報セキュリティー	2	
テキスト解析	2	
デジタルコンテンツ開発演習	2	
データベース演習	2	
Global Seminar 1	2	
Global Seminar 2	2	
Global Studies 1	2	
Global Studies 2	2	
Global Studies 3	2	
Global Studies 4	2	
プロジェクト1	2	
プロジェクト2	2	
プロジェクト3	2	
プロジェクト4	2	
自主研究	2	
自主研究	2	
日本語演習1	2	
日本語演習2	2	
ビジネス日本語1	2	
ビジネス日本語2	2	
卒業研究	4	

(3) 心理学部

心理学科

授業科目	単位数	備考
特別演習1	2	共通教育科目から28単位以上、学科科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
特別演習2	2	
卒業研究1	2	
卒業研究2	2	
卒業論文	4	

心理学概論1	2
心理学概論2	2
心理学総合科目	2
倫理学概論1	2
倫理学概論2	2
社会学概論1	2
社会学概論2	2
心理学の歴史	2
公認心理師の職責	2
関係行政論	2
認知・脳科学概論	2
知覚・認知心理学	2
認知心理学	2
神経・生理心理学	2
認知神経心理学	2
感情心理学	2
社会認知神経科学	2
生涯発達・生涯教育心理学概論	2
発達心理学	2
教育心理学	2
子ども学	2
カウンセリング心理学	2
家族心理学	2
比較心理学	2
学習・言語心理学	2
教育・学校心理学	2
実験発達心理学	2
臨床心理学概論	2
心理学的支援法	2
感情・人格心理学	2
精神分析学	2

精神疾患とその治療	2
人体の構造と機能及び疾病	2
司法臨床心理学	2
障害者・障害児心理学	2
医療臨床心理学	2
福祉心理学	2
遊戯療法論	2
認知行動療法論	2
健康・医療心理学	2
社会・犯罪心理学概論	2
社会・集団・家族心理学	2
社会心理学	2
司法・犯罪心理学	2
対人行動論	2
産業・組織心理学	2
心理学実験	2
心理調査法実習	1
心理検査実習1	1
心理検査実習2	1
心理面接実習1	1
心理面接実習2	1
認知神経科学特講	2
認知心理学特講	2
生涯発達心理学特講	2
生涯教育心理学特講	2
犯罪心理学特講	2
社会心理学特講	2
認知神経心理学演習	2
行動論演習	2
心理演習	2
心理療法演習1	2

心理療法演習2	2
心理療法演習3	2
心理療法演習4	2
心理療法演習5	2
心理療法演習6	2
心理療法演習7	2
上級査定法演習1	2
上級査定法演習2	2
心理学入門演習	2
ライフスタイル演習	2
心理実習1	2
心理実習2	2
メンタルケア演習	2
チャイルドサポート演習	2
ビジネスリサーチ演習	2
リサーチャー演習	2
心理学統計法1	2
心理学統計法2	2
心理学的データ解析	2
心理学研究法	2
心理的アセスメント	2
初級心理学外書講読	2
中級心理学外書講読	2
認知心理学講読	2
生涯教育心理学講読	2
発達心理学講読	2
社会心理学講読	2
臨床心理学講読	2
人工知能・認知科学概論1	2
人工知能・認知科学概論2	2
自然言語処理概論	2

科学技術と産業倫理概論	2
基礎数学1	2
基礎数学2	2
統計数学	2
情報リテラシー	2
科学技術プログラミング演習1	2
科学技術プログラミング演習2	2
データサイエンス演習1	2
データサイエンス演習2	2
自然言語解析	2
自然言語処理応用	2
音声認識	2
メディア概論	2
画像・映像処理概論	2
パターン認識概論	2
コンピュータ・グラフィクス基礎	2
データマイニング概論	2
学習アルゴリズム	2
学習アルゴリズム演習	2
データ情報学概論	2
認知科学基礎	2
クラウドソーシング活用法	2
思考・発見過程分析	2
人間の思考と人工知能	2
身体制御システム論	2
認知計算論	2
信号解析	2
計算機アーキテクチャ	2
情報セキュリティ入門	2
メディアインターフェイス	2
システム解析入門	2

応用プログラミング演習1	2	
応用プログラミング演習2	2	
国際コミュニケーション論	4	
国際特別演習	4	
国際事情	4	
国際表現演習	4	
法律学概論1	2	
法律学概論2	2	
文化人類学	2	
社会福祉概論1	2	
社会福祉概論2	2	

(4) 社会学部

社会学科

授業科目	単位数	備考
社会学入門演習1	2	共通教育科目から28単位以上、学科科目から70単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
社会学入門演習2	2	
基礎演習1	2	
基礎演習2	2	
専門演習1	2	
専門演習2	2	
卒論演習1	2	
卒論演習2	2	
卒業論文・卒業研究	6	
現代社会学基礎	2	
社会文化デザイン基礎	2	
社会問題基礎	2	
社会調査基礎	2	
社会調査法	2	
文化人類学	2	
多変量解析法	2	
データ分析基礎	2	

量的調査法	2
社会学理論	2
質的調査法	2
社会学史	2
情報社会学	2
流行の社会学	2
グローバル社会論	2
科学技術論	2
都市社会論	2
食と農の社会学	2
消費社会論	2
社会問題論	2
家族問題論	2
福祉社会学	2
人権問題論	2
病いの社会学	2
社会階層論	2
現代社会論演習1	2
現代社会論演習2	2
現代社会リサーチ演習1	2
現代社会リサーチ演習2	2
リスク社会論	2
現代社会論	2
環境社会学	2
現代社会特論	2
比較文化論	2
犯罪社会学	2
ダイバーシティの社会学	2
社会調査演習1	2
社会調査演習2	2
ジェンダーの社会学	2

医療社会学	2
現代メディア論	2
マスコミ論	2
文化社会学	2
サブカルチャー論	2
芸術社会論	2
芸能文化論	2
コミュニケーションの社会学	2
身体表現論	2
人間関係論	2
演劇論	2
社会文化デザイン演習1	2
社会文化デザイン演習2	2
コミュニケーション・表現入門演習1	2
コミュニケーション・表現入門演習2	2
コミュニケーション・表現演習1	2
コミュニケーション・表現演習2	2
サブカルチャー特論	2
メディア文化構想特論	2
現代文化論	2
広告の社会学	2
演劇・ダンス演習	2
アート環境創造特論	2
コミュニケーション表現特論	2
社会問題特論1	2
社会問題特論2	2
現代社会学特殊講義1	2
現代社会学特殊講義2	2
社会文化デザイン特殊講義1	2
社会文化デザイン特殊講義2	2
社会問題特殊講義1	2

社会問題特殊講義2	2
スポーツ社会学	2
スポーツ文化論	2
スポーツ教育学	2
スポーツ心理学	2
スポーツ戦略論	2
スポーツ産業論	2
身体運動行為論	2
スポーツ情報学	2
スポーツ情報戦略論	2
コーチング論	2
スポーツ都市文化論	2
現代社会とスポーツ医学	2
地域社会とスポーツ	2
学校社会・健康スポーツ論	2
発育発達論	2
スポーツ文化概論1	2
スポーツ文化概論2	2
スポーツフィールド実習	2
グローバルスポーツ論	2
身体機能測定評価演習	2
健康スポーツの生理学	2
健康運動プログラム演習	2
国際コミュニケーション論	4
国際特別演習	4
国際事情	4
国際表現演習	4
社会学概論1	2
社会学概論2	2
哲学概論1	2
哲学概論2	2

法律学概論1	2	
法律学概論2	2	
社会福祉概論1	2	
社会福祉概論2	2	
日本史概説1	2	
日本史概説2	2	
西洋史概説1	2	
西洋史概説2	2	
東洋史概説1	2	
東洋史概説2	2	
人文地理学概説1	2	
人文地理学概説2	2	
自然地理学概説1	2	
自然地理学概説2	2	
地誌学1	2	
地誌学2	2	
教育心理学	2	

(5) 法学部

法律学科

授業科目	単位数	備考
法律基礎	2	共通教育科目から28単位以上、学科科目から62単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
法律基礎	2	
法学研究法	2	
法学研究法	2	
ゼミナール	2	
法学入門	2	
法哲学	2	
法社会学	2	

法制史	2
比較法	2
憲法	2
憲法	2
行政法	2
民法	2
刑法	2
刑法	2
商法	2
商法	2
商法	2
民事手続法	2
民事手続法	2
民事手続法	2
刑事手続法	2
刑事手続法	2
刑事政策	2
國際關係法	2
國際關係法	2
國際取引法	2
労働法	2
労働法	2
社会保障法	2
地方自治法	2

環境法	2	
立法学	2	
消費者法	2	
知的財産法	2	
経済法	2	
法と政治	2	
法と経済	2	
法と政策	2	
法と心理	2	
ジェンダーと法	2	
科学技術と法	2	
行政倫理と自治体法務	2	
企業倫理と企業法務	2	

(6) 経済学部

経済学科

授業科目	単位数	備考
初級演習	2	共通教育科目から28単位以上、学科科目から68単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
コース演習	2	
専門演習	2	
実践基礎経済学	2	
統計学総論	2	
経済数学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
ミクロ経済学	4	
マクロ経済学	4	
論文演習	2	
日本経済史	2	

グローバルヒストリー	2
地域とくらし	2
社会とくらし	2
租税論	4
経済政策総論	2
行政法	2
地方財政	2
リスクと向き合う経済学	2
金融ビジネス論	2
国際金融論1	2
国際金融論2	2
ファイナンス	2
ファイナンス演習	2
環境経済学1	2
環境経済学2	2
公共政策	2
公共政策演習	2
地球環境概論	2
地球環境論演習	2
消費経済論1	2
消費経済論2	2
消費者保護論	2
消費データ分析	2
マーケティング	2
生活経済論1	2
生活経済論2	2
社会保障	4
少子高齢化社会論	2
女性起業論	2
男女共同参画社会論	2
ジェンダー論	2

多様社会特殊講義	2
国際メディア論	2
アメリカ経済論	2
アジア経済論	2
ヨーロッパ経済論	2
オーストラリア経済論	2
国際ビジネスコミュニケーション	2
民法入門	2
政治学概論1	2
政治学概論2	2
法学・政治学特殊講義	2
統計学演習	2
ミクロ経済学演習	2
マクロ経済学演習	2
産業組織論	2
産業組織論演習	2
労働経済学1	2
労働経済学2	2
企業財務入門	2
企業会計原則	2
資産管理	2
情報分析	2
テレワークと経済	2
ビジネス・エコノミクス	2
関西経済	2
日本経済	2
日本経済演習	2
財政学	4
金融論	4
SDGsと経済	2
経済理論・経済史特殊講義	2

外国経済特殊講義	2
人的資源特殊講義	2
労働法制の経済学	2
計量経済学	4
応用ミクロ経済学	2
行動経済学	2
国際経済学	4
経済変動論	2
ビジネス数理スキル(基礎)	2
ビジネス数理スキル(応用)	2
ビジネスリテラシー(基礎)	2
ビジネスリテラシー(応用)	2
キャリアシミュレーション(基礎)	2
キャリアシミュレーション(応用)	2
日本史概説1	2
日本史概説2	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
職業指導論	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
地誌学1	2
地誌学2	2
国際コミュニケーション論	4
国際事情	4
国際特別演習	4
国際表現演習	4

(7) 経営学部

経営学科

授業科目	単位数	備考
入門演習1	2	共通教育科目から28単位以上、学科科目から78単位以上を修得し、合計124
入門演習2	2	
基礎演習1	2	単位以上修得すること。
基礎演習2	2	
発展演習1	2	
発展演習2	2	
卒業演習1	2	
卒業演習2	2	
国際コミュニケーション論	4	
国際事情	4	
国際特別演習	4	
国際表現演習	4	
経営学プロジェクト	2	
経営学への招待	4	
経営学への招待	4	
マーケティング論基礎	2	
初級会計学原理	2	
民法（総則）	2	
経営における心理学	2	
経営情報論	2	
経済学基礎	2	
法律学基礎	2	
哲学基礎	2	
経営管理論	2	
経営戦略論	2	
経営組織論	2	
人的資源管理論	2	
人事労務管理論	2	

生産管理論	2
オペレーションズマネジメント	2
財務管理論	2
ファイナンス論	2
国際経営論	2
経営倫理	2
経営行動論	2
現代企業論	2
中小企業論	2
ベンチャー企業論	2
多国籍企業論	2
CSR経営論	2
経営史	2
ビッグビジネス論	2
マーケティング論	2
流通システム基礎	2
流通システム	2
サービスマーケティング論	2
マーケティングリサーチ	2
消費者行動論	2
インターネットマーケティング基礎	2
インターネットマーケティング	2
初級簿記演習	4
商業簿記演習	4
工業簿記演習	4
初級簿記	2
中級簿記	2
中級会計学原理	2
工業簿記	2
原価計算論	2
管理会計論	2

コスト・マネジメント論	2
財務諸表論	2
経営分析論	2
監査論	2
国際会計論	2
民法（物権法）	2
民法（債権法総論）	2
民法（債権法各論）	2
商法	2
会社法基礎	2
知的財産法	2
社会保障法	2
行政法	2
刑法	2
企業法務	2
会社法	2
手形・小切手法	2
国際法	2
税法総論	2
税法各論	2
金融法	2
労働関連法	2
社会調査法1	2
社会調査法2	2
心理データ解析基礎	2
心理データ解析	2
心理統計学基礎	2
コミュニケーションの心理学	2
ビジネスの社会心理学	2
ビジネス心理実習	4
心理統計学	2

コミュニティ心理学	2	
組織心理学	2	
感性・デザイン心理学	2	
広告心理学	2	
数学基礎	2	
統計学基礎	2	
プログラミング入門	2	
情報数学基礎	2	
情報数学	2	
情報統計学基礎	2	
情報統計学	2	
情報科学基礎	2	
情報科学	2	
プログラミング基礎	2	
プログラミング演習	2	
経営情報システム	2	
コンピュータネットワーク	2	
データベース	2	
オペレーションズ・リサーチ基礎	2	
オペレーションズ・リサーチ	2	
アルゴリズムとデータ構造	2	
アルゴリズムとデータ構造演習	2	
機械学習	2	
インターネットビジネス	2	
デジタルマネジメント	2	
マルチメディア	2	
情報と職業	2	

(8) 地域創造学部

地域創造学科

授業科目	単位数	備考
地域創造実践演習（入門）1	2	共通教育科目から28単位以上、学科科

地域創造実践演習（入門）2	2	目から66単位以上を修得し、合計124 単位以上修得すること。
地域創造実践演習（基礎）1	2	
地域創造実践演習（基礎）2	2	
地域創造実践演習（展開）1	2	
地域創造実践演習（展開）2	2	
地域創造実践演習（発展）	2	
地域創造実践演習（総括）	2	
卒業研究	4	
地域創造学概論	2	
地域調査法	2	
経済学基礎論	2	
マネジメント基礎論	2	
会計学基礎論	2	
北摂学	2	
男女共同参画社会論	2	
少子高齢化社会論	2	
地域コミュニティ論	2	
地域づくりと障害者	2	
地域づくりと環境	2	
地域文化史研究	2	
現代社会論	2	
グローバル社会論	2	
社会学概論1	2	
社会学概論2	2	
文化人類学	2	
人文地理学概説1	2	
人文地理学概説2	2	
法律学概論1	2	
法律学概論2	2	
データ分析の基礎	2	
質的調査法	2	

GIS実習	2
地域政策論1	2
地域政策論2	2
地方自治論	2
地域経済論	2
地域産業論	2
自治体政策論	2
公共政策論	2
住民参加論	2
都市政策論	2
地域開発論	2
地域経営論	2
ソーシャルビジネス論	2
産業・企業演習	2
地域デザイン概論1	2
地域デザイン概論2	2
都市空間計画論	2
農村計画論	2
都市デザイン史	2
住生活論1	2
住生活論2	2
都市景観論	2
都市表象論	2
ユニバーサルデザイン論	2
都市・地域安全論	2
災害復興論	2
地域デザイン演習1	2
地域デザイン演習2	2
観光学1	2
観光学2	2
観光産業論	2

観光資源論	2
観光行動論	2
観光政策論	2
観光交通論	2
観光交流論	2
観光マーケティング論	2
サステナブルツーリズム論	2
観光地理学	2
観光社会学	2
地域観光論	2
観光マネジメント演習	2
食農マネジメント論1	2
食農マネジメント論2	2
フードビジネス論	2
アグリビジネス論	2
食品流通論	2
農業経済学	2
フードマーケティング論	2
食文化概論	2
食育と食生活論	2
6次産業化論	2
外食産業論	2
食品企業論	2
食品安全論	2
商品開発論	2
食農企画演習	2
地域イベント論	2
地域メディア論	2
現代文化論	2
非営利組織論	2
地域創造学特殊講義1	2

地域創造学特殊講義2	2	
国際事情	4	
国際コミュニケーション論	4	
国際表現演習	4	
国際特別演習	4	
日本史概説1	2	
日本史概説2	2	
西洋史概説1	2	
西洋史概説2	2	
東洋史概説1	2	
東洋史概説2	2	
自然地理学概説1	2	
自然地理学概説2	2	
地誌学1	2	
地誌学2	2	
政治学概論1	2	
政治学概論2	2	
哲学概論1	2	
哲学概論2	2	
倫理学概論1	2	
倫理学概論2	2	

(9) 理工学部

数理・データサイエンス学科

授業科目	単位数	備考
理工学概論	2	共通教育科目から20単位以上、学科科目から84単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
データサイエンス基礎	2	
基礎物理学	2	
基礎物理学実験	2	
入門統計学	2	
微分積分学	2	
微分積分学	2	

微分積分学演習	1	
微分積分学演習	1	
線形代数学	2	
線形代数学	2	
線形代数学演習	1	
線形代数学演習	1	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
科学技術史	2	
科学技術英語	2	
知的財産論	2	
技術者倫理	2	
文献講読	2	
理工学プロジェクト	2	
数理・データサイエンス概論	2	
確率・統計	2	
オペレーションズ・リサーチ	2	
R言語プログラミング	2	
統計的推測	2	
統計的推測	2	
微分方程式	2	
代数系基礎	2	
複素関数論	2	
集合と位相	2	
数理最適化	2	
テキストマイニング	2	
数値解析	2	
機械学習	2	
フーリエ解析	2	

数理モデリング	2
回帰と分類	2
統計的品質管理	2
多変量解析	2
機械学習	2
機械学習プログラミング	2
深層学習	2
経済統計学	2
ベイズ統計学	2
ルベーグ積分と確率論	2
数理・データサイエンス演習	2
情報幾何	2
深層学習プログラミング	2
金融数理	2
関数解析	2
時系列解析	2
モデル選択	2
因果推論	2
情報処理	2
情報処理	2
情報理論	2
データ構造とアルゴリズム	2
論理回路	2
人工知能	2
計算機アーキテクチャ	2
オペレーティングシステム	2
コンピュータインタラクション	2
情報セキュリティ	2
デジタルメディア処理	2
信号処理	2

自然言語処理	2	
ヒューマンインタフェース	2	
画像・音声・情報処理	2	
物性基礎論	2	
電子回路	2	
電磁気学	2	
電磁気学	2	
ロボットの機構と運動	2	
制御工学	2	
制御工学	2	
卒業研究	2	
卒業研究	4	
卒業研究	4	

機械工学科

授業科目	単位数	備考
理工学概論	2	共通教育科目から20単位以上、学科科目から87単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
データサイエンス基礎	2	
基礎物理学	2	
基礎物理学実験	2	
入門統計学	2	
微分積分学	2	
微分積分学	2	
微分積分学演習	1	
微分積分学演習	1	
線形代数学	2	
線形代数学	2	
線形代数学演習	1	
線形代数学演習	1	
プログラミング	2	
プログラミング	2	

プログラミング	2
理工学プロジェクト	2
科学技術史	2
科学技術英語	2
知的財産論	2
技術者倫理	2
文献講読	2
理工学プロジェクト	2
機械工学概論	2
力学	2
機械力学	2
熱力学	2
流体力学	2
材料力学	2
機械工学演習	1
制御工学	2
機械工学実験	2
機械工学実験	2
機構学	2
物性基礎論	2
機械材料	2
機械力学	2
熱力学	2
流体力学	2
材料力学	2
機械加工	2
伝熱工学	2
生産工学	2
材料強度学	2
計測とデータ処理	2

ロボットの機構と運動	2
制御工学	2
機械設計・製図	2
機械設計・製図	2
機械工学プロジェクト	2
次世代自動車技術	2
宇宙航空工学	2
マイクロ・ナノ工学	2
流体工学	2
ロボティクス応用	2
エネルギー変換工学	2
電気回路	2
電磁気学	2
デジタル回路	2
電気回路	2
電磁気学	2
電気電子計測	2
電気機器学	2
放電・プラズマ工学	2
モータ制御工学	2
次世代エネルギー工学	2
オペレーションズ・リサーチ	2
微分方程式	2
機械学習	2
情報理論	2
人工知能	2
情報セキュリティ	2
デジタルメディア処理	2
自然言語処理	2
ヒューマンインタフェース	2

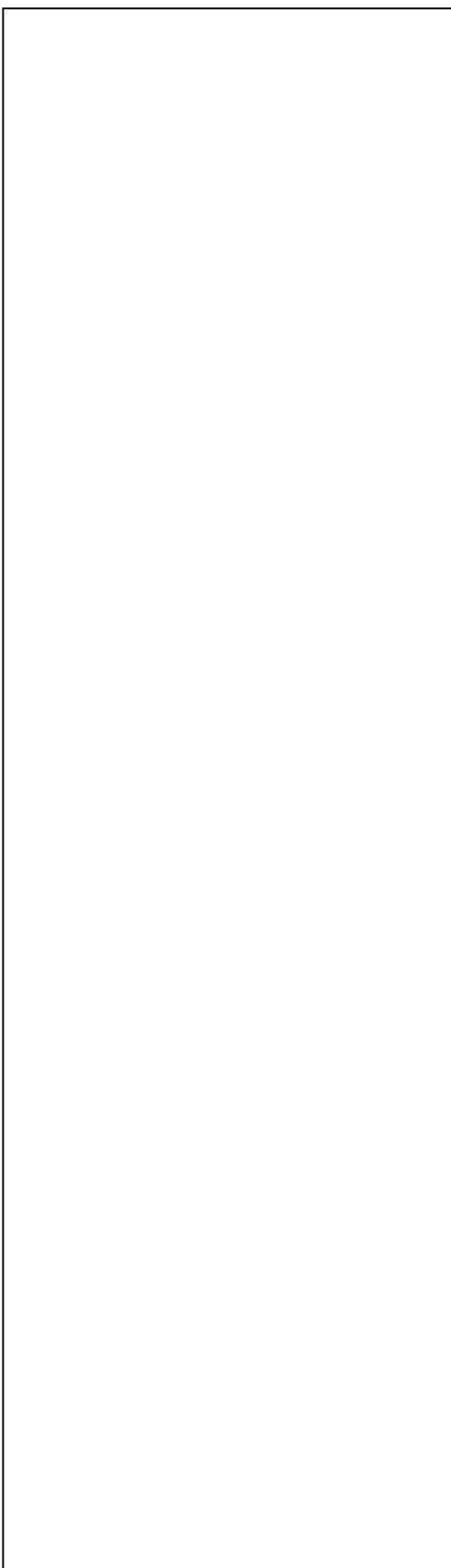
画像・音声・情報処理	2	
卒業研究	2	
卒業研究	4	
卒業研究	4	

電気電子工学科

授業科目	単位数	備考
理工学概論	2	共通教育科目から20単位以上、学科科目から87単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
データサイエンス基礎	2	
基礎物理学	2	
基礎物理学実験	2	
入門統計学	2	
微分積分学	2	
微分積分学	2	
微分積分学演習	1	
微分積分学演習	1	
線形代数学	2	
線形代数学	2	
線形代数学演習	1	
線形代数学演習	1	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
科学技術史	2	
科学技術英語	2	
知的財産論	2	
技術者倫理	2	
文献講読	2	
理工学プロジェクト	2	
電気電子工学概論	2	
力学	2	

物性基礎論	2	
電気回路	2	
電子回路	2	
電磁気学	2	
デジタル回路	2	
電気電子工学実験	2	
電気電子工学実験	2	
電気電子工学演習	1	
電気数学	2	
量子力学	2	
電気回路	2	
電子回路	2	
電磁気学	2	
電気電子計測	2	
電気電子材料	2	
電気電子材料	2	
電気電子回路設計	2	
電気電子回路設計	2	
電力工学	2	
電気機器学	2	
エネルギー変換工学	2	
制御工学	2	
制御工学	2	
波形処理	2	
情報理論	2	
電気電子工学プロジェクト	2	
量子エレクトロニクス	2	
放電・プラズマ工学	2	
情報通信ネットワーク	2	
次世代エネルギー工学	2	

パワーエレクトロニクス	2
モータ制御工学	2
半導体・電子デバイス工学	2
電気・通信法規	2
光通信	2
無線通信システム	2
幾何力学	2
幾何力学	2
熱力学	2
熱力学	2
流体力学	2
流体力学	2
材料力学	2
材料力学	2
幾何材料	2
幾何加工	2
生産工学	2
ロボットの機構と運動	2
次世代自動車技術	2
宇宙航空工学	2
マイクロ・ナノ工学	2
確率・統計	2
オペレーションズ・リサーチ	2
微分方程式	2
代数系基礎	2
複素関数論	2
幾何学習	2
フーリエ解析	2
人工知能	2
情報デバイス	2



コンピューターインタラクション	2	
情報セキュリティ	2	
デジタルメディア処理	2	
自然言語処理	2	
ヒューマンインタフェース	2	
画像・音声・情報処理	2	
卒業研究	2	
卒業研究	4	
卒業研究	4	

情報工学科

授業科目	単位数	備考
理工学概論	2	共通教育科目から20単位以上、学科科目から82単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
データサイエンス基礎	2	
基礎物理学	2	
基礎物理学実験	2	
入門統計学	2	
微分積分学	2	
微分積分学	2	
微分積分学演習	1	
微分積分学演習	1	
線形代数学	2	
線形代数学	2	
線形代数学演習	1	
線形代数学演習	1	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
科学技術史	2	
科学技術英語	2	
知的財産論	2	

技術者倫理	2
文献講読	2
理工学プロジェクト	2
情報工学概論	2
情報処理	2
プログラミング	2
情報理論	2
データ構造とアルゴリズム	2
論理回路	2
情報数学	2
人工知能	2
計算機アーキテクチャ	2
オペレーティングシステム	2
コンピュータインタラクション	2
データベース工学	2
情報処理	2
情報デバイス	2
R言語プログラミング	2
情報通信ネットワーク	2
情報セキュリティ	2
デジタルメディア処理	2
信号処理	2
自然言語処理	2
ヒューマンインタフェース	2
ソフトウェア工学	2
情報工学演習	2
情報工学演習	2
コンピュータグラフィックス	2
画像・音声・情報処理	2
セキュアネットワーク	2

組込みシステム	2	
確率・統計	2	
オペレーションズ・リサーチ	2	
統計的推測	2	
統計的推測	2	
微分方程式	2	
数理最適化	2	
テキストマイニング	2	
機械学習	2	
フーリエ解析	2	
多変量解析	2	
機械学習	2	
深層学習	2	
ベイズ統計学	2	
時系列解析	2	
電子回路	2	
電気電子計測	2	
ロボットの機構と運動	2	
制御工学	2	
制御工学	2	
波形処理	2	
光通信	2	
無線通信システム	2	
卒業研究	2	
卒業研究	4	
卒業研究	4	

別表第2（第15条関係）

- 1 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」

授業科目	単位数
教育原論	2
教職概論	2
教育行政学	2
教育心理学	2
特別支援教育論	2
教育課程論	2
道德教育論	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導論	2
教育方法学（ICT活用含む）	2
生徒・進路指導論	2
教育相談	2
教育実習1	2
教育実習2	2
教育実習事前・事後指導	2
教職実践演習（中・高）	2

2 「大学が独自に設定する科目」

授業科目	単位数
道德教育論	2
社会問題論	2
社会教育概論1	2
社会教育概論2	2

3 「教科及び教科の指導法に関する科目」

(1) 国際学部国際学科

(英語)

授業科目	単位数
英語科教育論1	2
英語科教育論2	2
英語科教育論3	2
英語科教育論4	2

(2) 心理学部心理学科

(社会)

授業科目	単位数
日本史概説1	2
日本史概説2	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
地誌学1	2
地誌学2	2
社会科教育論1(地理歴史分野)	2
社会科教育論2(公民分野)	2
社会科・地理歴史科教育論	2
社会科・公民科教育論	2

(公民)

授業科目	単位数
社会科教育論2(公民分野)	2
社会科・公民科教育論	2

(3) 社会学部社会学科

(社会)

授業科目	単位数
社会科教育論1(地理歴史分野)	2
社会科教育論2(公民分野)	2
社会科・地理歴史科教育論	2
社会科・公民科教育論	2

(公民)

授業科目	単位数
------	-----

社会科教育論2（公民分野）	2
社会科・公民科教育論	2

(4) 経済学部経済学科

(社会)

授業科目	単位数
哲学概論1	2
哲学概論2	2
倫理学概論1	2
倫理学概論2	2
社会科教育論1（地理歴史分野）	2
社会科教育論2（公民分野）	2
社会科・地理歴史科教育論	2
社会科・公民科教育論	2

(地理歴史)

授業科目	単位数
社会科教育論1（地理歴史分野）	2
社会科・地理歴史科教育論	2

(公民)

授業科目	単位数
哲学概論1	2
哲学概論2	2
倫理学概論1	2
倫理学概論2	2
社会科教育論2（公民分野）	2
社会科・公民科教育論	2

(商業)

授業科目	単位数
商業科教育論1	2
商業科教育論2	2

(5) 経営学部経営学科

(社会)

授業科目	単位数
日本史概説1	2
日本史概説2	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
地誌学1	2
地誌学2	2
社会科教育論1（地理歴史分野）	2
社会科教育論2（公民分野）	2
社会科・地理歴史科教育論	2
社会科・公民科教育論	2

（公民）

授業科目	単位数
社会科教育論2（公民分野）	2
社会科・公民科教育論	2

（商業）

授業科目	単位数
職業指導論	2
商業科教育論1	2
商業科教育論2	2

(6) 地域創造学部地域創造学科

（社会）

授業科目	単位数
社会科教育論1（地理歴史分野）	2
社会科教育論2（公民分野）	2

社会科・地理歴史科教育論	2
社会科・公民科教育論	2

(公民)

授業科目	単位数
社会科教育論2(公民分野)	2
社会科・公民科教育論	2

別表第3(第16条関係)

博物館に関する科目

授業科目	単位数
社会教育概論1	2
社会教育概論2	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館実習	3
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
日本史概説1	2
日本史概説2	2
博物館入門	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
地誌学1	2
地誌学2	2
日本史	2

アジア・オセアニア史	2
西洋史	2
人文地理学	2
芸術学	2
民俗学	2
文化人類学	2
ものの科学	2
生命の科学	2

別表第4（第17条関係）

社会教育主事の養成に係る社会教育に関する科目

授業科目	単位数
社会教育概論1	2
社会教育概論2	2
生涯学習支援論1	2
生涯学習支援論2	2
社会教育経営論1	2
社会教育経営論2	2
社会福祉学	2
環境経済学1	2
環境経済学2	2
都市・地域安全論	2
地域メディア論	2
災害復興論	2
社会問題論	2
人権問題論	2
犯罪社会学	2
特別支援教育論	2
職業指導論	2
博物館概論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2

社会教育実習	2
社会教育課題研究	2

別表第5 削除

別表第6（第52条関係）

2015年度・2016年度入学生適用

授業料 その他の学費	初年度納付金	2年次以降納付金
授業料		円 750,000
施設設備充実資金	155,000	315,000
計	905,000	1,065,000

2017年度入学生適用

授業料 その他の学費	初年度納付金	2年次以降納付金
授業料		円 750,000
施設設備充実資金	155,000	315,000
計	905,000	1,065,000
教育充実費 (国際教養学科)		30,000

2018年度・2019年度入学生適用

授業料 その他の学費	初年度納付金	2年次以降納付金
授業料		円 750,000
施設設備充実資金	155,000	315,000
計	905,000	1,065,000
教育充実費 (国際教養学部)		30,000

2020年度・2021年度入学生適用

授業料 その他の学費	初年度納付金	2年次以降納付金
授業料		円 850,000
施設設備充実資金	155,000	315,000
計	1,005,000	1,165,000
教育充実費 (国際教養学部)		30,000

2022年度入学生より適用

授業料 その他の学費	初年度納付金	2年次以降納付金
授業料		円 850,000
施設設備充実資金	155,000	315,000
教育充実費		30,000
計	1,035,000	1,195,000

2025年度入学生（理工学部）より適用

授業料 その他の学費	初年度納付金	2年次以降納付金
授業料		円 1,145,000
	1,165,000	
施設設備充実資金	170,000	350,000
教育充実費		30,000
計	1,365,000	1,525,000

なお、編入学、再入学生等については入学する学年の学費を適用する。

(2) 変更事項を記載した書類

< 変更の事由 >

1. 令和7年度より、理工学部 数理・データサイエンス学科、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科を設置する。
2. 令和5年10月1日改正の大学設置基準に準拠した改正を行う。
3. 学則に掲載する科目のうち、大学が指定する留学生等を対象とする科目であることを明示する。

< 変更点 >

令和7年度より、理工学部 数理・データサイエンス学科、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科を設置することに係り、下記の変更を行う。

1. 第4条の設置する学部及び学科について、「理工学部 数理・データサイエンス学科、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科」に関する記述を加える。
2. 第6条の学生定員についての表中「理工学部 数理・データサイエンス学科、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科」に関する記述を加える。
3. 第27条の授与する学位について、「理工学部 数理・データサイエンス学科、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科」に関する記述を加える。
4. 別表第1(第11条関係) について、大学が指定する留学生等を対象とした科目であることを明示するための記述を加える。
5. 別表第1(第11条関係) 備考欄を新設し、各学部の定める履修方法に従って、修得する所定の単位に関する記載を加える。
6. 別表第1(第11条関係) 授業科目について、「理工学部 数理・データサイエンス学科、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科」に関する表を加える。
7. 別表第6(第52条関係) 授業料等の納付金について、「2025年度入学生(理工学部)より適用」に関する表を加える。

令和5年10月1日改正の大学設置基準に準拠した改正を行うことに係る変更については、別紙「(3)新旧対照表」に記載する。

以上の変更を行うことに係り、下記の変更を行う。

8. 附則の終わりに改正学則の附則として「施行年月日」を加える。

(3) 変更部分の新旧対照表

追手門学院大学学則（昭和41年制定）新旧対照表

新	旧
<p style="text-align: center;">第4章 教育課程</p> <p>第10条 (略) (削る)</p> <p>第11条 共通教育科目及び学科科目の名称及び 単位数並びに卒業に必要な単位数は、別表第1 のとおりとする。</p> <p>第12条 教育課程は、各授業科目を、必修科目、 選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に 配当して編成するものとする。</p> <p>第13条 削除</p>	<p style="text-align: center;">第4章 授業科目、単位数及び履修方法</p> <p>第10条 (略)</p> <p>2 共通教育科目は、<u>ファウンデーション科目 群、リベラルアーツ・サイエンス科目群、主体 的学び科目群に区分する。</u></p> <p>(1) <u>ファウンデーション科目群は、初年次科 目分野、外国言語科目分野及び体育科目分野 に区分する。</u></p> <p>(2) <u>リベラルアーツ・サイエンス科目群は、 リベラルアーツ・サイエンス系科目分野、人 文学系科目分野、社会科学系科目分野、自然 科学系科目分野に区分する。</u></p> <p>(3) <u>主体的学び科目群は、キャリア形成系科 目分野及びキャリア展開系科目分野に区分 する。</u></p> <p>第11条 共通教育科目及び学科科目の種類並び に単位数は、別表第1 のとおりとする。</p> <p>第12条 授業科目は、必修科目、 選択科目及び自由科目に分ける。</p> <p>第13条 授業科目は、各学部の定める履修方法 に従って、所定の単位を修得しなければならな い。</p> <p>(1) 文学部 共通教育科目 28単位以上 学科科目 68単位以上</p> <p>(2) 国際学部 共通教育科目 28単位以上 学科科目 70単位以上</p> <p>(3) 心理学部 共通教育科目 28単位以上</p>

第14条 本大学における卒業の要件は、124単位以上を修得することのほか、本大学が定めることとする。

第19条 各授業科目の単位は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。

(削る)

(削る)

(削る)

学科科目 74単位以上

(4) 社会学部

共通教育科目 28単位以上

学科科目 70単位以上

(5) 法学部

共通教育科目 28単位以上

学科科目 62単位以上

(6) 経済学部

共通教育科目 28単位以上

学科科目 68単位以上

(7) 経営学部

共通教育科目 28単位以上

学科科目 78単位以上

(8) 地域創造学部

共通教育科目 28単位以上

学科科目 66単位以上

第14条 本大学における卒業に必要な最低修得単位数は、124単位とする。

第19条 各授業科目の単位は、1単位の授業科目には45時間の学修を要すること_____を標準とし、授業の方法に応じ、当該授業科目による教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で行われる授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で行われる授業をもって1単位とする。

(3) 1の授業について、講義、演習、実験、実習または実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ

2 各授業科目の授業は、十分な教育効果を上げることができるよう、8週、10週、15週その他の本大学が定める適切な期間を単位として行うものとする。

第20条の2 本大学が一の授業科目について同時に授業を行う学生数は、授業の方法及び施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分に上げられるような適当な人数とするものとする。

第21条 本大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第22条 本大学は、一の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の本大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。

2・3 (略)

第23条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(削る)

をあげることができる認められる場合は、この限りでない。

(新設)

(新設)

第21条 その年度に開講する授業科目は、毎学年始めに発表する。

(新設)

第22条 科目修了の認定は、試験によるほか、平素の成績を総合的に評価して行う。

2・3 (略)

第23条 本大学に入学する以前に修得した単位等は、各学部の定めるところにより、次のとおり認定することができる。

(1) 本大学及び他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した授業科目の単位を含む。)は、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

<p>(削る)</p>	<p>(2) <u>短期大学又は高等専門学校</u>の専攻科における学修は、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。</p>
<p>(削る)</p>	<p>(3) <u>専修学校の専門課程</u>(<u>修業年限が2年以上であること、その他文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。</u>)における学修は、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。</p>
<p>(削る)</p>	<p>(4) <u>文部科学大臣が別に定める学修で、本大学における教育水準に相当すると認めたものは、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。</u></p>
<p>(削る)</p>	<p>(5) <u>前4号により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学及び他大学よりの転学の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えない範囲で卒業に要する単位に算入することができる。</u></p>
<p><u>2 前項の規定は、第24条第2項の場合に準用する。</u></p>	<p>(新設)</p>
<p><u>3 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った第24条の2第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与えることができる。</u></p>	<p>(新設)</p>
<p><u>4 前3項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第24条第1項(同条第2項において準用する場合を含む。)及び第24条の2第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。</u></p>	<p>(新設)</p>
<p>第24条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学、<u>専門職大学</u>又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位</p>	<p>第24条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学_____又は短期大学において履修した授業科目について修得した単</p>

を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなす _____ ことができる。

- 2 前項の規定は、学生が、外国の大学(専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。)又は外国の短期大学に留学する場合、外国の大学又は外国の短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(削る)

(削る)

第24条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第26条 卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第19条第4項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

第27条 本大学を卒業した者には、次のとおり

位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとして認定 _____ することができる。

- 2 前項の規定は、学生が、外国の大学 _____
_____又は _____短期大学に留学する場合、外国の大学又は _____短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は _____短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

3 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う文部科学大臣が別に定める学修を本大学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与えることができる。

- 4 前3項により認定することができる単位数は、入学する以前に修得した単位と合わせて、60単位を超えない範囲で卒業に要する単位に算入することができる。

(新設)

第26条 本大学に4年以上在学し、所定の課程を修めた者をもって、卒業したものとする。

第27条 本大学を卒業した者には、次のとおり

学位を授与する。

文学部

人文学科 学士（文学）

国際学部

国際学科 学士（国際学）

心理学部

心理学科 学士（心理学）

社会学部

社会学科 学士（社会学）

法学部

法律学科 学士（法学）

経済学部

経済学科 学士（経済学）

経営学部

経営学科 学士（経営学）

地域創造学部

地域創造学科 学士（地域創造学）

理工学部

数理・データサイエンス学科 学士（理学）

機械工学科 学士（工学）

電気電子工学科 学士（工学）

情報工学科 学士（工学）

第33条 本大学の第3年次へ編入学又は他大学から本大学に転学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とし、選考の上、これを許可する。

(1) 大学を卒業した者又は学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者

(2)～(6) (略)

2 (略)

第62条 (略)

2 (略)

3 学友会に関する会則は、別に定める。

第66条 学生で次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。

学位を授与する。

文学部

人文学科 学士（文学）

国際学部

国際学科 学士（国際学）

心理学部

心理学科 学士（心理学）

社会学部

社会学科 学士（社会学）

法学部

法律学科 学士（法学）

経済学部

経済学科 学士（経済学）

経営学部

経営学科 学士（経営学）

地域創造学部

地域創造学科 学士（地域創造学）

(新設)

(新設)

(新設)

(新設)

(新設)

第33条 本大学の第3年次へ編入学又は他大学から本大学に転学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とし、選考の上、これを許可する。

(1) 大学を卒業した者又は学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(2)～(6) (略)

2 (略)

第62条 (略)

2 (略)

3 学友会に関する規程は、別に定める。

第66条 学生で次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。

(1) (略)

(2) 休学期間が第36条第2項又は第3項の上限を超える者

(3)・(4) (略)

別表第1(第11条関係)

1 共通教育科目

(1) ファウンデーション科目群

科目分野	授業科目	単位数
初年次科目	数的処理入門	2
	日本語表現	2
	コンピュータ入門1	1
	コンピュータ入門2	1
外国言語科目	総合英語1	2
	総合英語2	2
	Online English Seminar1	1
	Online English Seminar2	1
	Online English Seminar3	1
	Online English Seminar4	1
	Advanced English1	1
	Advanced English2	1
	Academic English1	1
	Academic English2	1
	ドイツ語1	1
	ドイツ語2	1
	フランス語1	1
	フランス語2	1
	中国語1	1
	中国語2	1
	日本語読解中級1	1
	日本語読解中級2	1

(1) (略)

(2) 休学期間が通算3年__を超える者

(3)・(4) (略)

別表第1(第11条関係)

1 共通教育科目

(1) ファウンデーション科目群

科目分野	授業科目	単位数
初年次科目	数的処理入門	2
	日本語表現	2
	コンピュータ入門1	1
	コンピュータ入門2	1
外国言語科目	総合英語1	2
	総合英語2	2
	Online English Seminar1	1
	Online English Seminar2	1
	Online English Seminar3	1
	Online English Seminar4	1
	Advanced English1	1
	Advanced English2	1
	Academic English1	1
	Academic English2	1
	ドイツ語1	1
	ドイツ語2	1
	フランス語1	1
	フランス語2	1
	中国語1	1
	中国語2	1
	日本語読解中級1	1
	日本語読解中級2	1

	日本語聴解中級1	1
	日本語聴解中級2	1
	日本語読解上級1	1
	日本語読解上級2	1
	日本語聴解上級1	1
	日本語聴解上級2	1
体育科目	スポーツ実習1	1
	スポーツ実習2	1
	ネイチャーアクティビティ1	1
	ネイチャーアクティビティ2	1

	日本語聴解中級1	1
	日本語聴解中級2	1
	日本語読解上級1	1
	日本語読解上級2	1
	日本語聴解上級1	1
	日本語聴解上級2	1
体育科目	スポーツ実習1	1
	スポーツ実習2	1
	ネイチャーアクティビティ1	1
	ネイチャーアクティビティ2	1

は、大学が指定する留学生等を対象とした科目である。

(新設)

(2) リベラルアーツ・サイエンス科目群

(2) リベラルアーツ・サイエンス科目群

科目分野	授業科目	単位数
リベラルアーツ・サイエンス系科目	知の探究	2
	未来課題	2
	L&Sゼミ	2
人文学系科目	哲学	2
	芸術学	2
	日本文学	2
	中国文学	2
	西洋文学	2
	言語学	2
	ことばと文化	2
	日本史	2
	アジア・オセアニア史	2
	西洋史	2
	人文地理学	2
	民俗学	2
	国際異文化理解1	10
国際異文化理解2	10	
社会科学系科目	法学	2
	日本国憲法	2

科目分野	授業科目	単位数
リベラルアーツ・サイエンス系科目	知の探究	2
	未来課題	2
	L&Sゼミ	2
人文学系科目	哲学	2
	芸術学	2
	日本文学	2
	中国文学	2
	西洋文学	2
	言語学	2
	ことばと文化	2
	日本史	2
	アジア・オセアニア史	2
	西洋史	2
	人文地理学	2
	民俗学	2
	国際異文化理解1	10
国際異文化理解2	10	
社会科学系科目	法学	2
	日本国憲法	2

	政治学	2
	国際関係論	2
	経済学	2
	経営学	2
	社会・経済思想	2
	社会学	2
	社会福祉学	2
	教育学	2
	スポーツ学	2
	社会の心理	2
	認知の科学	2
自然科学系科目	ものの科学	2
	生命の科学	2
	情報の科学	2

	政治学	2
	国際関係論	2
	経済学	2
	経営学	2
	社会・経済思想	2
	社会学	2
	社会福祉学	2
	教育学	2
	スポーツ学	2
	社会の心理	2
	認知の科学	2
自然科学系科目	ものの科学	2
	生命の科学	2
	情報の科学	2

(3) 主体的学び科目群

科目分野	授業科目	単位数
キャリア形成系科目	自己との対話	1
	追手門アイデンティティ	2
	キャリアデザイン	2
	ボランティア論	2
	キャリア形成プロジェクト	2
	キャリア言語	2
	キャリア数学	2
	リーダーシップ入門	2
	ファシリテーション入門	2
	日本事情1	2
	日本事情2	2
	キャリア展開系科目	リーダーシップ実地基礎演習
リーダーシップゼミナール1		2
リーダーシップゼミナール2		2
リーダーシップゼミナール3		2

(3) 主体的学び科目群

科目分野	授業科目	単位数
キャリア形成系科目	自己との対話	1
	追手門アイデンティティ	2
	キャリアデザイン	2
	ボランティア論	2
	キャリア形成プロジェクト	2
	キャリア言語	2
	キャリア数学	2
	リーダーシップ入門	2
	ファシリテーション入門	2
	日本事情1	2
	日本事情2	2
	キャリア展開系科目	リーダーシップ実地基礎演習
リーダーシップゼミナール1		2
リーダーシップゼミナール2		2
リーダーシップゼミナール3		2

ール2	
リーダーシップ実地発	2
展演習	
キャリア実践英語1	2
キャリア実践英語2	2
インターンシップ実習	1
プロジェクト実践	1
スポーツケア演習	2
交換留学	4
交換留学	4
海外セミナー	4
短期海外セミナー	2
Japan Program	2
(Japanese History a	
nd Literature) 1	—
Japan Program	2
(Japanese History a	
nd Literature) 2	—
Japan Program	2
(Japanese Traditiona	
l and Contemporary	
Culture) 1	—
Japan Program	2
(Japanese Traditiona	
l and Contemporary	
Culture) 2	—

ール2	
リーダーシップ実地発	2
展演習	
キャリア実践英語1	2
キャリア実践英語2	2
インターンシップ実習	1
プロジェクト実践	1
スポーツケア演習	2
交換留学	4
交換留学	4
海外セミナー	4
短期海外セミナー	2
Japan Program	2
(Japanese History a	
nd Literature) 1	—
Japan Program	2
(Japanese History a	
nd Literature) 2	—
Japan Program	2
(Japanese Traditiona	
l and Contemporary	
Culture) 1	—
Japan Program	2
(Japanese Traditiona	
l and Contemporary	
Culture) 2	—

Japan Program (Modern Japanese S ociety) 1	2
Japan Program (Modern Japanese S ociety) 2	2
Japan Program (Japanese Business and Management) 1	2
Japan Program (Japanese Business and Management) 2	2
Japan Program (Social Issues in Ja pan) 1	2
Japan Program (Social Issues in Ja pan) 2	2
海外インターンシップ	4
国際現地研修	4
グローバルキャリア論	2
日本事情3	2
日本事情4	2
留学生キャリア形成演 習1	2
留学生キャリア形成演 習2	2

は、大学が指定する留学生等を対象とした科目である。

別に定める放送大学の科目を修得した場合並びに大学コンソーシアム大阪単位互換協定により科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は、主体的学び科目群の単位として認定する。

Japan Program (Modern Japanese S ociety) 1	2
Japan Program (Modern Japanese S ociety) 2	2
Japan Program (Japanese Business and Management) 1	2
Japan Program (Japanese Business and Management) 2	2
Japan Program (Social Issues in Ja pan) 1	2
Japan Program (Social Issues in Ja pan) 2	2
海外インターンシップ	4
国際現地研修	4
グローバルキャリア論	2
日本事情3	2
日本事情4	2
留学生キャリア形成演 習1	2
留学生キャリア形成演 習2	2

(新設)

別に定める放送大学の科目を修得した場合並びに大学コンソーシアム大阪単位互換協定により科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は、主体的学び科目群の単位として認定する。

2 学科科目		
(1) 文学部		
人文学科		
授業科目	単位数	備考
新入生演習	2	共通教育科目から28
日本学入門	2	
人文学演習	2	単位以上、学科科目
日本文学概論1	2	から68単位以上を修
日本文学概論2	2	得し、合計124単位以
古典基礎1	2	上修得すること。
古典基礎2	2	
日本語学概論1	2	
日本語学概論2	2	
日本史概論	2	
グローバル化と日本	2	
文化人類学	2	
日本文化論	2	
美学概論	2	
日本美術史概論	2	
建築文化入門	2	
くずし字	2	
博物館入門	2	
人文学情報検索法	2	
日本文学1(古典)	2	
日本文学2(近現代)	2	
日本文学3(超域)	2	
日本文学4(漢文1)	2	
日本文学5(漢文2)	2	
日本文学史1(古典)	2	
日本文学史2(近現代)	2	
日本語学1(音声・音韻)	2	
日本語学2(文法)	2	
日本語史	2	
日本古代史	2	

2 学科科目		
(1) 文学部		
人文学科		
授業科目	単位数	(新設)
新入生演習	2	(新設)
日本学入門	2	
人文学演習	2	
日本文学概論1	2	
日本文学概論2	2	
古典基礎1	2	
古典基礎2	2	
日本語学概論1	2	
日本語学概論2	2	
日本史概論	2	
グローバル化と日本	2	
文化人類学	2	
日本文化論	2	
美学概論	2	
日本美術史概論	2	
建築文化入門	2	
くずし字	2	
博物館入門	2	
人文学情報検索法	2	
日本文学1(古典)	2	
日本文学2(近現代)	2	
日本文学3(超域)	2	
日本文学4(漢文1)	2	
日本文学5(漢文2)	2	
日本文学史1(古典)	2	
日本文学史2(近現代)	2	
日本語学1(音声・音韻)	2	
日本語学2(文法)	2	
日本語史	2	
日本古代史	2	

日本中世史	2
日本近世史	2
日本近現代史	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
日本文化史1	2
日本文化史2	2
西洋文化史1	2
西洋文化史2	2
日本文化遺産論	2
批評理論	2
日本の芸能と文学	2
大阪・京都の文学	2
アジアの文学	2
文学作品研究	2
日本語の方言	2
日本芸能史	2
芸能研究	2
近代演劇論	2
シナリオ論	2
アニメ・漫画文化論	2
日本文学特殊講義1 (古典)	2
日本文学特殊講義2 (近現代)	2
日本文学特殊講義3 (超域)	2
書道1	2
書道2	2
古文書学	2
日本史料学	2
史料演習	2
日本宗教・思想史	2
グローバルヒストリ	2
—	

日本中世史	2
日本近世史	2
日本近現代史	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
日本文化史1	2
日本文化史2	2
西洋文化史1	2
西洋文化史2	2
日本文化遺産論	2
批評理論	2
日本の芸能と文学	2
大阪・京都の文学	2
アジアの文学	2
文学作品研究	2
日本語の方言	2
日本芸能史	2
芸能研究	2
近代演劇論	2
シナリオ論	2
アニメ・漫画文化論	2
日本文学特殊講義1 (古典)	2
日本文学特殊講義2 (近現代)	2
日本文学特殊講義3 (超域)	2
書道1	2
書道2	2
古文書学	2
日本史料学	2
史料演習	2
日本宗教・思想史	2
グローバルヒストリ	2
—	

畿内・上方文化論	2
大阪学	2
日本史特殊講義1	2
日本史特殊講義2	2
アジア文化論	2
メディア文化論	2
ポップカルチャー論	2
デザイン文化論	2
都市文化史	2
建築文化計画	2
都市景観論	2
建築の環境1	2
建築の環境2	2
生活文化史	2
居住空間史	2
住宅構法論	2
日本建築史	2
西洋建築史	2
近代建築史	2
建築文化設計1	3
建築文化設計2	3
地誌学1	2
地誌学2	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
日本文化特殊講義1	2
日本文化特殊講義2	2
日本文化フィールドワーク	2
日本語教育入門	2
日本語教授法	2
日本語教育演習	2
日本語教育実習	1
国語科教育論1	2
国語科教育論2	2

畿内・上方文化論	2
大阪学	2
日本史特殊講義1	2
日本史特殊講義2	2
アジア文化論	2
メディア文化論	2
ポップカルチャー論	2
デザイン文化論	2
都市文化史	2
建築文化計画	2
都市景観論	2
建築の環境1	2
建築の環境2	2
生活文化史	2
居住空間史	2
住宅構法論	2
日本建築史	2
西洋建築史	2
近代建築史	2
建築文化設計1	3
建築文化設計2	3
地誌学1	2
地誌学2	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
日本文化特殊講義1	2
日本文化特殊講義2	2
日本文化フィールドワーク	2
日本語教育入門	2
日本語教授法	2
日本語教育演習	2
日本語教育実習	1
国語科教育論1	2
国語科教育論2	2

国語科教育論3	2
国語科教育論4	2
電子出版	2
第二言語習得	2
言語と心理	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
コンピュータデザイン	2
博物館実習	3
製図基礎	2
建築の構造1	2
建築の構造2	2
建築文化論1	2
建築文化論2	2
建築文化論3	2
建築文化論4	2
法律学概論1	2
法律学概論2	2
社会学概論1	2
社会学概論2	2
哲学概論1	2
哲学概論2	2
倫理学概論1	2
倫理学概論2	2
社会科教育論1(地理歴史分野)	2
社会科教育論2(公民分野)	2
社会科・地理歴史科教育論	2

国語科教育論3	2
国語科教育論4	2
電子出版	2
第二言語習得	2
言語と心理	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
コンピュータデザイン	2
博物館実習	3
製図基礎	2
建築の構造1	2
建築の構造2	2
建築文化論1	2
建築文化論2	2
建築文化論3	2
建築文化論4	2
法律学概論1	2
法律学概論2	2
社会学概論1	2
社会学概論2	2
哲学概論1	2
哲学概論2	2
倫理学概論1	2
倫理学概論2	2
社会科教育論1(地理歴史分野)	2
社会科教育論2(公民分野)	2
社会科・地理歴史科教育論	2

社会科・公民科教育論	2		社会科・公民科教育論	2	
社会教育概論1	2		社会教育概論1	2	
社会教育概論2	2		社会教育概論2	2	
国際コミュニケーション論	4		国際コミュニケーション論	4	
国際事情	4		国際事情	4	
国際特別演習	4		国際特別演習	4	
国際表現演習	4		国際表現演習	4	
文献講読	2		文献講読	2	
専門演習1	2		専門演習1	2	
専門演習2	2		専門演習2	2	
専門演習3	2		専門演習3	2	
専門演習4	2		専門演習4	2	
専門演習5	2		専門演習5	2	
卒業研究	6		卒業研究	6	

(2) 国際学部

国際学科

授業科目	単位数	備考
English 1 (Reading & Writing)	4	共通教育科目から28単位以上、学科科目から70単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
English 2 (Reading & Writing)	4	
English 3(Communication)	4	
English 4 (Speech & Presentation)	4	
English 5(English for Qualification)	2	
English 6(English for Conversation)	2	
Advanced English 1(プレゼンテーション演習)	2	
Advanced English	2	

(2) 国際学部

国際学科

授業科目	単位数	(新設)
English 1 (Reading & Writing)	4	(新設)
English 2 (Reading & Writing)	4	
English 3(Communication)	4	
English 4 (Speech & Presentation)	4	
English 5(English for Qualification)	2	
English 6(English for Conversation)	2	
Advanced English 1(プレゼンテーション演習)	2	
Advanced English	2	

2(クリティカルシンキング演習)	
Advanced English	2
3(資格英語演習)	
Advanced English	2
4(アカデミックライティング演習)	
国際・地域文化関係論(基礎)	2
国際・地域交流論(基礎)	2
国際・地域言語表現論(基礎)	2
グローバルビジネス論	2
グローバルビジネス論	2
グローバルビジネス論	2
国際開発支援論	2
国際開発支援論	2
国際開発支援論	2
英語学概論1	2
英語学概論2	2
英語学概説1	2
英語学概説2	2
英文学概論	2
米文学概論	2
イギリス歴史・文化講義	2
アメリカ歴史・文化講義	2
異文化交流1	6
異文化交流2	6
グローバルリベラルアーツ1	2
グローバルリベラル	2

2(クリティカルシンキング演習)	
Advanced English	2
3(資格英語演習)	
Advanced English	2
4(アカデミックライティング演習)	
国際・地域文化関係論(基礎)	2
国際・地域交流論(基礎)	2
国際・地域言語表現論(基礎)	2
グローバルビジネス論	2
グローバルビジネス論	2
グローバルビジネス論	2
国際開発支援論	2
国際開発支援論	2
国際開発支援論	2
英語学概論1	2
英語学概論2	2
英語学概説1	2
英語学概説2	2
英文学概論	2
米文学概論	2
イギリス歴史・文化講義	2
アメリカ歴史・文化講義	2
異文化交流1	6
異文化交流2	6
グローバルリベラルアーツ1	2
グローバルリベラル	2

アーツ2	
グローバルリベラル	2
アーツ3	
グローバル論	2
多文化マネジメント	2
論	
ICTとイノベーション	2
国際・地域文化関係	2
論（展開）	
国際・地域交流論(展	2
開)	
国際・地域言語表現	2
論（展開）	
国際・地域文化関係	2
論（特殊講義）	
国際・地域交流論(特	2
殊講義)	
国際・地域言語表現	2
論（特殊講義）	
グローバルビジネス	2
論	
グローバルビジネス	2
論特殊講義	
グローバルビジネス	2
論特殊講義	
国際開発支援論	2
国際開発支援論特殊	2
講義	
国際開発支援論特殊	2
講義	
グローバル言語特殊	2
講義	
グローバル言語特殊	2
講義	
グローバル言語特殊	2
講義	

アーツ2	
グローバルリベラル	2
アーツ3	
グローバル論	2
多文化マネジメント	2
論	
ICTとイノベーション	2
国際・地域文化関係	2
論（展開）	
国際・地域交流論(展	2
開)	
国際・地域言語表現	2
論（展開）	
国際・地域文化関係	2
論（特殊講義）	
国際・地域交流論(特	2
殊講義)	
国際・地域言語表現	2
論（特殊講義）	
グローバルビジネス	2
論	
グローバルビジネス	2
論特殊講義	
グローバルビジネス	2
論特殊講義	
国際開発支援論	2
国際開発支援論特殊	2
講義	
国際開発支援論特殊	2
講義	
グローバル言語特殊	2
講義	
グローバル言語特殊	2
講義	
グローバル言語特殊	2
講義	

グローバル言語特殊	2
講義	
留学特別演習1	1
留学特別演習2	1
国際体験	4
国際体験	4
国際体験	4
国際研究演習1	4
国際研究演習2	4
数理・DS・AI 1	2
数理・DS・AI 2	2
情報セキュリティー	2
テキスト解析	2
デジタルコンテンツ	2
開発演習	
データベース演習	2
Global Seminar 1	2
Global Seminar 2	2
Global Studies 1	2
Global Studies 2	2
Global Studies 3	2
Global Studies 4	2
プロジェクト1	2
プロジェクト2	2
プロジェクト3	2
プロジェクト4	2
自主研究	2
自主研究	2
日本語演習1	2
日本語演習2	2
ビジネス日本語1	2
ビジネス日本語2	2
卒業研究	4

(3) 心理学部
心理学科

グローバル言語特殊	2
講義	
留学特別演習1	1
留学特別演習2	1
国際体験	4
国際体験	4
国際体験	4
国際研究演習1	4
国際研究演習2	4
数理・DS・AI 1	2
数理・DS・AI 2	2
情報セキュリティー	2
テキスト解析	2
デジタルコンテンツ	2
開発演習	
データベース演習	2
Global Seminar 1	2
Global Seminar 2	2
Global Studies 1	2
Global Studies 2	2
Global Studies 3	2
Global Studies 4	2
プロジェクト1	2
プロジェクト2	2
プロジェクト3	2
プロジェクト4	2
自主研究	2
自主研究	2
日本語演習1	2
日本語演習2	2
ビジネス日本語1	2
ビジネス日本語2	2
卒業研究	4

(3) 心理学部
心理学科

授業科目	単位数	備考	授業科目	単位数	(新設)
特別演習1	2	共通教育科目から28 単位以上、学科科目 から74単位以上を修 得し、合計124単位以 上修得すること。	特別演習1	2	(新設)
特別演習2	2		特別演習2	2	
卒業研究1	2		卒業研究1	2	
卒業研究2	2		卒業研究2	2	
卒業論文	4		卒業論文	4	
心理学概論1	2		心理学概論1	2	
心理学概論2	2		心理学概論2	2	
心理学総合科目	2		心理学総合科目	2	
倫理学概論1	2		倫理学概論1	2	
倫理学概論2	2		倫理学概論2	2	
社会学概論1	2		社会学概論1	2	
社会学概論2	2		社会学概論2	2	
心理学の歴史	2		心理学の歴史	2	
公認心理師の職責	2		公認心理師の職責	2	
関係行政論	2		関係行政論	2	
認知・脳科学概論	2		認知・脳科学概論	2	
知覚・認知心理学	2		知覚・認知心理学	2	
認知心理学	2		認知心理学	2	
神経・生理心理学	2		神経・生理心理学	2	
認知神経心理学	2		認知神経心理学	2	
感情心理学	2		感情心理学	2	
社会認知神経科学	2		社会認知神経科学	2	
生涯発達・生涯教育	2		生涯発達・生涯教育	2	
心理学概論			心理学概論		
発達心理学	2		発達心理学	2	
教育心理学	2		教育心理学	2	
子ども学	2		子ども学	2	
カウンセリング心理 学	2		カウンセリング心理 学	2	
家族心理学	2		家族心理学	2	
比較心理学	2		比較心理学	2	
学習・言語心理学	2		学習・言語心理学	2	
教育・学校心理学	2		教育・学校心理学	2	
実験発達心理学	2		実験発達心理学	2	
臨床心理学概論	2		臨床心理学概論	2	

心理学的支援法	2
感情・人格心理学	2
精神分析学	2
精神疾患とその治療	2
人体の構造と機能及び疾病	2
司法臨床心理学	2
障害者・障害児心理学	2
医療臨床心理学	2
福祉心理学	2
遊戯療法論	2
認知行動療法論	2
健康・医療心理学	2
社会・犯罪心理学概論	2
社会・集団・家族心理学	2
社会心理学	2
司法・犯罪心理学	2
対人行動論	2
産業・組織心理学	2
心理学実験	2
心理調査法実習	1
心理検査実習1	1
心理検査実習2	1
心理面接実習1	1
心理面接実習2	1
認知神経科学特講	2
認知心理学特講	2
生涯発達心理学特講	2
生涯教育心理学特講	2
犯罪心理学特講	2
社会心理学特講	2
認知神経心理学演習	2
行動論演習	2
心理演習	2

心理学的支援法	2
感情・人格心理学	2
精神分析学	2
精神疾患とその治療	2
人体の構造と機能及び疾病	2
司法臨床心理学	2
障害者・障害児心理学	2
医療臨床心理学	2
福祉心理学	2
遊戯療法論	2
認知行動療法論	2
健康・医療心理学	2
社会・犯罪心理学概論	2
社会・集団・家族心理学	2
社会心理学	2
司法・犯罪心理学	2
対人行動論	2
産業・組織心理学	2
心理学実験	2
心理調査法実習	1
心理検査実習1	1
心理検査実習2	1
心理面接実習1	1
心理面接実習2	1
認知神経科学特講	2
認知心理学特講	2
生涯発達心理学特講	2
生涯教育心理学特講	2
犯罪心理学特講	2
社会心理学特講	2
認知神経心理学演習	2
行動論演習	2
心理演習	2

心理療法演習1	2
心理療法演習2	2
心理療法演習3	2
心理療法演習4	2
心理療法演習5	2
心理療法演習6	2
心理療法演習7	2
上級査定法演習1	2
上級査定法演習2	2
心理学入門演習	2
ライフスタイル演習	2
心理実習1	2
心理実習2	2
メンタルケア演習	2
チャイルドサポート 演習	2
ビジネスリサーチ演 習	2
リサーチャー演習	2
心理学統計法1	2
心理学統計法2	2
心理学的データ解析	2
心理学研究法	2
心理的アセスメント	2
初級心理学外書講読	2
中級心理学外書講読	2
認知心理学講読	2
生涯教育心理学講読	2
発達心理学講読	2
社会心理学講読	2
臨床心理学講読	2
人工知能・認知科学 概論1	2
人工知能・認知科学 概論2	2
自然言語処理概論	2
科学技術と産業倫理	2

心理療法演習1	2
心理療法演習2	2
心理療法演習3	2
心理療法演習4	2
心理療法演習5	2
心理療法演習6	2
心理療法演習7	2
上級査定法演習1	2
上級査定法演習2	2
心理学入門演習	2
ライフスタイル演習	2
心理実習1	2
心理実習2	2
メンタルケア演習	2
チャイルドサポート 演習	2
ビジネスリサーチ演 習	2
リサーチャー演習	2
心理学統計法1	2
心理学統計法2	2
心理学的データ解析	2
心理学研究法	2
心理的アセスメント	2
初級心理学外書講読	2
中級心理学外書講読	2
認知心理学講読	2
生涯教育心理学講読	2
発達心理学講読	2
社会心理学講読	2
臨床心理学講読	2
人工知能・認知科学 概論1	2
人工知能・認知科学 概論2	2
自然言語処理概論	2
科学技術と産業倫理	2

概論	
基礎数学1	2
基礎数学2	2
統計数学	2
情報リテラシー	2
科学技術プログラミ	2
ング演習1	
科学技術プログラミ	2
ング演習2	
データサイエンス演	2
習1	
データサイエンス演	2
習2	
自然言語解析	2
自然言語処理応用	2
音声認識	2
メディア概論	2
画像・映像処理概論	2
パターン認識概論	2
コンピュータ・グラ	2
フィクス基礎	
データマイニング概	2
論	
学習アルゴリズム	2
学習アルゴリズム演	2
習	
データ情報学概論	2
認知科学基礎	2
クラウドソーシング	2
活用法	
思考・発見過程分析	2
人間の思考と人工知	2
能	
身体制御システム論	2
認知計算論	2
信号解析	2
計算機アーキテクチ	2

概論	
基礎数学1	2
基礎数学2	2
統計数学	2
情報リテラシー	2
科学技術プログラミ	2
ング演習1	
科学技術プログラミ	2
ング演習2	
データサイエンス演	2
習1	
データサイエンス演	2
習2	
自然言語解析	2
自然言語処理応用	2
音声認識	2
メディア概論	2
画像・映像処理概論	2
パターン認識概論	2
コンピュータ・グラ	2
フィクス基礎	
データマイニング概	2
論	
学習アルゴリズム	2
学習アルゴリズム演	2
習	
データ情報学概論	2
認知科学基礎	2
クラウドソーシング	2
活用法	
思考・発見過程分析	2
人間の思考と人工知	2
能	
身体制御システム論	2
認知計算論	2
信号解析	2
計算機アーキテクチ	2

ヤ	
情報セキュリティ入門	2
メディアインターフェイス	2
システム解析入門	2
応用プログラミング演習1	2
応用プログラミング演習2	2
国際コミュニケーション論	4
国際特別演習	4
国際事情	4
国際表現演習	4
法律学概論1	2
法律学概論2	2
文化人類学	2
社会福祉概論1	2
社会福祉概論2	2

(4) 社会学部

社会学科

授業科目	単位数	備考
社会学入門演習1	2	共通教育科目から28単位以上、学科科目から70単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
社会学入門演習2	2	
基礎演習1	2	
基礎演習2	2	
専門演習1	2	
専門演習2	2	
卒論演習1	2	
卒論演習2	2	
卒業論文・卒業研究	6	
現代社会学基礎	2	
社会文化デザイン基礎	2	

ヤ	
情報セキュリティ入門	2
メディアインターフェイス	2
システム解析入門	2
応用プログラミング演習1	2
応用プログラミング演習2	2
国際コミュニケーション論	4
国際特別演習	4
国際事情	4
国際表現演習	4
法律学概論1	2
法律学概論2	2
文化人類学	2
社会福祉概論1	2
社会福祉概論2	2

(4) 社会学部

社会学科

授業科目	単位数	(新設)
社会学入門演習1	2	(新設)
社会学入門演習2	2	
基礎演習1	2	
基礎演習2	2	
専門演習1	2	
専門演習2	2	
卒論演習1	2	
卒論演習2	2	
卒業論文・卒業研究	6	
現代社会学基礎	2	
社会文化デザイン基礎	2	

社会問題基礎	2
社会調査基礎	2
社会調査法	2
文化人類学	2
多変量解析法	2
データ分析基礎	2
量的調査法	2
社会学理論	2
質的調査法	2
社会学史	2
情報社会学	2
流行の社会学	2
グローバル社会論	2
科学技術論	2
都市社会論	2
食と農の社会学	2
消費社会論	2
社会問題論	2
家族問題論	2
福祉社会学	2
人権問題論	2
病いの社会学	2
社会階層論	2
現代社会論演習1	2
現代社会論演習2	2
現代社会リサーチ演習1	2
現代社会リサーチ演習2	2
リスク社会論	2
現代社会論	2
環境社会学	2
現代社会特論	2
比較文化論	2
犯罪社会学	2
ダイバーシティの社会学	2

社会問題基礎	2
社会調査基礎	2
社会調査法	2
文化人類学	2
多変量解析法	2
データ分析基礎	2
量的調査法	2
社会学理論	2
質的調査法	2
社会学史	2
情報社会学	2
流行の社会学	2
グローバル社会論	2
科学技術論	2
都市社会論	2
食と農の社会学	2
消費社会論	2
社会問題論	2
家族問題論	2
福祉社会学	2
人権問題論	2
病いの社会学	2
社会階層論	2
現代社会論演習1	2
現代社会論演習2	2
現代社会リサーチ演習1	2
現代社会リサーチ演習2	2
リスク社会論	2
現代社会論	2
環境社会学	2
現代社会特論	2
比較文化論	2
犯罪社会学	2
ダイバーシティの社会学	2

社会調査演習1	2
社会調査演習2	2
ジェンダーの社会学	2
医療社会学	2
現代メディア論	2
マスコミ論	2
文化社会学	2
サブカルチャー論	2
芸術社会学	2
芸能文化論	2
コミュニケーション	2
の社会学	
身体表現論	2
人間関係論	2
演劇論	2
社会文化デザイン演	2
習1	
社会文化デザイン演	2
習2	
コミュニケーション	2
ン・表現入門演習1	
コミュニケーション	2
ン・表現入門演習2	
コミュニケーション	2
ン・表現演習1	
コミュニケーション	2
ン・表現演習2	
サブカルチャー特論	2
メディア文化構想特	2
論	
現代文化論	2
広告の社会学	2
演劇・ダンス演習	2
アート環境創造特論	2
コミュニケーション	2
表現特論	
社会問題特論1	2

社会調査演習1	2
社会調査演習2	2
ジェンダーの社会学	2
医療社会学	2
現代メディア論	2
マスコミ論	2
文化社会学	2
サブカルチャー論	2
芸術社会学	2
芸能文化論	2
コミュニケーション	2
の社会学	
身体表現論	2
人間関係論	2
演劇論	2
社会文化デザイン演	2
習1	
社会文化デザイン演	2
習2	
コミュニケーション	2
ン・表現入門演習1	
コミュニケーション	2
ン・表現入門演習2	
コミュニケーション	2
ン・表現演習1	
コミュニケーション	2
ン・表現演習2	
サブカルチャー特論	2
メディア文化構想特	2
論	
現代文化論	2
広告の社会学	2
演劇・ダンス演習	2
アート環境創造特論	2
コミュニケーション	2
表現特論	
社会問題特論1	2

社会問題特論2	2
現代社会学特殊講義1	2
現代社会学特殊講義2	2
社会文化デザイン特殊講義1	2
社会文化デザイン特殊講義2	2
社会問題特殊講義1	2
社会問題特殊講義2	2
スポーツ社会学	2
スポーツ文化論	2
スポーツ教育学	2
スポーツ心理学	2
スポーツ戦略論	2
スポーツ産業論	2
身体運動行為論	2
スポーツ情報学	2
スポーツ情報戦略論	2
コーチング論	2
スポーツ都市文化論	2
現代社会とスポーツ医学	2
地域社会とスポーツ	2
学校社会・健康スポーツ論	2
発育発達論	2
スポーツ文化概論1	2
スポーツ文化概論2	2
スポーツフィールド実習	2
グローバルスポーツ論	2
身体機能測定評価演習	2
健康スポーツの生理	2

社会問題特論2	2
現代社会学特殊講義1	2
現代社会学特殊講義2	2
社会文化デザイン特殊講義1	2
社会文化デザイン特殊講義2	2
社会問題特殊講義1	2
社会問題特殊講義2	2
スポーツ社会学	2
スポーツ文化論	2
スポーツ教育学	2
スポーツ心理学	2
スポーツ戦略論	2
スポーツ産業論	2
身体運動行為論	2
スポーツ情報学	2
スポーツ情報戦略論	2
コーチング論	2
スポーツ都市文化論	2
現代社会とスポーツ医学	2
地域社会とスポーツ	2
学校社会・健康スポーツ論	2
発育発達論	2
スポーツ文化概論1	2
スポーツ文化概論2	2
スポーツフィールド実習	2
グローバルスポーツ論	2
身体機能測定評価演習	2
健康スポーツの生理	2

学	
健康運動プログラム	2
演習	
国際コミュニケーション	4
ヨン論	
国際特別演習	4
国際事情	4
国際表現演習	4
社会学概論1	2
社会学概論2	2
哲学概論1	2
哲学概論2	2
法律学概論1	2
法律学概論2	2
社会福祉概論1	2
社会福祉概論2	2
日本史概説1	2
日本史概説2	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
地誌学1	2
地誌学2	2
教育心理学	2

(5) 法学部

法律学科

授業科目	単位数	備考
法律基礎	2	共通教育科目から28
法律基礎	2	単位以上、学科科目
法学研究法	2	から62単位以上を修

学	
健康運動プログラム	2
演習	
国際コミュニケーション	4
ヨン論	
国際特別演習	4
国際事情	4
国際表現演習	4
社会学概論1	2
社会学概論2	2
哲学概論1	2
哲学概論2	2
法律学概論1	2
法律学概論2	2
社会福祉概論1	2
社会福祉概論2	2
日本史概説1	2
日本史概説2	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
地誌学1	2
地誌学2	2
教育心理学	2

(5) 法学部

法律学科

授業科目	単位数	(新設)
法律基礎	2	(新設)
法律基礎	2	
法学研究法	2	

法学的研究法	2	得し、合計124単位以上修得すること。	法学的研究法	2
ゼミナール	2		ゼミナール	2
ゼミナール	2		ゼミナール	2
ゼミナール	2		ゼミナール	2
ゼミナール	2		ゼミナール	2
法学入門	2		法学入門	2
法哲学	2		法哲学	2
法社会学	2		法社会学	2
法制史	2		法制史	2
比較法	2		比較法	2
憲法	2		憲法	2
憲法	2		憲法	2
行政法	2		行政法	2
行政法	2		行政法	2
行政法	2		行政法	2
行政法	2		行政法	2
民法	2		民法	2
民法	2		民法	2
民法	2		民法	2
民法	2		民法	2
民法	2		民法	2
民法	2		民法	2
刑法	2		刑法	2
刑法	2		刑法	2
商法	2		商法	2
商法	2		商法	2
商法	2		商法	2
民事手続法	2		民事手続法	2
民事手続法	2		民事手続法	2
民事手続法	2		民事手続法	2
刑事手続法	2		刑事手続法	2
刑事手続法	2		刑事手続法	2
刑事政策	2		刑事政策	2
国際関係法	2		国際関係法	2
国際関係法	2		国際関係法	2
国際取引法	2		国際取引法	2
労働法	2		労働法	2
労働法	2		労働法	2

社会保障法	2		社会保障法	2	
地方自治法	2		地方自治法	2	
環境法	2		環境法	2	
立法学	2		立法学	2	
消費者法	2		消費者法	2	
知的財産法	2		知的財産法	2	
経済法	2		経済法	2	
法と政治	2		法と政治	2	
法と経済	2		法と経済	2	
法と政策	2		法と政策	2	
法と心理	2		法と心理	2	
ジェンダーと法	2		ジェンダーと法	2	
科学技術と法	2		科学技術と法	2	
行政倫理と自治体法務	2		行政倫理と自治体法務	2	
企業倫理と企業法務	2		企業倫理と企業法務	2	

(6) 経済学部

経済学科

授業科目	単位数	備考
初級演習	2	<u>共通教育科目から28単位以上、学科科目から68単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。</u>
コース演習	2	
専門演習	2	
実践基礎経済学	2	
統計学総論	2	
経済数学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
ミクロ経済学	4	
マクロ経済学	4	
論文演習	2	
日本経済史	2	
グローバルヒストリ	2	

(6) 経済学部

経済学科

授業科目	単位数	(新設)
初級演習	2	(新設)
コース演習	2	
専門演習	2	
実践基礎経済学	2	
統計学総論	2	
経済数学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
ミクロ経済学	4	
マクロ経済学	4	
論文演習	2	
日本経済史	2	
グローバルヒストリ	2	

—	
地域とくらし	2
社会とくらし	2
租税論	4
経済政策総論	2
行政法	2
地方財政	2
リスクと向き合う経済学	2
金融ビジネス論	2
国際金融論1	2
国際金融論2	2
ファイナンス	2
ファイナンス演習	2
環境経済学1	2
環境経済学2	2
公共政策	2
公共政策演習	2
地球環境概論	2
地球環境論演習	2
消費経済論1	2
消費経済論2	2
消費者保護論	2
消費データ分析	2
マーケティング	2
生活経済論1	2
生活経済論2	2
社会保障	4
少子高齢化社会論	2
女性起業論	2
男女共同参画社会論	2
ジェンダー論	2
多様社会特殊講義	2
国際メディア論	2
アメリカ経済論	2
アジア経済論	2
ヨーロッパ経済論	2

—	
地域とくらし	2
社会とくらし	2
租税論	4
経済政策総論	2
行政法	2
地方財政	2
リスクと向き合う経済学	2
金融ビジネス論	2
国際金融論1	2
国際金融論2	2
ファイナンス	2
ファイナンス演習	2
環境経済学1	2
環境経済学2	2
公共政策	2
公共政策演習	2
地球環境概論	2
地球環境論演習	2
消費経済論1	2
消費経済論2	2
消費者保護論	2
消費データ分析	2
マーケティング	2
生活経済論1	2
生活経済論2	2
社会保障	4
少子高齢化社会論	2
女性起業論	2
男女共同参画社会論	2
ジェンダー論	2
多様社会特殊講義	2
国際メディア論	2
アメリカ経済論	2
アジア経済論	2
ヨーロッパ経済論	2

オーストラリア経済論	2
国際ビジネスコミュニケーション	2
民法入門	2
政治学概論1	2
政治学概論2	2
法学・政治学特殊講義	2
統計学演習	2
ミクロ経済学演習	2
マクロ経済学演習	2
産業組織論	2
産業組織論演習	2
労働経済学1	2
労働経済学2	2
企業財務入門	2
企業会計原則	2
資産管理	2
情報分析	2
テレワークと経済	2
ビジネス・エコノミクス	2
関西経済	2
日本経済	2
日本経済演習	2
財政学	4
金融論	4
SDGsと経済	2
経済理論・経済史特殊講義	2
外国経済特殊講義	2
人的資源特殊講義	2
労働法制の経済学	2
計量経済学	4
応用ミクロ経済学	2
行動経済学	2

オーストラリア経済論	2
国際ビジネスコミュニケーション	2
民法入門	2
政治学概論1	2
政治学概論2	2
法学・政治学特殊講義	2
統計学演習	2
ミクロ経済学演習	2
マクロ経済学演習	2
産業組織論	2
産業組織論演習	2
労働経済学1	2
労働経済学2	2
企業財務入門	2
企業会計原則	2
資産管理	2
情報分析	2
テレワークと経済	2
ビジネス・エコノミクス	2
関西経済	2
日本経済	2
日本経済演習	2
財政学	4
金融論	4
SDGsと経済	2
経済理論・経済史特殊講義	2
外国経済特殊講義	2
人的資源特殊講義	2
労働法制の経済学	2
計量経済学	4
応用ミクロ経済学	2
行動経済学	2

国際経済学	4
経済変動論	2
ビジネス数理スキル (基礎)	2
ビジネス数理スキル (応用)	2
ビジネスリテラシー (基礎)	2
ビジネスリテラシー (応用)	2
キャリアシミュレ ーション(基礎)	2
キャリアシミュレ ーション(応用)	2
日本史概説1	2
日本史概説2	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
職業指導論	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
地誌学1	2
地誌学2	2
国際コミュニケーシ ョン論	4
国際事情	4
国際特別演習	4
国際表現演習	4

(7) 経営学部

経営学科

授業科目	単位数	備考
------	-----	----

国際経済学	4
経済変動論	2
ビジネス数理スキル (基礎)	2
ビジネス数理スキル (応用)	2
ビジネスリテラシー (基礎)	2
ビジネスリテラシー (応用)	2
キャリアシミュレ ーション(基礎)	2
キャリアシミュレ ーション(応用)	2
日本史概説1	2
日本史概説2	2
西洋史概説1	2
西洋史概説2	2
東洋史概説1	2
東洋史概説2	2
職業指導論	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
自然地理学概説1	2
自然地理学概説2	2
地誌学1	2
地誌学2	2
国際コミュニケーシ ョン論	4
国際事情	4
国際特別演習	4
国際表現演習	4

(7) 経営学部

経営学科

授業科目	単位数	(新設)
------	-----	------

入門演習1	2	共通教育科目から28 単位以上、学科科目 から78単位以上を修 得し、合計124単位以 上修得すること。	入門演習1	2	(新設)
入門演習2	2		入門演習2	2	
基礎演習1	2		基礎演習1	2	
基礎演習2	2		基礎演習2	2	
発展演習1	2		発展演習1	2	
発展演習2	2		発展演習2	2	
卒業演習1	2		卒業演習1	2	
卒業演習2	2		卒業演習2	2	
国際コミュニケーション論	4		国際コミュニケーション論	4	
国際事情	4		国際事情	4	
国際特別演習	4		国際特別演習	4	
国際表現演習	4		国際表現演習	4	
経営学プロジェクト	2		経営学プロジェクト	2	
経営学への招待	4		経営学への招待	4	
経営学への招待	4		経営学への招待	4	
マーケティング論基礎	2		マーケティング論基礎	2	
初級会計学原理	2		初級会計学原理	2	
民法(総則)	2		民法(総則)	2	
経営における心理学	2		経営における心理学	2	
経営情報論	2		経営情報論	2	
経済学基礎	2		経済学基礎	2	
法律学基礎	2		法律学基礎	2	
哲学基礎	2	哲学基礎	2		
経営管理論	2	経営管理論	2		
経営戦略論	2	経営戦略論	2		
経営組織論	2	経営組織論	2		
人的資源管理論	2	人的資源管理論	2		
人事労務管理論	2	人事労務管理論	2		
生産管理論	2	生産管理論	2		
オペレーションズマ ネジメント	2	オペレーションズマ ネジメント	2		
財務管理論	2	財務管理論	2		
ファイナンス論	2	ファイナンス論	2		
国際経営論	2	国際経営論	2		
経営倫理	2	経営倫理	2		

経営行動論	2
現代企業論	2
中小企業論	2
ベンチャー企業論	2
多国籍企業論	2
CSR経営論	2
経営史	2
ビッグビジネス論	2
マーケティング論	2
流通システム基礎	2
流通システム	2
サービスマーケティング論	2
マーケティングリサーチ	2
消費者行動論	2
インターネットマーケティング基礎	2
インターネットマーケティング	2
初級簿記演習	4
商業簿記演習	4
工業簿記演習	4
初級簿記	2
中級簿記	2
中級会計学原理	2
工業簿記	2
原価計算論	2
管理会計論	2
コスト・マネジメント論	2
財務諸表論	2
経営分析論	2
監査論	2
国際会計論	2
民法（物権法）	2
民法（債権法総論）	2

経営行動論	2
現代企業論	2
中小企業論	2
ベンチャー企業論	2
多国籍企業論	2
CSR経営論	2
経営史	2
ビッグビジネス論	2
マーケティング論	2
流通システム基礎	2
流通システム	2
サービスマーケティング論	2
マーケティングリサーチ	2
消費者行動論	2
インターネットマーケティング基礎	2
インターネットマーケティング	2
初級簿記演習	4
商業簿記演習	4
工業簿記演習	4
初級簿記	2
中級簿記	2
中級会計学原理	2
工業簿記	2
原価計算論	2
管理会計論	2
コスト・マネジメント論	2
財務諸表論	2
経営分析論	2
監査論	2
国際会計論	2
民法（物権法）	2
民法（債権法総論）	2

民法（債権法各論）	2
商法	2
会社法基礎	2
知的財産法	2
社会保障法	2
行政法	2
刑法	2
企業法務	2
会社法	2
手形・小切手法	2
国際法	2
税法総論	2
税法各論	2
金融法	2
労働関連法	2
社会調査法1	2
社会調査法2	2
心理データ解析基礎	2
心理データ解析	2
心理統計学基礎	2
コミュニケーション	2
の心理学	
ビジネスの社会心理	2
学	
ビジネス心理実習	4
心理統計学	2
コミュニティ心理学	2
組織心理学	2
感性・デザイン心理	2
学	
広告心理学	2
数学基礎	2
統計学基礎	2
プログラミング入門	2
情報数学基礎	2
情報数学	2
情報統計学基礎	2

民法（債権法各論）	2
商法	2
会社法基礎	2
知的財産法	2
社会保障法	2
行政法	2
刑法	2
企業法務	2
会社法	2
手形・小切手法	2
国際法	2
税法総論	2
税法各論	2
金融法	2
労働関連法	2
社会調査法1	2
社会調査法2	2
心理データ解析基礎	2
心理データ解析	2
心理統計学基礎	2
コミュニケーション	2
の心理学	
ビジネスの社会心理	2
学	
ビジネス心理実習	4
心理統計学	2
コミュニティ心理学	2
組織心理学	2
感性・デザイン心理	2
学	
広告心理学	2
数学基礎	2
統計学基礎	2
プログラミング入門	2
情報数学基礎	2
情報数学	2
情報統計学基礎	2

情報統計学	2	情報統計学	2
情報科学基礎	2	情報科学基礎	2
情報科学	2	情報科学	2
プログラミング基礎	2	プログラミング基礎	2
プログラミング演習	2	プログラミング演習	2
経営情報システム	2	経営情報システム	2
コンピュータネットワーク	2	コンピュータネットワーク	2
ワーク		ワーク	
データベース	2	データベース	2
オペレーションズ・	2	オペレーションズ・	2
リサーチ基礎		リサーチ基礎	
オペレーションズ・	2	オペレーションズ・	2
リサーチ		リサーチ	
アルゴリズムとデー	2	アルゴリズムとデー	2
タ構造		タ構造	
アルゴリズムとデー	2	アルゴリズムとデー	2
タ構造演習		タ構造演習	
機械学習	2	機械学習	2
インターネットビジ	2	インターネットビジ	2
ネス		ネス	
デジタルマネジメン	2	デジタルマネジメン	2
ト		ト	
マルチメディア	2	マルチメディア	2
情報と職業	2	情報と職業	2

(8) 地域創造学部

地域創造学科

授業科目	単位数	備考
地域創造実践演習 (入門)1	2	共通教育科目から28 単位以上、学科科目 から66単位以上を修 得し、合計124単位以 上修得すること。
地域創造実践演習 (入門)2	2	
地域創造実践演習 (基礎)1	2	
地域創造実践演習 (基礎)2	2	

(8) 地域創造学部

地域創造学科

授業科目	単位数	(新設)
地域創造実践演習 (入門)1	2	(新設)
地域創造実践演習 (入門)2	2	
地域創造実践演習 (基礎)1	2	
地域創造実践演習 (基礎)2	2	

地域創造実践演習 (展開)1	2
地域創造実践演習 (展開)2	2
地域創造実践演習 (発展)	2
地域創造実践演習 (総括)	2
卒業研究	4
地域創造学概論	2
地域調査法	2
経済学基礎論	2
マネジメント基礎論	2
会計学基礎論	2
北摂学	2
男女共同参画社会論	2
少子高齢化社会論	2
地域コミュニティ論	2
地域づくりと障害者	2
地域づくりと環境	2
地域文化史研究	2
現代社会論	2
グローバル社会論	2
社会学概論1	2
社会学概論2	2
文化人類学	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
法律学概論1	2
法律学概論2	2
データ分析の基礎	2
質的調査法	2
GIS実習	2
地域政策論1	2
地域政策論2	2
地方自治論	2
地域経済論	2

地域創造実践演習 (展開)1	2
地域創造実践演習 (展開)2	2
地域創造実践演習 (発展)	2
地域創造実践演習 (総括)	2
卒業研究	4
地域創造学概論	2
地域調査法	2
経済学基礎論	2
マネジメント基礎論	2
会計学基礎論	2
北摂学	2
男女共同参画社会論	2
少子高齢化社会論	2
地域コミュニティ論	2
地域づくりと障害者	2
地域づくりと環境	2
地域文化史研究	2
現代社会論	2
グローバル社会論	2
社会学概論1	2
社会学概論2	2
文化人類学	2
人文地理学概説1	2
人文地理学概説2	2
法律学概論1	2
法律学概論2	2
データ分析の基礎	2
質的調査法	2
GIS実習	2
地域政策論1	2
地域政策論2	2
地方自治論	2
地域経済論	2

地域産業論	2
自治体政策論	2
公共政策論	2
住民参加論	2
都市政策論	2
地域開発論	2
地域経営論	2
ソーシャルビジネス論	2
産業・企業演習	2
地域デザイン概論1	2
地域デザイン概論2	2
都市空間計画論	2
農村計画論	2
都市デザイン史	2
住生活論1	2
住生活論2	2
都市景観論	2
都市表象論	2
ユニバーサルデザイン論	2
都市・地域安全論	2
災害復興論	2
地域デザイン演習1	2
地域デザイン演習2	2
観光学1	2
観光学2	2
観光産業論	2
観光資源論	2
観光行動論	2
観光政策論	2
観光交通論	2
観光交流論	2
観光マーケティング論	2
サステナブルツーリズム論	2

地域産業論	2
自治体政策論	2
公共政策論	2
住民参加論	2
都市政策論	2
地域開発論	2
地域経営論	2
ソーシャルビジネス論	2
産業・企業演習	2
地域デザイン概論1	2
地域デザイン概論2	2
都市空間計画論	2
農村計画論	2
都市デザイン史	2
住生活論1	2
住生活論2	2
都市景観論	2
都市表象論	2
ユニバーサルデザイン論	2
都市・地域安全論	2
災害復興論	2
地域デザイン演習1	2
地域デザイン演習2	2
観光学1	2
観光学2	2
観光産業論	2
観光資源論	2
観光行動論	2
観光政策論	2
観光交通論	2
観光交流論	2
観光マーケティング論	2
サステナブルツーリズム論	2

観光地理学	2
観光社会学	2
地域観光論	2
観光マネジメント演習	2
食農マネジメント論1	2
食農マネジメント論2	2
フードビジネス論	2
アグリビジネス論	2
食品流通論	2
農業経済学	2
フードマーケティング論	2
食文化概論	2
食育と食生活論	2
6次産業化論	2
外食産業論	2
食品企業論	2
食品安全論	2
商品開発論	2
食農企画演習	2
地域イベント論	2
地域メディア論	2
現代文化論	2
非営利組織論	2
地域創造学特殊講義1	2
地域創造学特殊講義2	2
国際事情	4
国際コミュニケーション論	4
国際表現演習	4
国際特別演習	4
日本史概説1	2

観光地理学	2
観光社会学	2
地域観光論	2
観光マネジメント演習	2
食農マネジメント論1	2
食農マネジメント論2	2
フードビジネス論	2
アグリビジネス論	2
食品流通論	2
農業経済学	2
フードマーケティング論	2
食文化概論	2
食育と食生活論	2
6次産業化論	2
外食産業論	2
食品企業論	2
食品安全論	2
商品開発論	2
食農企画演習	2
地域イベント論	2
地域メディア論	2
現代文化論	2
非営利組織論	2
地域創造学特殊講義1	2
地域創造学特殊講義2	2
国際事情	4
国際コミュニケーション論	4
国際表現演習	4
国際特別演習	4
日本史概説1	2

日本史概説2	2		日本史概説2	2	
西洋史概説1	2		西洋史概説1	2	
西洋史概説2	2		西洋史概説2	2	
東洋史概説1	2		東洋史概説1	2	
東洋史概説2	2		東洋史概説2	2	
自然地理学概説1	2		自然地理学概説1	2	
自然地理学概説2	2		自然地理学概説2	2	
地誌学1	2		地誌学1	2	
地誌学2	2		地誌学2	2	
政治学概論1	2		政治学概論1	2	
政治学概論2	2		政治学概論2	2	
哲学概論1	2		哲学概論1	2	
哲学概論2	2		哲学概論2	2	
倫理学概論1	2		倫理学概論1	2	
倫理学概論2	2		倫理学概論2	2	

(9) 理工学部

数理・データサイエンス学科

授業科目	単位数	備考
理工学概論	2	共通教育科目から20単位以上、学科科目から84単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
データサイエンス基礎	2	
基礎物理学	2	
基礎物理学実験	2	
入門統計学	2	
微分積分学	2	
微分積分学	2	
微分積分学演習	1	
微分積分学演習	1	
線形代数学	2	
線形代数学	2	
線形代数学演習	1	
線形代数学演習	1	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
プログラミング	2	

(新設)

(新設)

(新設)

科学技術史	2
科学技術英語	2
知的財産論	2
技術者倫理	2
文献講読	2
理工学プロジェクト	2
数理・データサイエンス概論	2
確率・統計	2
オペレーションズ・リサーチ	2
R言語プログラミング	2
統計的推測	2
統計的推測	2
微分方程式	2
代数系基礎	2
複素関数論	2
集合と位相	2
数理最適化	2
テキストマイニング	2
数値解析	2
機械学習	2
フーリエ解析	2
数理モデリング	2
回帰と分類	2
統計的品質管理	2
多変量解析	2
機械学習	2
機械学習プログラミング	2
深層学習	2
経済統計学	2
ベイズ統計学	2
ルベーグ積分と確	2

率論	
数理・データサイ エンス演習	2
情報幾何	2
深層学習プログラ ミング	2
金融数理	2
関数解析	2
時系列解析	2
モデル選択	2
因果推論	2
情報処理	2
情報処理	2
情報理論	2
データ構造とアル ゴリズム	2
論理回路	2
人工知能	2
計算機アーキテク チャ	2
オペレーティング システム	2
コンピュータイン タラクション	2
情報セキュリティ	2
デジタルメディア 処理	2
信号処理	2
自然言語処理	2
ヒューマンインタ フェース	2
画像・音声・情報 処理	2
物性基礎論	2
電子回路	2
電磁気学	2
電磁気学	2
ロボットの機構と 運動	2

制御工学	2	
制御工学	2	
卒業研究	2	
卒業研究	4	
卒業研究	4	

機械工学科

(新設)

授業科目	単位数	備考
理工学概論	2	共通教育科目から 20 単位以上、学科科目から 87 単位以上 を修得し、合計 124 単位以上修得すること。
データサイエンス基礎	2	
基礎物理学	2	
基礎物理学実験	2	
入門統計学	2	
微分積分学	2	
微分積分学	2	
微分積分学演習	1	
微分積分学演習	1	
線形代数学	2	
線形代数学	2	
線形代数学演習	1	
線形代数学演習	1	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
科学技術史	2	
科学技術英語	2	
知的財産論	2	
技術者倫理	2	
文献講読	2	
理工学プロジェクト	2	

(新設)

<u>機械工学概論</u>	2
力学	2
<u>機械力学</u>	2
<u>熱力学</u>	2
<u>流体力学</u>	2
<u>材料力学</u>	2
<u>機械工学演習</u>	1
<u>制御工学</u>	2
<u>機械工学実験</u>	2
<u>機械工学実験</u>	2
<u>機構学</u>	2
<u>物性基礎論</u>	2
<u>機械材料</u>	2
<u>機械力学</u>	2
<u>熱力学</u>	2
<u>流体力学</u>	2
<u>材料力学</u>	2
<u>機械加工</u>	2
<u>伝熱工学</u>	2
<u>生産工学</u>	2
<u>材料強度学</u>	2
<u>計測とデータ処理</u>	2
<u>ロボットの機構と運動</u>	2
<u>制御工学</u>	2
<u>機械設計・製図</u>	2
<u>機械設計・製図</u>	2
<u>機械工学プロジェクト</u>	2
<u>次世代自動車技術</u>	2
<u>宇宙航空工学</u>	2
<u>マイクロ・ナノ工学</u>	2

流体工学	2	
ロボティクス応用	2	
エネルギー変換工学	2	
電気回路	2	
電磁気学	2	
デジタル回路	2	
電気回路	2	
電磁気学	2	
電気電子計測	2	
電気機器学	2	
放電・プラズマ工学	2	
モータ制御工学	2	
次世代エネルギー工学	2	
オペレーションズ・リサーチ	2	
微分方程式	2	
機械学習	2	
情報理論	2	
人工知能	2	
情報セキュリティ	2	
デジタルメディア処理	2	
自然言語処理	2	
ヒューマンインタフェース	2	
画像・音声・情報処理	2	
卒業研究	2	
卒業研究	4	
卒業研究	4	
電気電子工学科		
(新設)		
授業科目	単位数	備考
理工学概論	2	共通教育科目から

(新設)
(新設)

データサイエンス基礎	2	20 単位以上、学科科目から 87 単位以上を修得し、合計 124 単位以上修得すること。
基礎物理学	2	
基礎物理学実験	2	
入門統計学	2	
微分積分学	2	
微分積分学	2	
微分積分学演習	1	
— 微分積分学演習	1	
— 線形代数学	2	
線形代数学	2	
線形代数学演習	1	
— 線形代数学演習	1	
— プログラミング	2	
— プログラミング	2	
— プログラミング	2	
— 理工学プロジェクト	2	
科学技術史	2	
科学技術英語	2	
知的財産論	2	
技術者倫理	2	
文献講読	2	
電気電子工学概論	2	
力学	2	
物性基礎論	2	
電気回路	2	
電子回路	2	
電磁気学	2	
デジタル回路	2	
電気電子工学実験	2	

<u>電気電子工学実験</u>	2
<u>電気数学</u>	2
<u>量子力学</u>	2
<u>電気回路</u>	2
<u>電子回路</u>	2
<u>電磁気学</u>	2
<u>電気電子計測</u>	2
<u>電気電子材料</u>	2
<u>電気電子材料</u>	2
<u>電気電子回路設計</u>	2
<u>電気電子回路設計</u>	2
<u>電力工学</u>	2
<u>電気機器学</u>	2
<u>エネルギー変換工学</u>	2
<u>制御工学</u>	2
<u>制御工学</u>	2
<u>波形処理</u>	2
<u>情報理論</u>	2
<u>量子エレクトロニクス</u>	2
<u>放電・プラズマ工学</u>	2
<u>情報通信ネットワーク</u>	2
<u>次世代エネルギー工学</u>	2
<u>パワーエレクトロニクス</u>	2
<u>モータ制御工学</u>	2
<u>半導体・電子デバイス工学</u>	2
<u>電気・通信法規</u>	2
<u>光通信</u>	2
<u>無線通信システム</u>	2
<u>機械力学</u>	2

<u>機械力学</u>	2
<u>熱力学</u>	2
<u>熱力学</u>	2
<u>流体力学</u>	2
<u>流体力学</u>	2
<u>材料力学</u>	2
<u>材料力学</u>	2
<u>機械材料</u>	2
<u>機械加工</u>	2
<u>生産工学</u>	2
<u>ロボットの機構 と運動</u>	2
<u>次世代自動車技 術</u>	2
<u>宇宙航空工学</u>	2
<u>マイクロ・ナノ 工学</u>	2
<u>確率・統計</u>	2
<u>オペレーション ズ・リサーチ</u>	2
<u>微分方程式</u>	2
<u>代数系基礎</u>	2
<u>複素関数論</u>	2
<u>機械学習</u>	2
<u>フーリエ解析</u>	2
<u>人工知能</u>	2
<u>情報デバイス</u>	2
<u>コンピュータイ ンタラクション</u>	2
<u>情報セキュリテ イ</u>	2
<u>デジタルメディ ア処理</u>	2
<u>自然言語処理</u>	2
<u>ヒューマンイン タフェース</u>	2
<u>画像・音声・情 報処理</u>	2
<u>卒業研究</u>	2

卒業研究	4	
卒業研究	4	

情報工学科

(新設)

授業科目	単位数	備考
理工学概論	2	共通教育科目から 20 単位以上、学科科 目から 82 単位以上 を修得し、合計 124 単位以上修得する こと。
データサイエンス基礎	2	
基礎物理学	2	
基礎物理学実験	2	
入門統計学	2	
微分積分学	2	
微分積分学	2	
微分積分学演習	1	
微分積分学演習	1	
線形代数学	2	
線形代数学	2	
線形代数学演習	1	
線形代数学演習	1	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
プログラミング	2	
理工学プロジェクト	2	
科学技術史	2	
科学技術英語	2	
知的財産論	2	
技術者倫理	2	
文献講読	2	
情報工学概論	2	
情報処理	2	
プログラミング	2	
—	—	

(新設)

<u>情報理論</u>	2
<u>データ構造とアルゴリズム</u>	2
<u>論理回路</u>	2
<u>情報数学</u>	2
<u>人工知能</u>	2
<u>計算機アーキテクチャ</u>	2
<u>オペレーティングシステム</u>	2
<u>コンピュータインタラクション</u>	2
<u>データベース工学</u>	2
<u>情報処理</u>	2
<u>情報デバイス</u>	2
<u>情報通信ネットワーク</u>	2
<u>情報セキュリティ</u>	2
<u>デジタルメディア処理</u>	2
<u>信号処理</u>	2
<u>自然言語処理</u>	2
<u>ヒューマンインタフェース</u>	2
<u>ソフトウェア工学</u>	2
<u>情報工学演習</u>	2
<u>情報工学演習</u>	2
<u>コンピュータグラフィックス</u>	2
<u>画像・音声・情報処理</u>	2
<u>セキュアネットワーク</u>	2
<u>組込みシステム</u>	2
<u>確率・統計</u>	2
<u>オペレーションズ・リサーチ</u>	2
<u>R言語プログラミング</u>	2
<u>統計的推測</u>	2

統計的推測	2
微分方程式	2
数理最適化	2
テキストマイニング	2
機械学習	2
フーリエ解析	2
多変量解析	2
機械学習	2
深層学習	2
ベイズ統計学	2
時系列解析	2
電子回路	2
電気電子計測	2
ロボットの機構と運動	2
制御工学	2
制御工学	2
波形処理	2
光通信	2
無線通信システム	2
卒業研究	2
卒業研究	4
卒業研究	4

別表第6（第52条関係）

2015年度・2016年度入学生適用

授業料	初年度納付金	2年次以降納付金
その他の学費		
授業料	円 750,000	
施設設備充実資金	155,000	315,000
計	905,000	1,065,000

2017年度入学生適用

授業料	初年度納付金	2年次以降納付金
授業料		

別表第6（第52条関係）

2015年度・2016年度入学生適用

授業料	初年度納付金	2年次以降納付金
その他の学費		
授業料	円 750,000	
施設設備充実資金	155,000	315,000
計	905,000	1,065,000

2017年度入学生適用

授業料	初年度納付金	2年次以降納付金
授業料		

その他の学費	金	付金	その他の学費	金	付金
授業料	円 750,000		授業料	円 750,000	
施設設備充実資金	155,000	315,000	施設設備充実資金	155,000	315,000
計	905,000	1,065,000	計	905,000	1,065,000
教育充実費 (国際教養学科)	30,000		教育充実費 (国際教養学科)	30,000	
2018年度・2019年度入学生適用			2018年度・2019年度入学生適用		
授業料	初年度納付	2年次以降納	授業料	初年度納付	2年次以降納
その他の学費	金	付金	その他の学費	金	付金
授業料	円 750,000		授業料	円 750,000	
施設設備充実資金	155,000	315,000	施設設備充実資金	155,000	315,000
計	905,000	1,065,000	計	905,000	1,065,000
教育充実費 (国際教養学部)	30,000		教育充実費 (国際教養学部)	30,000	
2020年度・2021年度入学生適用			2020年度・2021年度入学生適用		
授業料	初年度納付	2年次以降納	授業料	初年度納付	2年次以降納
その他の学費	金	付金	その他の学費	金	付金
授業料	円 850,000		授業料	円 850,000	
施設設備充実資金	155,000	315,000	施設設備充実資金	155,000	315,000
計	1,005,000	1,165,000	計	1,005,000	1,165,000
教育充実費 (国際教養学部)	30,000		教育充実費 (国際教養学部)	30,000	
2022年度入学生より適用			2022年度入学生より適用		
授業料	初年度納付	2年次以降納	授業料	初年度納付	2年次以降納
その他の学費	金	付金	その他の学費	金	付金
授業料	円 850,000		授業料	円 850,000	
施設設備充実資金	155,000	315,000	施設設備充実資金	155,000	315,000
教育充実費	30,000		教育充実費	30,000	
計	1,035,000	1,195,000	計	1,035,000	1,195,000
2025年度入学生(理工学部)より適用			(新設)		

授業料 その他の学費	初年度納付 金	2年次以降納 付金	(新設)
授業料		円	
	1,165,000	1,145,000	
施設設備充実資金	170,000	350,000	
教育充実費		30,000	
計	1,365,000	1,525,000	
<p>なお、編入学、再入学生等については入学する学年の学費を適用する。</p>			<p>なお、編入学、再入学生等については入学する学年の学費を適用する。</p>

追手門学院大学全学教授会及び学部会議に関する規程（案）

2017年6月16日

制定

（趣旨）

第1条 本規程は、全学教授会及び学部会議について必要な事項を定める。

（全学教授会）

第2条 全学教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 大学全体の教育研究及び社会貢献に関する重要な事項で、全学教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- (2) 大学教員の意思統一に関する事項
- (3) 大学教員の研修に関する事項
- (4) その他大学の教育研究及び社会貢献に関する重要な事項

2 全学教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（構成）

第3条 全学教授会は、本学の学長・副学長・教授・准教授及び学部長補佐をもって構成する。

- 2 全学教授会が必要と認めるときは、専任講師及び助教を構成員とすることができる。
- 3 理事長は、全学教授会に出席することができる。
- 4 理事長が別に指名する者は、全学教授会に出席することができる。

（定足数）

第4条 全学教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、これを開くことができない。

- 2 国内研修又は海外研修中の者、療養・休職中の者、産前産後の休暇中の者、育児休業又は介護休業の者及び三か月以上にわたる事故により会議に出席することができないと認められた者は、定足数から除外する。

（招集及び議長）

第5条 全学教授会は、学長がこれを招集し、その議長となる。

- 2 学長に事故あるときは、副学長がこれを代行する。

（会議の開催）

第6条 全学教授会は、原則として年3回会議を開く。ただし、学長の求めのあるときは、会議を開かなければならない。

(議案の提出)

第7条 会議に付議すべき議事の提出は、学長がこれを行う。

2 会議に提出する事項は、1週間前に構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りではない。

(意見表明)

第8条 議事は、出席者の意見を聴いた後これを学長が集約し、全学教授会の意見として表明する。

(学部会議)

第9条 学部会議は、学校教育法第93条により、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業

(2) 学位の授与

(3) 前二号に掲げるもののほか、各学部の教育研究に関する重要な事項で、学部会議の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 学部会議は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長(以下この項において「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(学部会議の構成)

第10条 学部会議は、当該学部に所属する専任の教授、准教授、講師、助教及び学部長補佐をもって構成する。

2 理事長及び学長は、学部会議に出席することができる。

3 理事長又は学長が別に指名する者は、学部会議に出席することができる。

(学部会議の定足数)

第11条 学部会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、これを開くことができない。

2 国内研修又は海外研修中の者、療養・休職中の者、産前産後の休暇中の者、育児休業又は介護休業の者及び三か月以上にわたる事故により会議に出席することができないと認められた者は、定足数から除外する。

(学部会議の招集及び議長)

第12条 学部会議は、学部長がこれを招集し、その議長となる。

2 学部長に事故あるときは、副学部長がこれを代行する。

(学部会議の開催)

第13条 学部会議は、原則として毎月1回会議を開く。ただし、学部長の求めのあるときは、会議を開かなければならない。

(学部会議の議案の提出)

第14条 学部会議に付議すべき議事の提出は、学部長及び学長がこれを行う。

2 学部会議に提出する事項は、1週間前に構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りではない。

(学部会議の意見表明)

第15条 議事は、出席者の意見を聴いた後これを学部長が集約し、学部会議の意見として表明する。

2 前項の規定にかかわらず、学位の取消等、他の規程に別段の定めがあるものは、その規程に定める意見を表明する。

(公開)

第16条 会議の議事次第は個人情報を除き、原則として公開する。

(議事録)

第17条 会議の議事については議事録を作成し、学長に報告しなければならない。

(事務の所管)

第18条 全学教授会に関する事務は、大学政策課の所管とする。

2 学部会議に関する事務は、教務課の所管とする。

(規程の改廃)

第19条 この規程の改廃は、大学教育研究評議会の議を経て、常任理事会が決定する。

附 則

1 この規程は、2017年7月1日から施行する。

2 この規程の制定により、追手門学院大学学部教授会規程(2015年3月14日制定)及び追手門学院大学基盤教育機構教授会規程(2013年2月22日制定)は2017年6月30日をもって廃止する。

附 則

この規程は、2018年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2018年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2021年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2025年4月1日から施行する。

追手門学院大学学部会議等の審議事項に関する規程（案）

2015年3月6日

制定

（目的）

第1条 この規程は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第93条第2項第3号の規定に基づき、学部会議、研究科委員会及び共通教育機構連絡会（以下「学部会議等」という。）の役割を明確化するため、教育研究に関する重要な事項で、学部会議等の意見を聴くことが必要なものとして、次の各号に掲げる事項（共通教育機構連絡会にあっては第3号のみを適用する。）を定める。

- (1) 学生の退学、除籍及び賞罰に関すること。
- (2) 全学教育職員人事委員会から付議された非常勤教員の人事に関すること。
- (3) 教育課程の編成に関すること。

（所管）

第2条 この規程に関する事務は、教務課が行う。

（改廃）

第3条 この規程の改廃は、学部会議等の意見を聴き、大学教育研究評議会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2015年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2017年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2025年4月1日から施行する。

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																	
(理工学部情報工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
初年次科目	数的処理入門	1前・後			2			○							1		
	日本語表現	1前			2				○						1		
	コンピュータ入門1	1前			1			○							1		
	コンピュータ入門2	1後			1			○							1		
小計(4科目)		—	—	0	6	0		—			0	0	0	0	0	3	
ファウンデーション科目群	総合英語1	1前		2				○							1		
	総合英語2	1後		2				○							1		
	Advanced English1	2前			1				○						1		
	Advanced English2	2後			1				○						1		
	Academic English1	2・3前			1				○						1		
	Academic English2	2・3後			1				○						1		
	Online English Seminar1	1前		1					○						1		
	Online English Seminar2	1後		1					○						1		
	Online English Seminar3	2前			1				○						1		
	Online English Seminar4	2後			1				○						1		
	ドイツ語1	1前・後			1				○						1		
	ドイツ語2	1前・後			1				○						1		
	フランス語1	1前・後			1				○						1		
	フランス語2	1前・後			1				○						1		
	中国語1	1前・後			1				○						1		
	中国語2	1前・後			1				○						1		
小計(16科目)		—	—	6	12	0		—			0	0	0	0	0	5	
体育科目	スポーツ実習1	1前			1					○					1		
	スポーツ実習2	1後			1					○					1		
	ネイチャーアクティビティ1	1休			1					○					1	集中	
	ネイチャーアクティビティ2	1休			1					○					1	集中	
小計(4科目)		—	—	0	4	0		—			0	0	0	0	0	1	
リベラルアーツ・サイエンス系科目	知の探究	1後			2				○						1		
	未来課題	2前・後			2			○							1		
	L&Sゼミ	2前・後			2				○						1		
	小計(3科目)		—	—	0	6	0		—			0	0	0	0	0	3
人文系科目	哲学	1前・後			2			○							1		
	芸術学	1前・後			2			○							1		
	日本文学	1前・後			2			○							1		
	中国文学	1前・後			2			○							1		
	西洋文学	1前・後			2			○							1		
	言語学	1前・後			2			○							1		
	ことばと文化	1前・後			2			○							1		
	日本史	1前・後			2			○							1		
アジア・オセアニア史	1前・後			2			○							1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
リベラルアーツ・サイエンス科目群	人文学系科目	西洋史	1前・後			2		○								1	
	人文地理学	1前・後			2		○									1	
	民俗学	1前・後			2		○									1	
	国際異文化理解1	2・3後			10			○								1	
	国際異文化理解2	3・4前			10			○								1	
	小計(14科目)	—	—	0	44	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	
	社会科学系科目	法学	1前・後			2		○								1	
	日本国憲法	1前・後			2		○									1	
	政治学	1前・後			2		○									1	
	国際関係論	1前・後			2		○									1	
	経済学	1前・後			2		○									1	
	経営学	1前・後			2		○									1	
	社会・経済思想	1前・後			2		○									1	
	社会学	1前・後			2		○									1	
社会福祉学	1前・後			2		○									1		
教育学	1前・後			2		○									1		
スポーツ学	1前・後			2		○									1		
社会の心理	1前・後			2		○									1		
認知の科学	1前・後			2		○									1		
小計(13科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11		
自然科学系科目	ものの科学	1前・後			2		○								1		
生命の科学	1前・後			2		○									1		
情報の科学	1前・後			2		○									1		
小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3		
共通教育科目	キャリア形成系科目	自己との対話	1前			1			○							1	
	追手門アイデンティティ	1前			2		○									1	
	キャリアデザイン	2前・後			2		○									1	
	ボランティア論	1前・後			2		○									1	
	キャリア形成プロジェクト	1前・後			2		○									1	
	キャリア言語	1前・後			2		○									1	
	キャリア数学	1前・後			2		○									1	
	リーダーシップ入門	1前・後			2			○								1	
	ファシリテーション入門	1前・後			2			○								1	
	小計(9科目)	—	—	0	17	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	
主体的学び科目群	キャリア展開系科目	リーダーシップ実地基礎演習	1・2・3・4通			2				○						1	
	リーダーシップゼミナール1	2・3前			2				○							1	
	リーダーシップゼミナール2	2・3後			2				○							1	
	リーダーシップ実地発展演習	2・3・4通			2					○						1	
	キャリア実践英語1	1前			2		○									1	
	キャリア実践英語2	1後			2		○									1	
	プロジェクト実践Ⅰ	1・2・3通			1					○						1	集中
	プロジェクト実践Ⅱ	1・2・3通			1					○						1	集中
	プロジェクト実践Ⅲ	1・2・3通			1					○						1	集中
	プロジェクト実践Ⅳ	1・2・3通			1					○						1	集中
	インターンシップ実習Ⅰ	3・4通			1					○						1	集中
	インターンシップ実習Ⅱ	3・4通			1					○						1	集中
	インターンシップ実習Ⅲ	3・4通			1					○						1	集中
	インターンシップ実習Ⅳ	3・4通			1					○						1	集中
	スポーツケア演習	1前・後			2				○							1	
交換留学Ⅰ	1・2・3後			4				○							1		
交換留学Ⅱ	2・3・4前			4				○							1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員以外の教員		
共通教育科目	キャリア展開系科目																	
	主體的学び科目群																	
	海外セミナー	1・2・3休			4			○							1	集中		
	短期海外セミナー	1・2・3休			2			○							1	集中		
	海外インターンシップ	3休				4									1	集中		
	国際現地研修	2・3休				4									1	集中		
	グローバルキャリア論	2・3前			2			○							1			
	小計(22 科目)	—	—	0	46	0		—		0	0	0	0	0	0	6		
学科学科目	基盤共通科目	理工学概論	1前		2			○			3						6	オムニバス
		データサイエンス基礎	1前		2			○									2	
		基礎物理学	1前		2			○									1	
		基礎物理学実験	1後		2					○							11	オムニバス・一部共同 ※ 講義
		入門統計学	1後		2			○									2	
		微分積分学Ⅰ	1前		2			○									6	
		微分積分学Ⅱ	1後		2			○									6	
		微分積分学演習Ⅰ	1前		1				○								6	
		微分積分学演習Ⅱ	1後		1				○								6	
		線形代数学Ⅰ	1前		2			○									6	
		線形代数学Ⅱ	1後		2			○									6	
		線形代数学演習Ⅰ	1前		1				○								6	
		線形代数学演習Ⅱ	1後		1				○								6	
		プログラミングⅠ	1前		2				○				1	1			1	※講義
		プログラミングⅡ	1後		2				○			2	1				1	※講義
		プログラミングⅢ	2前		2				○			2	1				1	※講義
		科学技術史	2後		2			○									1	
		科学技術英語	2後		2			○									1	
		知的財産論	2前		2			○									1	
		技術者倫理	3前		2			○									1	
		文献講読	3前		2			○				2	1				4	
		理工学プロジェクト	3前		2				○			1						
	小計(22 科目)	—	—	32	8	0		—		6	1	1	1	0	29			
専門基礎科目	情報工学概論	1後	○	2			○			6	1	1	1				オムニバス	
	情報処理Ⅰ	2前	○	2				○		1							※講義	
	プログラミングⅣ	2後	○	2				○		1		1					※講義	
	情報理論	2前	○	2			○			1								
	データ構造とアルゴリズム	2前	○	2			○			1								
	論理回路	2前	○	2			○			1								
	小計(6 科目)	—	—	12	0	0		—		6	1	1	1	0	0			
専門基幹科目	情報数学	2前	○	2			○			1							※演習	
	人工知能	2前	○	2			○			1								
	計算機アーキテクチャ	2後	○	2			○			1								
	オペレーティングシステム	2後	○	2			○			1								
	コンピュータインタラクション	2後	○	2			○				1							
	データベース工学	2後	○	2			○			1		1						
	情報処理Ⅱ	2後	○	2				○		1							※講義	
	情報デバイス	2後	○	2			○			1								
	R言語プログラミング	2後	○	2				○							1		※講義	
	情報通信ネットワーク	3前	○	2			○			1								
	情報セキュリティ	3前	○	2			○			1								
	デジタルメディア処理	3前	○	2			○			1								
信号処理	3前	○	2			○			1									
自然言語処理	3前	○	2			○								1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門基幹科目	ヒューマンインタフェース	3前	○		2		○				1						
	ソフトウェア工学	3前	○		2		○			1							
	情報工学演習Ⅰ	2後	○	2				○		1	1						
	情報工学演習Ⅱ	3前	○	2				○		1	1						
	小計(18科目)	—	—	4	32	0	—	—	—	6	1	0	0	0	1		
専門発展科目	コンピュータグラフィックス	3後			2		○			1							※演習
	画像・音声・情報処理	3後			2		○			1							※演習
	セキュアネットワーク	3後			2		○			1		1					
	組込みシステム	3後			2		○										
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	3	0	1	0	0	0		
学科学科目 専門展開科目	確率・統計	1後			2		○										1
	オペレーションズ・リサーチ	1後			2		○										1
	統計的推測Ⅰ	2前			2		○										1
	統計的推測Ⅱ	2後			2		○										1
	微分方程式	2前			2		○										1
	数理解最適化	2前			2		○										1
	テキストマイニング	2前			2		○										1
	機械学習Ⅰ	2後			2		○										1
	フーリエ解析	2後			2		○										1
	多変量解析	3前			2		○										1
	機械学習Ⅱ	3前			2		○										1
	深層学習	3前			2		○										1
	ベイズ統計学	3前			2		○										1
	時系列解析	3後			2		○										1
	電子回路Ⅰ	2前			2		○										1
	電気電子計測	2後			2		○										1
	ロボットの機構と運動	3前			2		○										1
	制御工学Ⅰ	3前			2		○										1
	制御工学Ⅱ	3後			2		○										1
	波形処理	3前			2		○										1
光通信	3後			2		○										1	
無線通信システム	3後			2		○										1	
	小計(22科目)	—	—	0	44	0	—	—	—	0	0	0	0	0	15		
研究科目	卒業研究Ⅰ	3後	○	2				○		6	1						
	卒業研究Ⅱ	4前	○	4				○		6	1						
	卒業研究Ⅲ	4後	○	4				○		6	1						
	小計(3科目)	—	—	10	0	0	—	—	—	6	1	0	0	0	0		
合計(163科目)		—	—	64	259	0	—	—	—	6	1	1	1	0	63		
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
共通教育科目から20単位以上(うち必修科目6単位、リベラルアーツ・サイエンス科目群の選択科目から8単位以上)、学科学科目から82単位以上(うち必修科目58単位、基盤共通科目の選択科目から2単位以上、専門基幹科目の選択科目から12単位以上、専門発展科目の選択科目から4単位以上、専門展開科目の選択科目から6単位以上)を修得し、総計124単位を取得すること。 (履修科目の登録の上限:44単位(年間))							1学年の学期区分		2期								
							1学期の授業期間		13週								
							1時限の授業の標準時間		105分								

教 育 課 程 等 の 概 要

（理工学部情報工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外（助手を除く）の教員	
初年次科目	数的処理入門	1前・後			2			○								1	
	日本語表現	1前			2				○							1	
	コンピュータ入門1	1前			1			○								1	
	コンピュータ入門2	1後			1			○								1	
	小計(4科目)	—	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	0	3	
フアウンテーション 外国言語科目群	総合英語1	1前		2				○								1	
	総合英語2	1後		2				○								1	
	Advanced English1	2前			1				○							1	
	Advanced English2	2後			1				○							1	
	Academic English1	2・3前			1				○							1	
	Academic English2	2・3後			1				○							1	
	Online English Seminar1	1前		1					○							1	
	Online English Seminar2	1後		1					○							1	
	Online English Seminar3	2前			1				○							1	
	Online English Seminar4	2後			1				○							1	
	ドイツ語1	1前・後			1				○							1	
	ドイツ語2	1前・後			1				○							1	
	フランス語1	1前・後			1				○							1	
	フランス語2	1前・後			1				○							1	
	中国語1	1前・後			1				○							1	
	中国語2	1前・後			1				○							1	
	小計(16科目)	—	—	6	12	0		—		0	0	0	0	0	0	5	
エンベラルーツ・サイ	知の探究	1後			2				○							1	
	未来課題	2前・後			2				○							1	
	L&Sゼミ	2前・後			2				○							1	
	小計(3科目)	—	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	0	3	
リベラルアーツ・サイ	哲学	1前・後			2				○							1	
	芸術学	1前・後			2				○							1	
	日本文学	1前・後			2				○							1	
	中国文学	1前・後			2				○							1	
	西洋文学	1前・後			2				○							1	
	言語学	1前・後			2				○							1	
	ことばと文化	1前・後			2				○							1	
	日本史	1前・後			2				○							1	
	アジア・オセアニア史	1前・後			2				○							1	
	西洋史	1前・後			2				○							1	
	人文地理学	1前・後			2				○							1	
	民俗学	1前・後			2				○							1	
	国際異文化理解1	2・3後			10					○						1	
	国際異文化理解2	3・4前			10					○						1	
	小計(14科目)	—	—	0	44	0		—		0	0	0	0	0	0	9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
リベラルアーツ・サイエンス科目群	法学	1前・後			2		○									1	
	日本国憲法	1前・後			2		○									1	
	政治学	1前・後			2		○									1	
	国際関係論	1前・後			2		○									1	
	経済学	1前・後			2		○									1	
	経営学	1前・後			2		○									1	
	社会・経済思想	1前・後			2		○									1	
	社会学	1前・後			2		○									1	
	社会福祉学	1前・後			2		○									1	
	教育学	1前・後			2		○									1	
	スポーツ学	1前・後			2		○									1	
	社会の心理	1前・後			2		○									1	
	認知の科学	1前・後			2		○									1	
小計(13科目)	—	—	—	0	26	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	
自然科学系	ものの科学	1前・後			2		○									1	
	生命の科学	1前・後			2		○									1	
	情報の科学	1前・後			2		○									1	
	小計(3科目)	—	—	—	0	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	3	
共通教育科目	自己との対話	1前			1			○								1	
	追手門アイデンティティ	1前			2		○									1	
	キャリアデザイン	2前・後			2		○									1	
	ボランティア論	1前・後			2		○									1	
	キャリア形成プロジェクト	1前・後			2		○									1	
	キャリア言語	1前・後			2		○									1	
	キャリア数学	1前・後			2		○									1	
	リーダーシップ入門	1前・後			2			○								1	
	ファシリテーション入門	1前・後			2			○								1	
	小計(9科目)	—	—	—	0	17	0	—	—	—	—	—	—	—	—	5	
主体的学び科目群	リーダーシップ実地基礎演習	1・2・3・4通			2				○							1	
	リーダーシップゼミナール1	2・3前			2			○								1	
	リーダーシップゼミナール2	2・3後			2			○								1	
	リーダーシップ実地発展演習	2・3・4通			2				○							1	
	キャリア実践英語1	1前			2		○									1	
	キャリア実践英語2	1後			2		○									1	
	プロジェクト実践Ⅰ	1・2・3通			1				○							1	集中
	プロジェクト実践Ⅱ	1・2・3通			1				○							1	集中
	プロジェクト実践Ⅲ	1・2・3通			1				○							1	集中
	プロジェクト実践Ⅳ	1・2・3通			1				○							1	集中
	インターンシップ実習Ⅰ	3・4通			1				○							1	集中
	インターンシップ実習Ⅱ	3・4通			1				○							1	集中
	インターンシップ実習Ⅲ	3・4通			1				○							1	集中
	インターンシップ実習Ⅳ	3・4通			1				○							1	集中
	スポーツケア演習	1前・後			2			○								1	
	交換留学Ⅰ	1・2・3後			4			○								1	
	交換留学Ⅱ	2・3・4前			4			○								1	
海外セミナー	1・2・3休			4			○								1	集中	
短期海外セミナー	1・2・3休			2			○								1	集中	
海外インターンシップ	3休			4				○							1	集中	
国際現地研修	2・3休			4					○						1	集中	
グローバルキャリア論	2・3前			2			○								1		
小計(22科目)	—	—	—	0	46	0	—	—	—	—	—	—	—	—	6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員	
学科科目	基盤共通科目	理工学概論	1前		2			○			3					6	オムニバス
		データサイエンス基礎	1前		2			○								2	
		基礎物理学	1前		2			○								1	
		基礎物理学実験	1後		2					○						11	オムニバス・一部共同 ※ 講義
		入門統計学	1後		2			○								2	
		微分積分学Ⅰ	1前		2			○								6	
		微分積分学Ⅱ	1後		2			○								6	
		微分積分学演習Ⅰ	1前		1				○							6	
		微分積分学演習Ⅱ	1後		1					○						6	
		線形代数学Ⅰ	1前		2			○								6	
		線形代数学Ⅱ	1後		2			○								6	
		線形代数学演習Ⅰ	1前		1				○							6	
		線形代数学演習Ⅱ	1後		1					○						6	
		プログラミングⅠ	1前		2					○				1	1	1	※ 講義
		プログラミングⅡ	1後		2					○						1	※ 講義
	小計(15科目)	—	—	26	0	0	—	—	—	5	0	1	1	0	25		
学科科目	専門基礎	情報工学概論	1後	○	2			○			6	1	1	1			オムニバス
		小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	6	1	1	1	0	0	
学科科目	専門展開	確率・統計	1後			2		○								1	
		オペレーションズ・リサーチ	1後			2		○								1	
	小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	2		
合計(102科目)		—	—	34	167	0	—	—	—	6	1	1	1	0	56		
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
共通教育科目から20単位以上(うち必修科目6単位、リベラルアーツ・サイエンス科目群の選択科目から8単位以上)、学科科目から82単位以上(うち必修科目58単位、基盤共通科目の選択科目から2単位以上、専門基幹科目の選択科目から12単位以上、専門発展科目の選択科目から4単位以上、専門展開科目の選択科目から6単位以上)を修得し、総計124単位を取得すること。 (履修科目の登録の上限:44単位(年間))							1学年の学期区分		2期								
							1学期の授業期間		13週								
							1時限の授業の標準時間		105分								

教 育 課 程 等 の 概 要

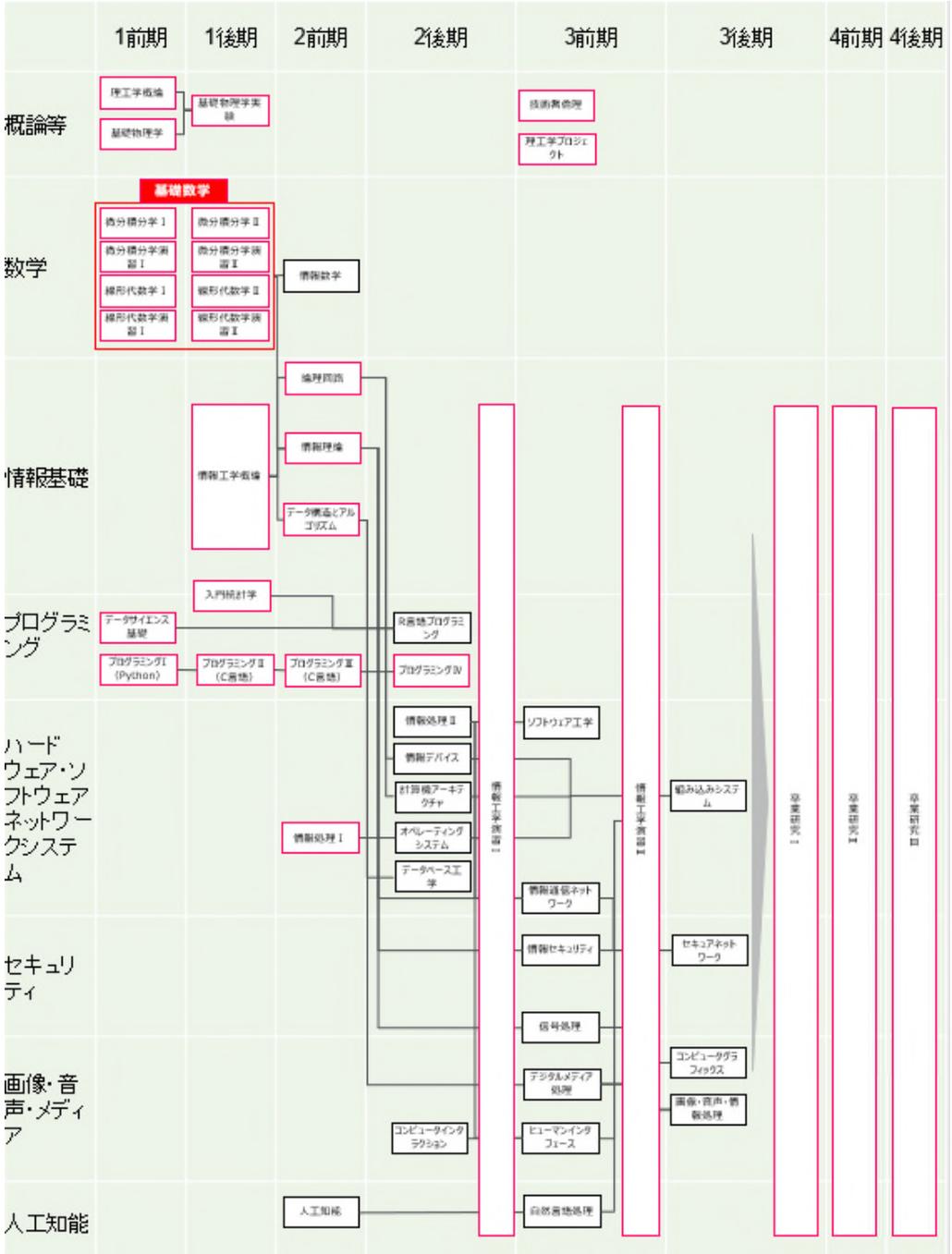
(理工学部情報工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員			
共通教育科目	フアウンテン・イノベーション科目群 体育科目	スポーツ実習1	1前		1				○							1		
		スポーツ実習2	1後		1				○							1		
		ネイチャーアクティビティ1	1休		1				○							1	集中	
		ネイチャーアクティビティ2	1休		1				○							1	集中	
		小計(4科目)	—	—	0	4	0			—	0	0	0	0	0	0	1	
基盤共通科目	プログラミングⅢ	2前		2			○			2		1						
	科学技術史	2後			2		○								1			
	科学技術英語	2後			2		○								1			
	知的財産論	2前			2		○								1			
	技術者倫理	3前	2				○								1			
	文献講読	3前		2			○			2	1				4			
	理工学プロジェクト	3前		2				○		1								
	小計(6科目)	—	—	4	8	0			—	5	1	1	0	0	0	8		
	専門基礎科目	情報処理Ⅰ	2前	○	2				○		1							※講義
		プログラミングⅣ	2後	○	2				○		1		1					※講義
情報理論		2前	○	2				○		1								
データ構造とアルゴリズム		2前	○	2				○		1								
論理回路		2前	○	2				○		1								
小計(5科目)	—	—	10	0	0			—	3	0	1	0	0	0				
学科学科目	専門基幹科目	情報数学	2前	○		2		○			1							※演習
		人工知能	2前	○		2		○			1							
		計算機アーキテクチャ	2後	○		2		○			1							
		オペレーティングシステム	2後	○		2		○			1							
		コンピュータインタラクション	2後	○		2		○				1						
		データベース工学	2後	○		2		○			1	1						
		情報処理Ⅱ	2後	○		2			○		1							※講義
		情報デバイス	2後	○		2			○		1							
		R言語プログラミング	2後	○		2			○							1		※講義
		情報通信ネットワーク	3前	○		2			○		1							
		情報セキュリティ	3前	○		2			○		1							
		デジタルメディア処理	3前	○		2			○		1							
		信号処理	3前	○		2			○		1							
		自然言語処理	3前	○		2			○							1		
		ヒューマンインタフェース	3前	○		2			○			1						
		ソフトウェア工学	3前	○		2			○		1							
		情報工学演習Ⅰ	2後	○	2					○	1	1						
		情報工学演習Ⅱ	3前	○	2					○	1	1						
小計(18科目)	—	—	4	32	0			—	6	1	0	0	0	0	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
専門 発展 科目	コンピュータグラフィックス	3後			2		○			1							※演習
	画像・音声・情報処理	3後			2		○			1							※演習
	セキュアネットワーク	3後			2		○			1							
	組込みシステム	3後			2		○					1					
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	3	0	1	0	0	0		
学 科 科 目	統計的推測Ⅰ	2前			2		○									1	
	統計的推測Ⅱ	2後			2		○									1	
	微分方程式	2前			2		○									1	
	数理最適化	2前			2		○									1	
	テキストマイニング	2前			2		○									1	
	機械学習Ⅰ	2後			2		○									1	
	フーリエ解析	2後			2		○									1	
	多変量解析	3前			2		○									1	
	機械学習Ⅱ	3前			2		○									1	
	深層学習	3前			2		○									1	
	ベイズ統計学	3前			2		○									1	
	時系列解析	3後			2		○									1	
	電子回路Ⅰ	2前			2		○									1	
	電気電子計測	2後			2		○									1	※演習
	ロボットの機構と運動	3前			2		○									1	
	制御工学Ⅰ	3前			2		○									1	※演習
	制御工学Ⅱ	3後			2		○									1	※演習
	波形処理	3前			2		○									1	※演習
光通信	3後			2		○									1		
無線通信システム	3後			2		○									1	※演習	
	小計(20科目)	—	—	0	40	0	—	—	—	0	0	0	0	0	14		
研 究 科 目	卒業研究Ⅰ	3後	○	2				○		6	1						
	卒業研究Ⅱ	4前	○	4				○		6	1						
	卒業研究Ⅲ	4後	○	4				○		6	1						
	小計(3科目)	—	—	10	0	0	—	—	—	6	1	0	0	0	0		
合計(61科目)		—	—	28	92	0	—	—	—	6	1	1	0	0	22		
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
共通教育科目から20単位以上(うち必修科目6単位、リベラルアーツ・サイエンス科目群の選択科目から8単位以上)、学科科目から82単位以上(うち必修科目58単位、基盤共通科目の選択科目から2単位以上、専門基幹科目の選択科目から12単位以上、専門発展科目の選択科目から4単位以上、専門展開科目の選択科目から6単位以上)を修得し、総計124単位を取得すること。 (履修科目の登録の上限:44単位(年間))							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			13週							
							1時限の授業の標準時間			105分							

情報工学科における教育課程と職業の関係

【資料7】



養成する人材像

幅広く深い教養及び主体的な判断力と豊かな人間性を身に付け、倫理観をもって理学と工学の両方の立場からの基礎的な視点と情報工学に関する「プログラミング」「ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークシステム」「情報セキュリティ」「デジタル情報」「人工知能」などの専門領域に係る教育研究から、基本原理の理解と基礎的な技術力、問題解決能力をもって、現代社会の諸課題に対してプログラミングや情報処理の技術をもって取り組むことで社会に貢献する職業人

＜想定する職業＞

主に地域における

- ・情報通信等の社会インフラ企業、ソフト・ハードのICT等のメーカー企業、電子機器関連企業等におけるプログラマー、セキュリティエンジニア、システムエンジニア、アプリケーションエンジニア
- ・分析されたデータをもとに現場レベルの改善・革新を実現するデジタル技術者等

新

科目名	情報通信ネットワーク	科目区分	専門基幹科目	担当教員	上野 衆太
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	情報通信ネットワークについて基礎的な技術体系から多様な最先端技術までを幅広く学ぶ。				
授業の目的	ネットワーク通信の基礎技術の素養を身に付ける。各プロトコル階層の役割や特徴について理解する。各種アプリケーションの仕組み・技術を理解し、現状の課題についての知識を深める。				
授業の概要	本科目は、情報通信ネットワークについて基礎的な技術体系から多様な最先端技術までを幅広く学ぶ。高度情報社会を支えるネットワーク通信を実現する基礎技術と技術的特徴について、無線通信および有線通信の伝送技術や、プロトコル階層の原理や特徴について講義する。さらに、WEBや電子メールなどの基本的なアプリケーションに加えて、クラウドサービスやブロックチェーンについても講義する。これにより、ネットワーク技術の根幹を成す要素技術や、将来の変化の方向性についての知識を習得する。				
到達目標	ネットワーク通信の基礎技術の動作原理を説明できる。各プロトコル階層の役割や特徴について説明できる。各種アプリケーションの仕組み・技術を理解し、今後の展望について考察できる。				
ディプロマ・ホリソ ンとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	情報通信ネットワーク序論	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。		
		学習内容	インターネットの歴史と最新動向について学ぶ。		
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。		
第2回	ネットワークの基本構造	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。		
		学習内容	ネットワークトポロジ、OSI参照モデルについて学ぶ。		
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。		
第3回	データの符号化	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。		
		学習内容	データの符号化、誤り訂正符号について復習する。		
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。		
第4回	無線通信(1) 変調方式	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。		
		学習内容	変復調技術、MIMO伝送技術について学ぶ。		
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。		

第5回	無線通信(2) アクセス方式	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	多元接続方式について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第6回	有線通信	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	Ethernet、PON について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第7回	ネットワーク層	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	IP 通信の仕組みについて学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第8回	トランスポート層	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	ルーティングプロトコルについて学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第9回	アプリケーション層	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	WWW、電子メール、DNS について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第10回	クラウドサービス	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	IaaS、PaaS、SaaS について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第11回	ネットワーク管理	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	SNMP、冗長構成について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第12回	ブロックチェーン	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	ブロックチェーンの仕組みを学び、暗号資産やスマートコントラクトの社会実装例について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第13回	IoT とモバイル通信	事前学習	課題解決に必要な資料を準備する。
		学習内容	IoT システム、Beyond5G/6G による将来像を把握し、学生自ら様々な社会課題の解決や価値創造に取り組み、分析結果や議論内容を発表する。
		事後学習	課題解決に取り組んだプロセスを確認する。
教科書	『IT Text 情報通信ネットワーク』（阪田史郎、井関文一、小高知宏、甲藤二郎、菊池浩明、塩田茂雄、長敬三 共著、オーム社、平成 27 年）		
参考書	なし		
評価方法	授業中の確認問題(50%)、最終レポート (50%) 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)		

科目名	情報通信ネットワーク	科目区分	専門基幹科目	担当教員	上野 衆太
		単位数	2単位	授業形態	授業
授業テーマ	情報通信ネットワークについて基礎的な技術体系から多様な最先端技術までを幅広く学ぶ。				
授業の目的	ネットワーク通信の基礎技術の素養を身に付ける。各プロトコル階層の役割や特徴について理解する。各種アプリケーションの仕組み・技術を理解し、現状の課題についての知識を深める。				
授業の概要	<p>本科目は、情報通信ネットワークについて基礎的な技術体系から多様な最先端技術までを幅広く学ぶ。高度情報社会を支えるネットワーク通信を実現する基礎技術と技術的特徴について、無線通信および有線通信の伝送技術や、プロトコル階層の原理や特徴について講義する。さらに、WEBや電子メールなどの基本的なアプリケーションに加えて、クラウドサービスやブロックチェーンについても講義する。これにより、ネットワーク技術の根幹を成す要素技術や、将来の変化の方向性についての知識を習得する。</p>				
到達目標	ネットワーク通信の基礎技術の動作原理を説明できる。各プロトコル階層の役割や特徴について説明できる。各種アプリケーションの仕組み・技術を理解し、今後の展望について考察できる。				
ディプロマ・ホリソ ンとの関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル		内容		
第1回	情報通信ネットワーク序論	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。		
		学習内容	インターネットの歴史と最新動向について学ぶ。		
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。		
第2回	ネットワークの基本構造	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。		
		学習内容	ネットワークトポロジ、OSI参照モデルについて学ぶ。		
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。		
第3回	データの符号化	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。		
		学習内容	データの符号化、誤り訂正符号について復習する。		
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。		
第4回	無線通信(1) 変調方式	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。		
		学習内容	変復調技術、MIMO伝送技術について学ぶ。		
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。		

第5回	無線通信(2) アクセス方式	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	多元接続方式について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第6回	有線通信	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	Ethernet、PON について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第7回	ネットワーク層	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	IP 通信の仕組みについて学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第8回	トランスポート層	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	ルーティングプロトコルについて学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第9回	アプリケーション層	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	WWW、電子メール、DNS について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第10回	クラウドサービス	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	IaaS、PaaS、SaaS について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第11回	ネットワーク管理	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	SNMP、冗長構成について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第12回	ブロックチェーン	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	ブロックチェーンの仕組みについて学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
第13回	IoT とモバイル通信	事前学習	授業資料を事前に目を通しておく。
		学習内容	IoT、Beyond5G/6G について学ぶ。
		事後学習	確認問題に取り組み授業内容を確認する。
教科書	『IT Text 情報通信ネットワーク』（阪田史郎、井関文一、小高知宏、甲藤二郎、菊池浩明、塩田茂雄、長敬三 共著、オーム社、平成 27 年）		
参考書	なし		
評価方法	授業中の確認問題(50%)、最終レポート (50%) 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)		

新

科目名	コンピュータグラフィックス	科目区分	専門発展科目	担当教員	佐藤宏介
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	撮影原理に基づく画像や映像、アニメーションの作成並びに処理する技術を学ぶ。				
授業の目的	カメラ撮影を模倣したコンピュータグラフィックスの基礎理論と実装技法を理解します。2D および 3D 世界のモデル化と変換、レンダリング、アニメーションを包括的に習得します。グラフィックスプログラミングを通して、情報システムの様々な表示系に対応できる専門的な活躍の基盤とします。				
授業の概要	本科目は、情報処理の基幹知識を統合し、2D/3D グラフィックスを基本から実践的な応用レベルまでを幅広く取り扱う。3次元対象の撮影原理に基づき3次元物体とカメラ撮像の数学モデルから、光源照明モデルと物体反射モデル、テクスチャ表現、画素のレンダリング処理までに至るコンピュータグラフィックス全体の手続きと内部データの流れ、各段階の具体的な処理手法を学ぶ。次にアニメーションの原理や物理シミュレーションとの関係を学び、これらを実践的な三次元 CG グラフィックス統合環境 Unity の手続きとしてプログラム記述できる能力を身に付ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータグラフィックスの基本概念と基盤技術を数学的に理解でき、それらと物理法則との関係を説明できる。 ・コンピュータグラフィックスにおける基礎表現と高質感表現との連携を理解し、各具体技術の利点と限界を評価し、現実のグラフィックス表現要求に対して適切なグラフィックス処理技術を選択できる。 ・特定のプログラミング環境と描画ライブラリにおいてグラフィックス表現を一連の手続きとして記述でき、実践的な三次元 CG グラフィックス統合環境 Unity 上で自らのグラフィックスプログラミングにより描画して作品制作できる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	コンピュータグラフィックスの概要	事前学習	指定教科書の章構造を確認し、Python や Processing 言語の開発環境を確認する。		
		学習内容	コンピュータグラフィックスの数学的表現として、ピンホールカメラと画像平面によるモデル、並びに画像背面の標本化と画素明暗軸の量子化とを学ぶ。		
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。		
第2回	座標変換	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。		

		学習内容	2次元図形の座標変換と行列演算との関係を理解し、幾何変換とアフィン変換との関係、加えて同次座標系表現から3次元の幾何変換とその連続合成を実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第3回	3次元図形処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	3次元モデルから2次元画素配列に至る3次元CG全体の処理手順を理解し、クリッピング処理とビューポート変換、隠面消去処理を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第4回	3次元形状表現	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	3次元形状表現として、多面体形状のポリゴン表現、エッジ構造とそれに基づく自由形状の近似的レンダリングを実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第5回	自由曲線・自由曲面	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	ベジェ曲線、Bスプライン曲線の自由曲線表現の理解を通して、3次元曲面の数学表現を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第6回	ウェブCG表現応用(1)	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	第1回から第5回までで学んだ要素技術と、実用的なウェブ上のCG表現との関係をプログラミング言語を通して実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第7回	質感付加	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	レンダリング時の質感付加技法として、テクスチャマッピング、法線マッピング、環境マッピングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第8回	反射モデル	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	高質感表現における光源-物体間の光学関係を双方向反射率分布関数に基づく反射モデルとして、

			Phong 反射モデル、Torrance-Sparrow 反射モデルを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 9 回	照明計算	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	高質感表現における光源-物体間の光学関係における照明・陰影モデルとして、光源種と影付け、大域照明をイメージベース手法とともに学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 10 回	レイトレーシング	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	レイトレーシング法を概覧し、内部処理の光線と物体モデルとの交点計算、反射・屈折による光線追跡やフォトンマッピングについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 11 回	アニメーション	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	アニメーション法を概覧し、キーフレームアニメーション、ボーン表現によるキャラクタアニメーション、柔軟体や流体の表現法について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 12 回	物理シミュレーション	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	風による揺れや物体の弾性反射等を高リアルティでアニメーション表現するために必要な、物理現象のシミュレーション技法について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 13 回	ウェブ CG 表現応用(2)	事前学習	教科書全体を復読し、専門用語を見直しておく。
		学習内容	第 7 回から第 12 回までで学んだ要素技術と、実用的なウェブ上のアニメーション表現との関係をプログラミング言語を通して実践する。
		事後学習	課題レポート全体を見直し、まとめて仕上げる。
教科書	『IT Text コンピュータグラフィックスの基礎』(宮崎大輔、床井浩平、結城修、吉田典正著、オーム社、令和 2 年)		
参考書	参考文献については、オリエンテーション時に指定する。		

評価方法

1. 各回の内容に即した「授業課題」を授業中に実施し、理解度を測る。「授業課題」は5点満点で、60点満点(12回分)とする。
2. 事後学習の一環として「課題レポート」を課し、提出する。「課題レポート」は40点満点とする。以上 1.及び 2.を用いて総合的に評価を行う。(「授業課題」と「課題レポート」を合わせた100点満点のうち、60点以上を合格とする。) 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。
S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)

科目名	コンピュータグラフィックス	科目区分	専門発展科目	担当教員	佐藤 宏介
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	撮影原理に基づく画像や映像、アニメーションの作成並びに処理する技術を学ぶ。				
授業の目的	カメラ撮影を模倣したコンピュータグラフィックスの基礎理論と実装技法を理解します。2D および 3D 世界のモデル化と変換、レンダリング、アニメーションを包括的に習得します。グラフィックスプログラミングを通して、情報システムの様々な表示系に対応できる専門的な活躍の基盤とします。				
授業の概要	本科目は、2D/3D グラフィックスを基本から応用レベルまでを幅広く取り扱う。3次元対象の撮影原理に基づき3次元物体とカメラ撮像の数学モデルから、光源照明モデルと物体反射モデル、テクスチャ表現、画素のレンダリング処理までに至るコンピュータグラフィックス全体の手続きと内部データの流れ、各段階の具体的な処理手法を学ぶ。次にアニメーションの原理や物理シミュレーションとの関係を学び、これらをグラフィックス言語の手続きとしてプログラム記述できる能力を身に付ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータグラフィックスの基本概念と基盤技術を数学的に理解でき、それらと物理法則との関係を説明できる。 ・コンピュータグラフィックスにおける基礎表現と高質感表現との連携を理解し、各具体技術の利点と限界を評価し、現実のグラフィックス表現要求に対して適切なグラフィックス処理技術を選択できる。 ・特定のプログラミング環境と描画ライブラリにおいてグラフィックス表現を一連の手続きとして記述でき、自らのグラフィックスプログラミングにより描画して作品制作できる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル		内容		
第1回	コンピュータグラフィックスの概要	事前学習	指定教科書の章構造を確認し、Python や Processing 言語の開発環境を確認する。		
		学習内容	コンピュータグラフィックスの数学的表現として、ピンホールカメラと画像平面によるモデル、並びに画像背面の標本化と画素明暗軸の量子化とを学ぶ。		
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。		
第2回	座標変換	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。		
		学習内容	2次元図形の座標変換と行列演算との関係を理解し、幾何変換とアフィン変換との関係、加えて同次		

			座標系表現から3次元の幾何変換とその連続合成を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第3回	3次元図形処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	3次元モデルから2次元画素配列に至る3次元CG全体の処理手順を理解し、クリッピング処理とビューポート変換、隠面消去処理を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第4回	3次元形状表現	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	3次元形状表現として、多面体形状のポリゴン表現、エッジ構造とそれに基づく自由形状の近似的レンダリングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第5回	自由曲線・自由曲面	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	ベジェ曲線、Bスプライン曲線の自由曲線表現の理解を通して、3次元曲面の数学表現を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第6回	ウェブCG表現基本技術	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	第1回から第5回までで学んだ要素技術と、実用的なウェブ上のCG表現との関係をプログラミング言語を通して学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第7回	質感付加	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	レンダリング時の質感付加技法として、テクスチャマッピング、法線マッピング、環境マッピングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第8回	反射モデル	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	高質感表現における光源-物体間の光学関係を双方向反射率分布関数に基づく反射モデルとして、Phong反射モデル、Torrance-Sparrow反射モデルを学ぶ。

		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第9回	照明計算	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	高質感表現における光源-物体間の光学関係における照明・陰影モデルとして、光源種と影付け、大域照明をイメージベース手法とともに学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第10回	レイトレーシング	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	レイトレーシング法を概覧し、内部処理の光線と物体モデルとの交点計算、反射・屈折による光線追跡やフォトンマッピングについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第11回	アニメーション	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	アニメーション法を概覧し、キーフレームアニメーション、ボーン表現によるキャラクタアニメーション、柔軟体や流体の表現法について学ぶ
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第12回	物理シミュレーション	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	風による揺れや物体の弾性反射等を高リアリティでアニメーション表現するために必要な、物理現象のシミュレーション技法について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第13回	ウェブCG表現応用技術	事前学習	教科書全体を復読し、専門用語を見直しておく。
		学習内容	第7回から第12回までで学んだ要素技術と、実用的なウェブ上のアニメーション表現との関係をプログラミング言語を通して学ぶ。
		事後学習	課題レポート全体を見直し、まとめて仕上げる。
教科書	『IT Text コンピュータグラフィックスの基礎』(宮崎大輔、床井浩平、結城修、吉田典正 著、オーム社、令和2年)		
参考書	参考文献については、オリエンテーション時に指定する。		
評価方法	1. 各回の内容に即した「授業課題」を授業中に実施し、理解度を測る。「授業課題」は5点満点で、60点満点(12回分)とする。		

2. 事後学習の一環として「課題レポート」を課し、提出する。「課題レポート」は40点満点とする。以上 1.及び 2.を用いて総合的に評価を行う。(「授業課題」と「課題レポート」を合わせた100点満点のうち、60点以上を合格とする。) 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。
S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)

新

科目名	画像・音声・情報処理	科目区分	学科発展科目	担当教員	佐藤宏介
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	音声と画像をデジタルメディアを処理するための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードとともに学ぶ。				
授業の目的	デジタルメディア処理の基礎的な概念を習得済みの学生に対して、情報処理の基幹知識を統合して音声と画像をするための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードとともに学ぶことで、音声と画像に関係する情報処理システムを構築する際に必要となる知識と技能を涵養する。それにより、産業用画像検査のアルゴリズムを題材にして、卒業研究で必要となる実践的なマルチメディア処理アプリケーション開発に繋げる。				
授業の概要	本科目は、デジタルメディア処理の最先端技術の多くは高度な数学的背景に基づいて設計されており、それらの技術を習得し、活用する際に必要となる、音声・画像データの変換と雑音除去、そして認識するための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードに対応付けながら学ぶ。音声や画像等のパターン情報は、時間周波数や空間周波数等の他の数学的表現で取り扱うことが問題解決に繋がるため、音声処理と画像処理の共通性を意識しながら、その数学的処理の知識と技能の習得を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音や画像のデジタルデータをサンプリング、量子化としての表現方法と特性を理解し、説明できる。 ・フーリエ変換などの数学的手法を適用し、音や画像データの解析法や変換法を理解し、説明できる。 ・音や画像のフィルタリングなどの基本的な処理を理解し、限定されたデータに対して具体的にプログラミングできる。 ・産業画像検査アルゴリズム(ノイズ除去、特徴抽出、異常検査など)を実施できるようになる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学に関する基礎的・実践的な知識の理解・技能の修得のもと、修得した知識・技能を応用する能力を有するとともに、課題解決をするための思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル		内容		
第1回	簡単な音声処理	事前学習	指定教科書の章構造を確認し、Python 開発環境を確認する。		
		学習内容	1次元データの可視化と時間波形の線形重畳、加えて音声データの加工法について実践する。		
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。		
第2回	簡単な画像処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。		

		学習内容	カメラと静止画像・動画像の対応関係と画像領域抽出手法、加えてプログラミング言語における画像入力法について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第3回	音声のフーリエ変換	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	フーリエ変換と逆フーリエ変換、窓関数、音声のフレーム処理について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第4回	フィルタ(音声)	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	周波数フィルタとして、線形フィルタとインパルス応答を理解し、FIR フィルタ、IIR フィルタ、移動平均フィルタについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第5回	画像の周波数領域処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	空間周波数を理解し、2次元フーリエ変換と逆変換、周波数領域でのフィルタ処理について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第6回	画像の空間領域処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	2次元畳み込みを理解し、微分オペレータ、エッジ検出、平滑化フィルタについて実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第7回	音声データの相関	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	一次元信号間の相関を理解し、ベクトル類似度、相互相関関数、自己相関について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第8回	画像データの類似度	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像の類似度を理解し、領域の相関、テンプレートマッチングについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。

第9回	複素信号	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	信号の複素指数関数表現を理解し、位相と瞬時周波数との関係、任意音の周波数変調について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第10回	画像の幾何学的処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像の回転、平行移動、拡大縮小に関して、同次座標表現、アフィン変換、射影変換を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第11回	分類	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	短時間エネルギー、零交差等の画像特徴量を理解し、k最近傍分類法等の画像クラスタリングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第12回	画像処理の応用	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像間や画像特徴の類似度や変化の検出法についてステレオ画像処理のマッチング処理について実践する。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第13回	産業用画像検査応用	事前学習	教科書全体を復読し、専門用語を見直しておく。
		学習内容	産業用画像検査システムの構造とプログラミング言語の画像処理ライブラリの利用法について実践する。
		事後学習	課題レポートを精査し仕上げる。
教科書	『Python で学ぶ実践画像・音声処理入門』伊藤克亘、花泉弘、小泉悠馬著、コロナ社、平成30年)		
参考書	参考文献については、オリエンテーション時に指定する。		
評価方法	<p>1. 各回の内容に即した「授業課題」を授業中に実施し、理解度を測る。「授業課題」は5点満点で、60点満点(12回分)とする。</p> <p>2. 事後学習の一環として「課題レポート」を課し、提出する。「課題レポート」は40点満点とする。以上1.及び2.を用いて総合的に評価を行う。(「授業課題」と「課題レポート」を合わせた100点満点のうち、60点以上を合格とする。)成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。S:90~100(GP4)、A:80~89(GP3)、B:70~79(GP2)、C:60~69(GP1)、D:0~59(GP0)</p>		

科目名	画像・音声・情報処理	科目区分	専門発展科目	担当教員	佐藤 宏介
		単位数	2単位	授業形態	講義
授業テーマ	音声と画像をデジタルメディアを処理するための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードとともに学ぶ。				
授業の目的	デジタルメディア処理の基礎的な概念を習得済みの学生に対して、音声と画像をするための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードとともに学ぶことで、音声と画像に関係する情報処理システムを構築する際に必要となる知識と技能を涵養する。それにより、卒業研究で必要となる具体的なマルチメディア処理アプリケーション開発への導入とする。				
授業の概要	本科目は、デジタルメディア処理の最先端技術の多くは高度な数学的背景に基づいて設計されており、それらの技術を習得し、活用する際に必要となる、音声・画像データの変換と雑音除去、そして認識するための基礎的なアルゴリズムを具体的なソースコードに対応付けながら学ぶ。音声や画像等のパターン情報は、時間周波数や空間周波数等の他の数学的表現で取り扱うことが問題解決に繋がるため、音声処理と画像処理の共通性を意識しながら、その数学的処理の知識と技能の習得を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音や画像のデジタルデータをサンプリング、量子化としての表現方法と特性を理解し、説明できる。 ・フーリエ変換などの数学的手法を適用し、音や画像データの解析法や変換法を理解し、説明できる。 ・音や画像のフィルタリングなどの基本的な処理を理解し、限定されたデータに対して具体的にプログラミングできる。 ・実際のタスク(ノイズ除去、特徴抽出など)を実施できるようになる。 				
ディプロマ・ポリシーとの関連	情報工学分野に関する専門的な知識を習得しているとともに、情報工学分野に関する専門的知識・技能を駆使でき、課題解決や価値創造を行うにあたって基盤となる思考力を有している。				
授業計画	(1回当たりの授業時間は105分)				
	タイトル	内容			
第1回	簡単な音声処理	事前学習	指定教科書の章構造を確認し、Python 開発環境を確認する。		
		学習内容	1次元データの可視化と時間波形の線形重畳、加えて音声データの加工法について学ぶ。		
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。		
第2回	簡単な画像処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。		

		学習内容	カメラと静止画像・動画像の対応関係と画像領域抽出手法、加えてプログラミング言語における画像入力法について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第3回	音声のフーリエ変換	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	フーリエ変換と逆フーリエ変換、窓関数、音声のフレーム処理について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第4回	フィルタ(音声)	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	周波数フィルタとして、線形フィルタとインパルス応答を理解し、FIR フィルタ、IIR フィルタ、移動平均フィルタについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第5回	画像の周波数領域処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	空間周波数を理解し、2次元フーリエ変換と逆変換、周波数領域でのフィルタ処理について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第6回	画像の空間領域処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	2次元畳み込みを理解し、微分オペレータ、エッジ検出、平滑化フィルタについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第7回	音声データの相関	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	一次元信号間の相関を理解し、ベクトル類似度、相互相関関数、自己相関について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第8回	画像データの類似度	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像の類似度を理解し、領域の相関、テンプレートマッチングについて学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第9回	複素信号	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。

		学習内容	信号の複素指数関数表現を理解し、位相と瞬時周波数との関係、任意音の周波数変調について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 10 回	画像の幾何学的処理	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	画像の回転、平行移動、拡大縮小に関して、同次座標表現、アフィン変換、射影変換を学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 11 回	分類	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	短時間エネルギー、零交差等の画像特徴量を理解し、k 最近傍分類法等の画像クラスタリングを学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 12 回	音声・画像処理の応用	事前学習	教科書の指定範囲を読み込んでおく。
		学習内容	音響信号の合成法と画像間の变化領域の解析法について学ぶ。
		事後学習	教科書の指定範囲を復読し、授業中に示した課題レポートに取り組む。
第 13 回	応用	事前学習	教科書全体を復読し、専門用語を見直しておく。
		学習内容	マルチメディア処理アプリケーションの構造とプログラミング言語の音声・画像処理ライブラリとその利用法について学ぶ。
		事後学習	課題レポートを精査し仕上げる。
教科書	『Python で学ぶ実践画像・音声処理入門』伊藤克亘、花泉弘、小泉悠馬 著、コロナ社、平成 30 年)		
参考書	参考文献については、オリエンテーション時に指定する。		
評価方法	<p>1. 各回の内容に即した「授業課題」を授業中に実施し、理解度を測る。「授業課題」は 5 点満点で、60 点満点(12 回分)とする。</p> <p>2. 事後学習の一環として「課題レポート」を課し、提出する。「課題レポート」は 40 点満点とする。以上 1. 及び 2. を用いて総合的に評価を行う。(「授業課題」と「課題レポート」を合わせた 100 点満点のうち、60 点以上を合格とする。) 成績評価基準は、以下の通り、大学の定めるところによる。 S:90～100 (GP4)、A:80～89 (GP3)、B:70～79 (GP2)、C:60～69 (GP1)、D:0～59 (GP0)</p>		

入学者受入れ方針と入学者選抜方法の関係

入学者受入れ方針

< 数理・データサイエンス学科 >

- 1) 本学科の養成する人材像を理解し、データから課題を見出すことに興味を有している者。
- 2) 高等学校で履修した数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している者。
- 3) 物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる能力を有している者。

< 機械工学科 >

- 1) 本学科の養成する人材像を理解し、ものづくりの技術に興味を有している者。
- 2) 高等学校で履修した数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している者。
- 3) 物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる能力を有している者。

< 電気電子工学科 >

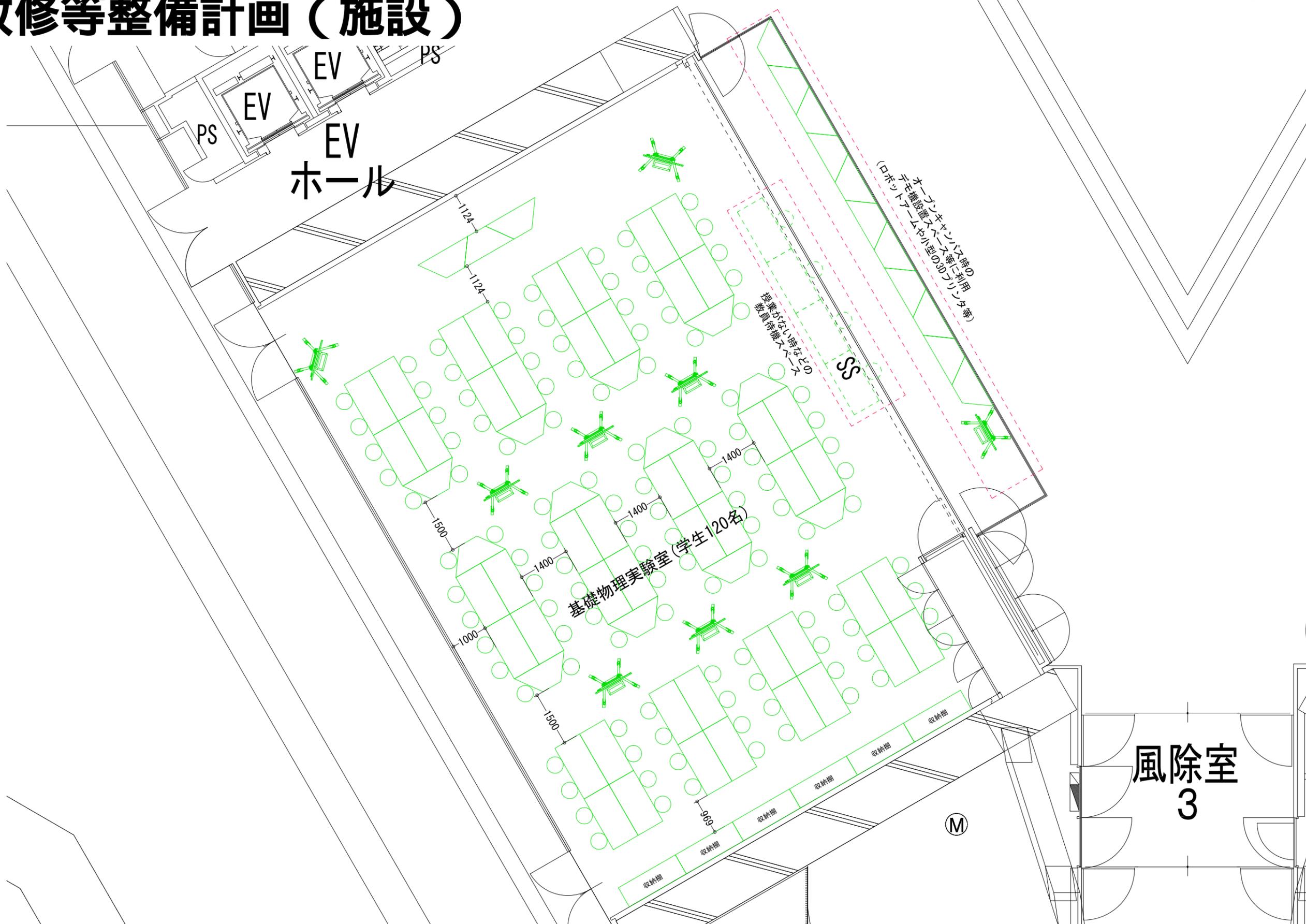
- 1) 本学科の養成する人材像を理解し、電気電子工学の技術に興味を有している者。
- 2) 高等学校で履修した数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している者。
- 3) 物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる能力を有している者。

< 情報工学科 >

- 1) 本学科の養成する人材像を理解し、プログラミングや情報処理の技術に興味を有している者。
- 2) 高等学校で履修した数学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している者。
- 3) 物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる能力を有している者。

選抜方法	募集定員	入試種別	入試方法	AP1	AP2	AP3	
一般選抜	100	一般入試	出願時	・APを明示し、APへの理解及び意欲があることについて同意のチェック ・調査書	○		
			試験内容	・学力検査にて3教科方式または2教科方式または1教科方式 ・3教科方式：英語、数学、理科 ・2教科方式：英語、数学 ・1教科方式：数学		○	○
		共通テスト利用入試	出願時	・APを明示し、APへの理解及び意欲があることについて同意のチェック ・調査書	○		○
			試験内容	・大学入学共通テストにて次の教科から2科目または3科目または4科目を選択（数学1科目は必須、国語・外国語・数学(必須科目として採用された科目を除く)・地理歴史・公民・理科・情報)		○	
		共通テスト併用方式	出願時	・APを明示し、APへの理解及び意欲があることについて同意のチェック ・調査書	○		○
			試験内容	・学力検査2教科または1教科（一般入試において数学は必須、英語、理科の高得点1教科を採用） ・大学入学共通テストにて次の教科から高得点1科目（国語・外国語・数学・地理歴史・公民・理科・情報）		○	△
総合型選抜	20	アサーティブ入試	出願時	・調査書 ・志望理由書 ・自己PR書 ・学習認定証明書	○		○
			試験内容	・基礎学力適性検査（英語、数学） ・面接		○	○
		学部独自入試	出願時	・事前課題レポート ・調査書	○	○	
			試験内容	・書類審査 ・面接		○	○
学校推薦型選抜	80	指定校推薦入試	出願時	・志望理由書 ・調査書	○		○
			試験内容	・基礎学力適性検査（英語、数学）		○	
		公募制推薦入試	出願時	・APを明示し、APへの理解及び意欲があることについて同意のチェック ・調査書	○		○
			試験内容	・学力検査にて2教科方式または1教科方式 ・2教科方式：英語、数学 ・1教科方式：数学		○	

校舎改修等整備計画（施設）



株式会社 島津理化 Shimadzu Rika Corporation				作成 DATE 2023-12-08	担当 DEPT	DIM:mm	図面名称 TITLE		SHEET
				作成 DSG	検討 CHK	承認 APP	尺度 SCALE	追手門大学理工学部 様	
				梅垣	堀田/梅垣	堀田/梅垣	1/100	DWG SIZE A3	総持寺キャンパス I期棟 1F平面図

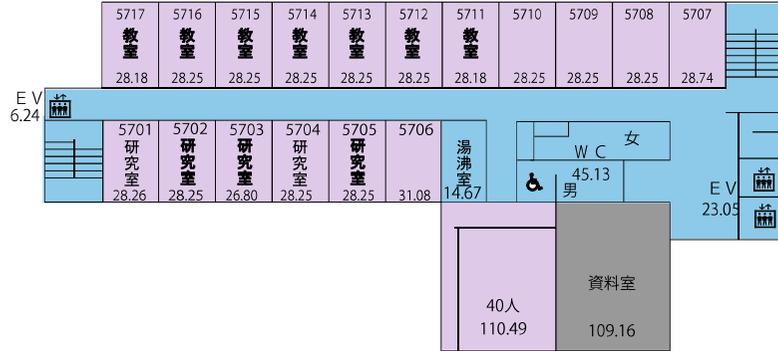
追手門学院大学理工学部設置に伴う機器備品購入予定一覧

建物	階数	室名(仮称)	分野	機器NO.	品名	メーカー名等	品番・型式	数量
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-1	たわみによるヤング率測定器	島津理化	TY-400A	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-2	たわみとねじり試験機	メガケム	MT3005	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-3	ヤング率測定器	島津理化	NY-2000	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-4	ネジリ剛性試験器	島津理化	NP-190, MFP-18	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-5	小形電源装置	島津理化	FDA-20	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-6	単巻可変変圧器	島津理化	SLT-120	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-7	直流電圧計	島津理化	HQ-300A	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-8	交流電圧計	島津理化	HQ-150A	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-9	直流電流計	島津理化	HQ-5N	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-10	交流電流計	島津理化	HQ-10A	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-11	直流電圧計	島津理化	HQA-300N	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-12	直流電流計	島津理化	HQ-55N	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-13	回路実験器標準セット	島津理化	EC-S	25
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-14	金属抵抗の温度係数測定器	島津理化	MR-20A	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-15	金属球膨張試験機	島津理化	127-140, 191201	25
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-16	線膨張率測定器	島津理化	127-102, 191181	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-17	力のつり合い実験機	島津理化	PB-T	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-18	マイケルソン干渉計	島津理化	MJ-15	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-19	教育用レーザー光源	島津理化	NEO-1MW-SR	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-20	レンズ	島津理化	190026	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-21	レンズ	島津理化	190028	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-22	ニュートンリング測定器	島津理化	NR-50A	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-23	測微顕微鏡	島津理化	195041	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-24	ニュートンリング板	島津理化	195043	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-25	線スペクトル光源装置	島津理化	SB-S	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-26	凸レンズA	島津理化	128-740	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-27	重力加速度の大きさ実験機器	島津理化	BP-40(付属品含む)	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-28	ヤング率実験機器	島津理化	NY-2000(付属品含む)	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-29	水の粘性係数実験機器	島津理化	FC-B(付属品含む)	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-30	熱電対の熱起電力実験器	島津理化	MTK-330(付属品含む)	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-31	金属棒の熱膨張係数実験機器	島津理化	HK-4(付属品含む)	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-32	光の干渉と波長実験器	島津理化	GLG-5005S(付属品含む)	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-33	半導体の活性化エネルギー	島津理化	SK-6161(付属品含む)	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-34	コイルのインピーダンスとインダクタンス実験機器	島津理化	RE-S(付属品含む)	14
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通	基礎物-200	学生実験台	島津理化	特型	73
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通		丸椅子	島津理化	TD-E24L-Z	124
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通		収納戸棚	島津理化	EU112	6
Ⅰ期棟	1F	基礎物理学実験	共通		可動式モニター	内田洋行	65インチ	9

校舎平面図 【茨木安威キャンパス】
5号館 (6～8階)

建物全体面積計	11,360.27㎡
理工学部	1,274.90㎡
心理学部、法学部、心理学研究科と共用(以後、2学部1研究科と共用)	9,866.98㎡
他学部専用	218.39㎡

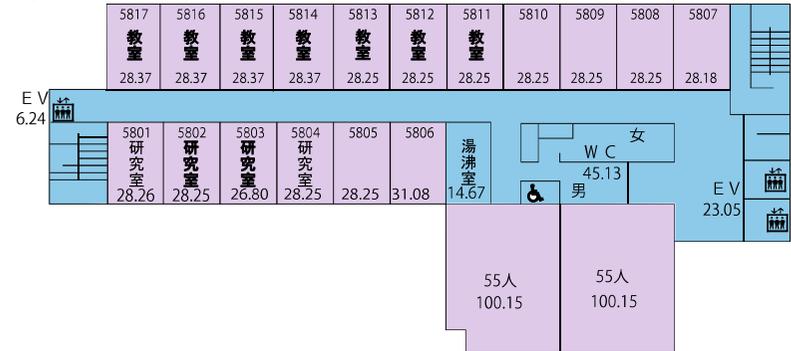
情報工学科



7階

7階 面積計	1,111.14㎡
理工学部	592.55㎡
2学部1研究科と共用	409.43㎡
他学部専用	109.16㎡

情報工学科



8階

8階 面積計	1,099.59㎡
理工学部	682.35㎡
2学部1研究科と共用	417.24㎡
他学部専用	0.00㎡



6階

6階 面積計	1,465.43㎡
理工学部	0.00㎡
2学部1研究科と共用	1,441.73㎡
他学部専用	23.70㎡

追手門学院大学工学部設置に伴う機器備品購入予定一覧

建物	階数	室名（仮称）	機器NO.	品名	メーカー名等	品番・型式	数量
5号館	7-8F	学生自習室	5号-200	オフィスデスク(棚付)	内田洋行	51103580, 66755931	216
5号館	7-8F	学生自習室	5号-200	上記デスク用棚	内田洋行	66755931BL-150 下段開放 単立 ボトムレス棚W12	216
5号館	7-8F	学生自習室	5号-201	オフィスチェア	内田洋行	53011507	216
5号館	7-8F	学生自習室	5号-202	スチールキャビネット	内田洋行	58205242, 58259014, 58559218	144
5号館	7-8F	学生自習室	5号-202	スチールキャビネット用ベース	内田洋行	58259014・上記用標準ベース	144
5号館	7-8F	学生自習室	5号-202	スチールキャビネット用天板	内田洋行	58559218・上記用ユニット天板	144

(用紙 日本産業規格A4縦型)

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オウテモンガクイン 学校法人 追手門学院								
フリガナ大学の名称	オウテモンガクインダイガク 追手門学院大学								
大学本部の位置	大阪府茨木市西安威二丁目1番15号（大阪府茨木市太田東芝町1番1号）								令和7年4月 変更予定
大学の目的	本大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門的な知識を授け、その研究と応用の能力を養うことを目的とし、高い人格教養と優れた健康を併せそなえ、国家の発展と社会福祉の増進に寄与する独創的で実践力に富む指導的人材の育成を使命とする。								
新設学部等の目的	理工学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「理工学分野」として、理工学分野に関する教育研究を通して、「理学と工学の両方の立場から、科学技術に関する研究と教育を実践する」ことを教育研究上の目的とする。 また、理工学部では、「幅広く深い教養及び主体的な判断力と豊かな人間性を身に付け、自然界の基本法則や仕組みについて探求された知見を応用できる能力と態度を育成する」とともに、「自然に存在する物質や現象の原理・法則性を解明して打ち立てられた理論や研究成果を活用して、社会に還元できる新たな科学技術を創造することのできる職業人」を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	理工学部 【Faculty of Science and Engineering】	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	数理・データサイエンス学科 【Department of Mathematics and Data Science】	4	30	—	120	学士(理学) 【Bachelor of Science】	理学関係	令和7年4月 第1年次	1年次：大阪府茨木市太田東芝町1番1号 2-4年次：大阪府茨木市西安威二丁目1番15号
	機械工学科 【Department of Mechanical Engineering】	4	50	—	200	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	電気電子工学科 【Department of Electrical and Electronic Engineering】	4	50	—	200	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	情報工学科 【Department of Information Engineering】	4	70	—	280	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	計		200	—	800				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	理工学部 数理・データサイエンス学科	103 科目	48 科目	17 科目	168 科目	124 単位			
	理工学部 機械工学科	102 科目	45 科目	19 科目	166 科目	124 単位			
	理工学部 電気電子工学科	115 科目	46 科目	19 科目	180 科目	124 単位			
理工学部 情報科学科	98 科目	48 科目	17 科目	163 科目	124 単位				

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
		人	人	人	人	人	人	
新	理工学部 数理・データサイエンス学科	7 (5)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	12 (10)	0 (0)	60 (52)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (5)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	12 (10)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	7 (5)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	12 (10)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	7 (5)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	12 (10)		
	理工学部 機械工学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	64 (54)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計(a～b)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			
設	理工学部 電気電子工学科	7 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (8)	0 (0)	64 (56)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (8)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	7 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (8)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	7 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (8)		
	理工学部 情報工学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	63 (55)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計(a～b)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
分	計	24 (21)	6 (6)	6 (6)	3 (3)	39 (36)	0 (0)	251 (217)

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
11人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

既	文学部 人文学科	12 (12)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	151 (151)	大学設置基準別表第一-Iに定める 基幹教員数の 四分の三の数 10人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	18 (18)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	4 (4)			
	小計 (a～b)	12 (12)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	22 (22)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	12 (12)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	22 (22)				
設	国際学部 国際学科	10 (10)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	131 (131)	大学設置基準別表第一-Iに定める 基幹教員数の 四分の三の数 10人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	17 (17)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
	小計 (a～b)	10 (10)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	19 (19)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	10 (10)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	19 (19)				
分	心理学部 心理学科	13 (13)	12 (12)	4 (4)	3 (3)	32 (32)	0 (0)	102 (102)	大学設置基準別表第一-Iに定める 基幹教員数の 四分の三の数 10人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (13)	10 (10)	3 (3)	3 (3)	29 (29)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	3 (3)			
	小計 (a～b)	13 (13)	12 (12)	4 (4)	3 (3)	32 (32)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	13 (13)	12 (12)	4 (4)	3 (3)	32 (32)				
分	社会学部 社会学科	15 (15)	14 (14)	3 (3)	1 (1)	33 (33)	0 (0)	103 (103)	大学設置基準別表第一-Iに定める 基幹教員数の 四分の三の数 15人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	15 (15)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	27 (27)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	6 (6)			
	小計 (a～b)	15 (15)	14 (14)	3 (3)	1 (1)	33 (33)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	15 (15)	14 (14)	3 (3)	1 (1)	33 (33)				

既	法学部 法律学科	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	118 (118)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 12人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)				
設	経済学部 経済学科	16 (16)	7 (7)	6 (6)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	96 (96)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 16人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (14)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	24 (24)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)			
	小計（a～b）	16 (16)	7 (7)	6 (6)	0 (0)	29 (29)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	16 (16)	7 (7)	6 (6)	0 (0)	29 (29)				
設	経営学部 経営学科	20 (20)	8 (8)	6 (6)	1 (1)	35 (35)	0 (0)	84 (84)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 17人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 (18)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	29 (29)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	2 (2)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	6 (6)			
	小計（a～b）	20 (20)	8 (8)	6 (6)	1 (1)	35 (35)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	20 (20)	8 (8)	6 (6)	1 (1)	35 (35)				
分	地域創造学部 地域創造学科	11 (11)	9 (9)	6 (6)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	86 (86)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 12人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	23 (23)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)			
	小計（a～b）	11 (11)	9 (9)	6 (6)	0 (0)	26 (26)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	11 (11)	9 (9)	6 (6)	0 (0)	26 (26)				

既設	共通教育機構		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	79 (79)		
	設	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
		小計(a～b)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
分	計	109 (109)	70 (70)	31 (31)	7 (7)	217 (217)	0 (0)	950 (950)			
合計		133 (130)	76 (76)	37 (37)	10 (10)	256 (253)	0 (0)	1,201 (1167)			
職種		専属			その他			計			
事務職員		83 (90)			81 (81)			164 (171)			
技術職員		0 (0)			4 (2)			4 (2)			
図書館職員		2 (2)			1 (1)			3 (3)			
その他の職員		0 (0)			0 (0)			0 (0)			
指導補助者		7 (7)			1 (1)			8 (8)			
計		92 (99)			87 (85)			179 (184)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用			計				
	校舎敷地	106,726 m ²	14,955 m ²	0 m ²			121,681 m ²				
	その他	48,807 m ²	0 m ²	0 m ²			48,807 m ²				
合計		155,533 m ²	14,955 m ²	0 m ²			170,488 m ²				
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用			計				
		114,192 m ² (109,447 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)			114,192 m ² (109,447 m ²)				
教室・教員研究室		教室	346室	教員研究室			344室				
								大学全体			
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	機械・器具 点	標本 点	大学全体の共用分 図書 118,383冊 〔36,287冊〕 学術雑誌 1,064種 〔458種〕 電子ジャーナル 6,847種 〔6,786種〕			
	理工学部	14,763 [4,515] (13,044 [4,410])	1,521 [59] (681 [12])	465 [438] (465 [438])	400 [400] (400 [400])	2,352 (796)	0 (0)				
	計	14,763 [4,515] (13,044 [4,410])	1,521 [59] (681 [12])	465 [438] (465 [438])	400 [400] (400 [400])	2,352 (796)	0 (0)				
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設					
		792 m ²		4,321 m ²		18,839 m ²					
		大学全体 厚生補導施設には、スポーツ施設の792m ² 、講堂の4,321m ² を含む。									

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	・共同研究費等は大学全体の金額。 ・図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。	
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円			
		共同研究費等		15,000千円	15,000千円	15,000千円	15,000千円			
		図書購入費	10,456千円	21,595千円	6,672千円	6,672千円	6,672千円			
	設備購入費	546,136千円	865,798千円	0千円	0千円	0千円				
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,525千円	1,525千円	1,525千円	1,525千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、受取利息・配当金収入、雑収入等								
大学等の名称	追手門学院大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地		
文学部	年	人	年次人	人		倍				
人文学科	4	220	3年次5	585	学士(文学)	1.06	令和4年度	大阪府茨木市太田東芝町1番1号	令和6年度入学定員増(40人)	
国際学部										
国際学科	4	150	3年次5	455	学士(国際学)	0.97	令和4年度	同上		
国際教養学部										
国際教養学科	4	—	—	—	学士(国際教養学)	—	平成19年度	同上	令和4年度より学生募集停止	
国際日本学科	4	—	—	—	学士(国際教養学)	—	平成19年度	同上	令和4年度より学生募集停止	
心理学部										
心理学科	4	220	3年次10	900	学士(心理学)	1.03	平成18年度	1年次：大阪府茨木市太田東芝町1番1号 2-4年次：大阪府茨木市西安威二丁目1番15号		
社会学部										
社会学科	4	350	3年次7	1,414	学士(社会学)	0.99	平成18年度	同上		
法学部										
法律学科	4	230	—	460	学士(法学)	0.99	令和5年度	1-3年次：大阪府茨木市太田東芝町1番1号 4年次：大阪府茨木市西安威二丁目1番15号		
経済学部										
経済学科	4	400	3年次10	1,620	学士(経済学)	1.01	昭和41年度	1年次：大阪府茨木市太田東芝町1番1号 2-4年次：大阪府茨木市西安威二丁目1番15号		
経営学部										
経営学科	4	443	3年次7	1,786	学士(経営学)	1.02	平成7年度	同上		
地域創造学部										
地域創造学科	4	230	—	920	学士(地域創造学)	1.03	平成27年度	大阪府茨木市太田東芝町1番1号		
附属施設の概要	名称：地域支援心理研究センター 所在地：大阪府茨木市西安威二丁目1番15号 設置年月：平成16年4月 規模等：土地310.74㎡、建物656.16㎡									

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：オープンキャンパス

	R4年度 入学者入試	R5年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	2789人	3618人	①学部長による学部紹介、オープンキャンパス学生スタッフによるキャンパスツアー、教員による模擬授業、大学で学べる学問内容、入学者選抜制度、大学生活についての個別相談や質問を受け付けるなど、受験生や保護者との対面による説明等を実施。
うち受験対象者数 (b)	2402人	2816人	②オープンキャンパスに関する参加者等総数の見込みから予想される入学者は次の通り算出した。 (1) 大学全体の全入学者のうち、PR活動等に一切接触がない入学者の割合は 令和4年度入学者：16.6% 令和5年度入学者：15.3% つまりPR活動による入学者の割合は 令和4年度入学者：83.4% 令和5年度入学者：84.7% 平均 84.1% である。
うち受験者数 (c)	1174人	1351人	(2) (1)の結果より、新設組織におけるPR活動による入学者の見込み総数は次の通りである。 数理・データサイエンス学科：入学定員30人×84.1%=25人 機械工学科：入学定員50人×84.1%=42人 電気電子工学科：入学定員50人×84.1%=42人 情報工学科：入学定員70人×84.1%=59人
うち入学者数 (d)	674人	785人	(3) オープンキャンパスからの入学者の割合は 令和4年度入学者：28.1% 令和5年度入学者：27.9% 2年間平均：28.0% であることから、(2)で算出した新設組織におけるPR活動による入学者の見込み数より、オープンキャンパスからの新設組織各学科における入学者の見込み数 (d') は次の通りである。 数理・データサイエンス学科：入学定員25人×28.0%=7人 機械工学科：入学定員42人×28.0%=12人 電気電子工学科：入学定員42人×28.0%=12人 情報工学科：入学定員59人×28.0%=16人
(受験率 c/b)	48.9%	48.0%	③受験対象者とする判断をした基準 参加者のうち当該年度に受験を行う高等学校3年生であるため、受験対象者であると判断。
(入学率 d/b)	28.1%	27.9%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：進学相談会

	R4年度 入学者入試	R5年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	3619人	4777人	①関西の各地で開催される民間業者が主催する進学相談会への参加、高等学校生徒に向けて各学部の学び魅力や入試のこと、奨学金のこと、学生生活のことの説明を実施。 R4年度入試対象 (R3開催)：計298回開催 (R3. 4/1~R4. 3/15) R5年度入試対象 (R4開催)：計261回開催 (R4. 4/1~R5. 3/15)
うち受験対象者数 (b)	1027人	1403人	②進学相談会に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者は次の通り算出した。 (1) 大学全体の全入学者のうち、PR活動等に一切接触がない入学者の割合は 令和4年度入学者：16.6% 令和5年度入学者：15.3% つまりPR活動による入学者の割合は 令和4年度入学者：83.4% 令和5年度入学者：84.7% 平均 84.1% である。
うち受験者数 (c)	418人	495人	(2) (1)の結果より、新設組織におけるPR活動による入学者の見込み総数は次の通りである。 数理・データサイエンス学科：入学定員30人×84.1%=25人 機械工学科：入学定員50人×84.1%=42人 電気電子工学科：入学定員50人×84.1%=42人 情報工学科：入学定員70人×84.1%=59人
うち入学者数 (d)	222人	273人	(3) 進学相談会からの入学者の割合は 令和4年度入学者：21.6% 令和5年度入学者：19.5% 2年間平均：20.6% であることから、(2)で算出した新設組織におけるPR活動による入学者の見込み数より、進学相談会からの新設組織各学科における入学者の見込み数 (d') は次の通りである。 数理・データサイエンス学科：入学定員25人×20.6%=5人 機械工学科：入学定員42人×20.6%=9人 電気電子工学科：入学定員42人×20.6%=9人 情報工学科：入学定員59人×20.6%=12人
(受験率 c/b)	40.7%	35.3%	③受験対象者とする判断をした基準 参加者のうち当該年度に受験を行う高等学校3年生であるため、受験対象者数と判断。
(入学率 d/b)	21.6%	19.5%	

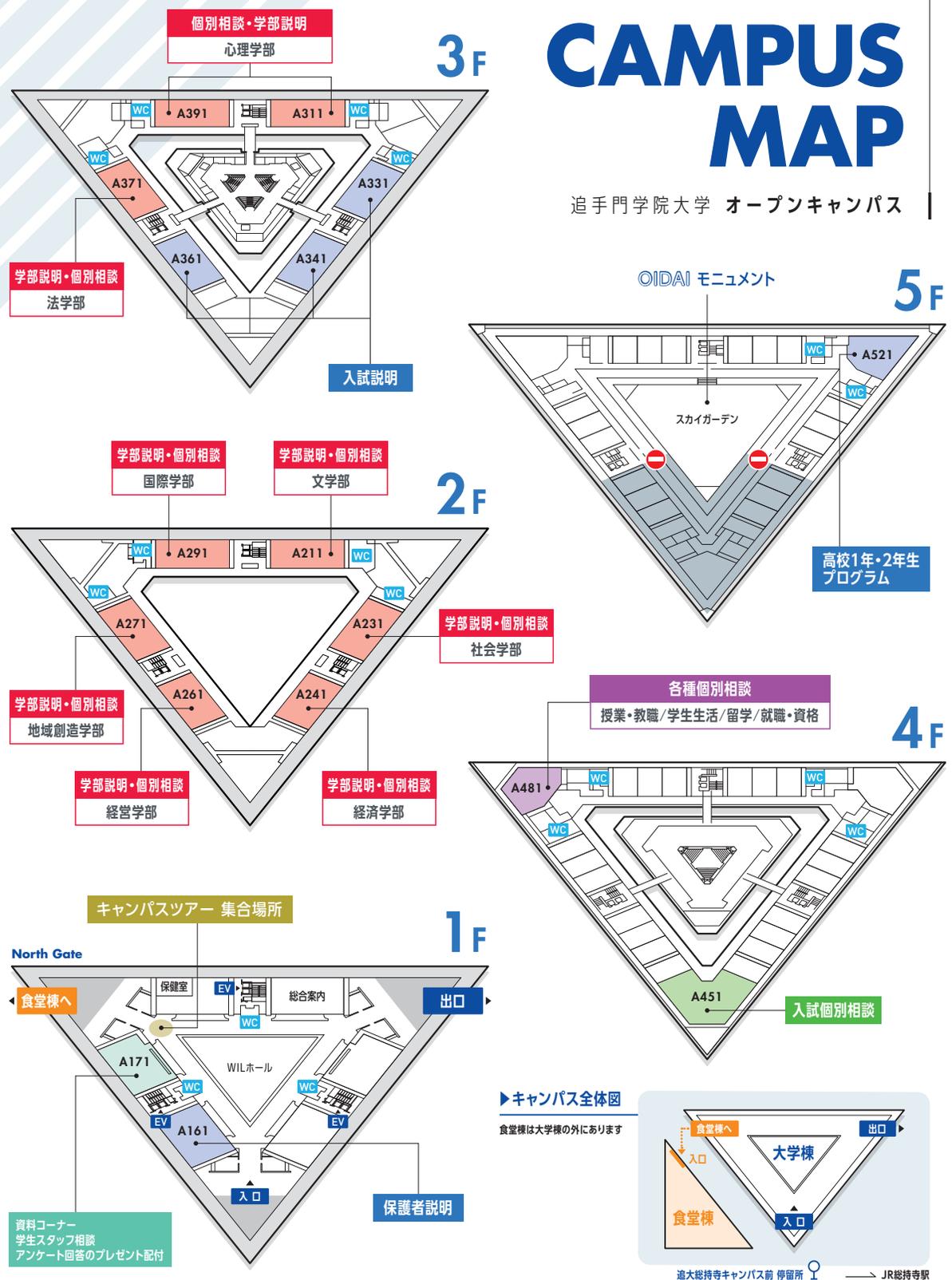
③募集を行った学科等名称及び取組の名称：大学案内、募集要項等資料請求者

	R4年度 入学者入試	R5年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	39943人	36133人	①大学案内や各学部紹介のリーフレットを同封し発送しているほか、ダイレクトメールを定期的に発送。
うち受験対象者数 (b)	15236人	16098人	②大学案内、募集要項等資料請求者に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者は次の通り算出した。 (1) 大学全体の全入学者のうち、PR活動等に一切接触がない入学者の割合は 令和4年度入学者：16.6% 令和5年度入学者：15.3% つまりPR活動による入学者の割合は 令和4年度入学者：83.4% 令和5年度入学者：84.7% 平均 84.1% である。
うち受験者数 (c)	4485人	4777人	(2) (1)の結果より、新設組織におけるPR活動による入学者の見込み総数は次の通りである。 数理・データサイエンス学科：入学定員30人×84.1%=25人 機械工学科：入学定員50人×84.1%=42人 電気電子工学科：入学定員50人×84.1%=42人 情報工学科：入学定員70人×84.1%=59人
うち入学者数 (d)	1744人	1899人	(3) 大学案内、募集要項等資料請求者からの入学者の割合は 令和4年度入学者：50.3% 令和5年度入学者：52.6% 2年間平均：51.5% であることから、(2)で算出した新設組織におけるPR活動による入学者の見込み数より、大学案内、募集要項等資料請求者からの新設組織各学科における入学者の見込み数 (d') は次の通りである。 数理・データサイエンス学科：25人×51.5%=13人 機械工学科：42人×51.5%=22人 電気電子工学科：42人×51.5%=22人 情報工学科：59人×51.5%=30人
(受験率 c/b)	29.4%	29.7%	③受験対象者とする判断をした基準 参加者のうち当該年度に受験を行う高等学校3年生であるため、受験対象者数と判断。
(入学率 d/b)	11.4%	11.8%	

オープンキャンパスプログラム < 2022年度開催 >

CAMPUS MAP

追手門学院大学 オープンキャンパス



プログラム	階	実施場所	時間															
			9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00		
事前予約プログラム	3階	A331 A341 A361	受付	10:00-10:40		受付	11:30-12:10			13:00-13:40			14:30-15:10					
	5階	A521		10:00-10:50 大学説明+ツアー		受付	11:30-12:20 大学説明+ツアー		受付	13:00-13:50 大学説明+ツアー		受付	14:30-15:20 大学説明+ツアー					
	1階	A161							13:00-13:40			14:30-15:10						
学部説明・学部個別相談・模擬授業など	法学部 [2023年4月 仮称・設置予定構想中]	A371				1			2			3			4			
	心理学部	A311 A391				1			2			3			4			
	文学部	A211				1			2			3			4			
	社会学部	A231	1 10:50-11:10 2 12:20-12:40			1			2			3			4			
	経済学部	A241	3 13:50-14:10 4 15:20-15:40			1			2			3			4			
	経営学部	A261				1			2			3			4			
	地域創造学部	A271				1			2			3			4			
	国際学部	A291				1			2			3			4			
各種個別相談 授業/学生生活/留学/就職・資格	4階	A481														10:40-		
入試個別相談	4階	A451														10:40-		
キャンパスツアー	1階	North Gate														11:00- 毎時00、30分に出発		
資料コーナー 学生スタッフ相談 アンケート回答のプレゼント配付	1階	A171														10:40-		
食堂(追手門食堂)・OGカフェ 営業		食堂棟														11:00-14:00 ※13:30ラストオーダー		

ご来場の皆さまへ | 本学では新型コロナウイルス感染症対策を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

- 健康チェック
発熱のある方、体調不良の方は入場をお断りいたします。
- マスクの着用
ウイルス感染防止対策にご協力ください。
- 手指の消毒
入場時は必ず手指の消毒をお願いいたします。
- ソーシャルディスタンス
密にならずに一定の距離を保つようにしてください。
- 入場制限
会場内の人数制限を行います。あらかじめご了承ください。

- 本学スタッフの対応について
全員マスクの着用と手指消毒を徹底します。業務開始前に検温を行い、体調がすぐれないスタッフは配置しません。また、飛沫防止のため積極的なお声がけを控えますので、何かございましたら、お近くのスタッフまでお申しつけください。
- 動画撮影に関する注意事項
当日はオープンキャンパスの様子を動画で撮影いたします。ご来場された方が映り込む場合がありますので予めご了承ください。

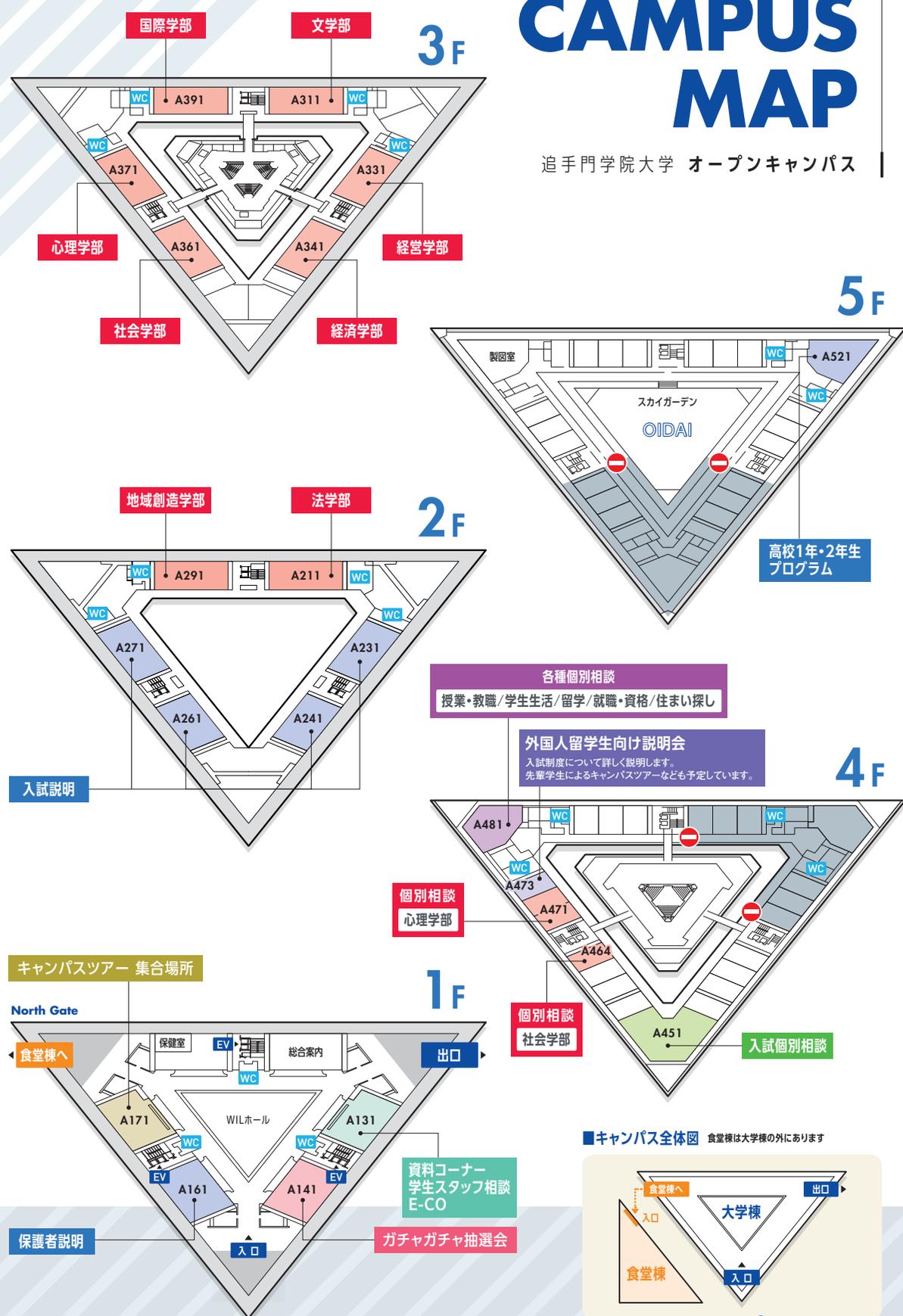
阪急茨木市駅方面へお帰りの際は「近鉄バス」もご利用できます。(有料)

時刻表	近鉄バス 追大総持寺 キャンパス前	11:00 - 15:00	03 23 35 53
		16:00	03 23 35 45 53

オープンキャンパスプログラム < 2023年度開催 >

CAMPUS MAP

追手門学院大学 オープンキャンパス



プログラム	階	実施場所	時間															
			9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00		
入試説明	2階	A231 A241 A261 A271	受付	10:00-10:30		受付	11:30-12:00		受付	13:00-13:30		受付	14:30-15:00					
高校1・2年生プログラム	5階	A521		10:00-10:50 大学説明+ツアー		11:30-12:20 大学説明+ツアー		13:00-13:50 大学説明+ツアー		14:30-15:20 大学説明+ツアー								
保護者説明	1階	A161			10:50-11:20		12:20-12:50		13:50-14:20									
文学部 ★定員増決定		A311				1		2		3		4						
国際学部 学生プレゼン		A391				1		2		3		4						
心理学部 [人工知能・認知科学専攻含む]	3階 / 4階	A371 A471				1		2		3		4						
社会学部		A361 A464		1 10:50-11:20 2 12:20-12:50 3 13:50-14:20 4 15:20-15:50														
経済学部 学生プレゼン/ 模擬授業		A341				1		2		3		4						
経営学部 模擬授業/ 学部体験コーナー		A331				1		2		3		4						
法学部 教員と在学生が語る法学部	2階	A211				1		2		3		4						
地域創造学部		A291				1		2		3		4						
各種個別相談 授業/学生生活/ 留学/就職/資格/ 住まい探し	4階	A481																
入試個別相談	4階	A451																
キャンパスツアー	1階	A171																
資料コーナー 学生スタッフ相談 E-CO (施設案内・展示等)	1階	A131																
食堂(追手門食堂)・OGカフェ 営業		食堂棟																

阪急茨木市駅方面へお帰りの際は「近鉄バス」もご利用できます。(有料)

バス時刻表	近鉄バス	11:00 - 15:00	03 23 35 53
	追大総持寺キャンパス前	16:00	03 23 35 45 53

写真・動画撮影に関する注意事項

当日はオープンキャンパスの様子を写真・動画で撮影いたします。ご来場された方が映り込む場合がありますので予めご了承ください。

進学相談会の月別実施計画

	4月	5月	6月	7月
大阪府	9件	30件	24件	18件
兵庫県	1件	7件	11件	4件
京都府	5件	0件	8件	4件
奈良県	0件	1件	1件	1件
滋賀県	1件	3件	1件	0件
和歌山	1件	0件	1件	1件
岡山県	0件	1件	1件	0件
広島県	0件	0件	1件	0件
徳島県	0件	0件	1件	0件
香川県	0件	0件	2件	0件
高知県	0件	0件	1件	0件
愛媛県	0件	0件	1件	0件
福岡県	0件	0件	1件	0件
オンライン	1件	0件	0件	0件
合計	18件	41件	54件	28件

高等学校訪問の具体的計画

	訪問開始日	訪問終了日	実施体制	訪問校校数	その他
第1回	4月中旬	6月末	入試課員 専任7名 渉外3名	近畿2府4県 対象高校271校	近畿2府4県 対象高校135校
第2回	7月上旬	8月末			
第3回	9月上旬	10月末		のべ訪問数 1080回	のべ訪問数 1000回
第4回	11月上旬	12月末			
第5回	1月上旬	3月中旬			

都道府県別 訪問高校内訳

	訪問高校数	塾・予備校 訪問校数
大阪府	128校	70校
兵庫県	67校	32校
京都府	35校	20校
奈良県	11校	4校
滋賀県	21校	3校
和歌山県	9校	6校
合計	271校	135校

本学主催 高等学校教員向け入試説明会開催日一覧

2022年度（2023年度入試）		▶	2023年度（2024年度入試）		▶	2024年度（2025年度入試）	
学外型	2022年5月27日(金)		学内型	2023年5月26日(金)		学内型	2024年6月5日(水)
都シティ 大阪天王寺	15:00～16:30		総持寺キャンパス	14:00～15:30		総持寺キャンパス	14:00～16:30
学内型	2022年5月31日(火)		学内型	2023年5月30日(火)		学内型	2024年6月14日(金)
総持寺キャンパス	15:00～16:30		総持寺キャンパス	14:00～15:30		総持寺キャンパス	14:00～16:30
学内型	2022年6月3日(金)		学外型	2023年6月2日(金)		学外型	2024年6月17日(月)
総持寺キャンパス	15:00～16:30		あべのハルカス	14:00～15:30		あべのハルカス	14:00～16:30

新設組織における学生募集のためのPR活動と入学者の見込数

入学定員		数理・データサイエンス 学科	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科
		30人	50人	50人	70人
既設組織の入学者における オープンキャンパス、進学相談会、 大学案内・資料請求での接触割合		令和4年度入学生対象 83.4%			
		令和5年度入学生対象 84.7%			
		84.1%			
新設組織の入学者における オープンキャンパス、進学相談会、 大学案内・資料請求接触者の推計		25人	42人	42人	59人
オープン キャンパス	既設組織における当該取組からの 入学者の割合 ※1	令和4年度入学生対象 28.1%			
		令和5年度入学生対象 27.9%			
		28.0%			
	新設組織における当該取組からの入学者数 の推計	7人	12人	12人	16人
	新設組織における当該取組の受験率が約 48%※2となる受験者数	12人	20人	20人	28人
	(受験率)	(48.0%)	(47.6%)	(47.6%)	(47.5%)
	新設組織における当該取組の入学率が約 28%※3となる受験対象者数	25人	42人	42人	59人
	(入学率)	(28.3%)	(28.0%)	(28.0%)	(27.9%)
既設組織における当該取組の参加者等総数に対する受 験対象者の割合(b/a)の平均		82.0%			
参加者等総数(a)		30人	51人	51人	72人
進学 相談会	既設組織における当該取組からの入学者の 割合 ※1	令和4年度入学生対象 21.6%			
		令和5年度入学生対象 19.5%			
		20.6%			
	新設組織における当該取組からの入学者の 推計	5人	9人	9人	12人
	新設組織における当該取組の受験率が約3 8%※2となる受験者数	9人	16人	16人	22人
	(受験率)	(36.0%)	(38.1%)	(38.1%)	(37.3%)
	新設組織における入学率が約20%※3とな る受験対象者数の推計	25人	42人	42人	59人
(入学率)	(20.8%)	(20.6%)	(20.6%)	(20.6%)	
既設組織における当該取組の参加者等総数に対する受 験対象者の割合(b/a)の平均		28.9%			
新設組織における参加者総数の推計		87人	145人	145人	204人
大学 案内・ 資料請 求	既設組織における当該活動からの入学者の 割合 ※1	令和4年度入学生対象 50.3%			
		令和5年度入学生対象 52.6%			
		51.5%			
	新設組織における当該取組からの入学者の 推計	13人	22人	22人	30人
	新設組織における当該取組の受験率が約 29%※2となる受験者数	34人	56人	56人	80人
	(受験率)	(28.8%)	(28.6%)	(28.6%)	(29.1%)
	新設組織における当該取組の入学率が約 11%※3となる受験対象者数	118人	196人	196人	275人
(入学率)	(11.0%)	(11.0%)	(11.0%)	(11.0%)	
既設組織における当該取組の参加者等総数に対する受 験対象者の割合(b/a)の平均		41.3%			
新設組織における参加者総数の推計		285人	474人	474人	665人

※1 本学全体における実績

※2 別紙3「既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績」のうち各取組における受験率の平均

※3 別紙3「既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績」のうち各取組における入学率の平均

追手門学院大学既設学科における学生確保の取組実績と新設組織における参加者総数目標

開設年度	令和4年度(届出)		令和4年度(届出)		令和5年度(認可)		令和7年4月(開設予定)				
学部	文学部		国際学部		法学部		理工学部全体				
学科	人文学科		国際学科		法律学科		数理・ データサイエンス学科	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	
入学定員	180人		150人		230人		200人	30人	50人	50人	70人
	令和4年度 入学者入試	令和5年度 入学者入試	令和4年度 入学者入試	令和5年度 入学者入試	令和4年度 入学者入試	令和5年度 入学者入試	参加者総数目標				
オープンキャンパス	340人	575人	301人	342人	－	249人	204人	30人	51人	51人	72人
進学相談会	359人	474人	277人	366人	－	319人	581人	87人	145人	145人	204人
大学案内・資料請求	1,001人	1,256人	950人	929人	－	822人	1,898人	285人	474人	474人	665人
入学者数	195人	191人	141人	154人	－	229人					

※ 文学部人文学科及び国際学部国際学科は既設組織であった国際教養学部国際日本学科及び国際教養学科を改組。

情報工学科 競合校との比較分析

大学・学部・学科名等	追手門学院大学理工学部情報工学科	関西学院大学工学部情報工学科	京都橋大学工学部情報工学科
教育内容と方法	<p>理工学部では、教育研究上の目的や養成する人材などの趣旨を実現することから、教育課程を「共有教育科目」と「学科科目」の2つの科目区分から編成することとし、特に、「学科科目」では、4年間の学習期間を通して講義から演習、演習から実習・実験へと発展させるための体系的な授業科目の配置としている。</p> <p>① 基礎共通科目 「基礎共通科目」は、情報工学を学習するうえで必要となる自然科学の基本を修得するための科目として、1 8科目 3 2 単位を必修科目として配置し、4 科目 8 単位を選択科目として配置する。</p> <p>② 専門基礎科目 「専門基礎科目」は、情報工学を学習するうえで基礎となる知識や技能を修得するための科目として、6 科目 1 2 単位を必修科目として配置する。</p> <p>③ 専門基礎科目 「専門基礎科目」は、情報工学に関する理論とその実践に関する専門的な知識や技能を得るための科目として、2 科目 4 単位を必修科目として配置し、1 6 科目 3 2 単位を選択科目として配置する。</p> <p>④ 専門発展科目 「専門発展科目」は、各々の興味関心に基づき、課題を発見し解決するための専門的な知識や技能を得るための科目として、4 科目 8 単位を選択科目として配置する。</p> <p>⑤ 専門展開科目 「専門展開科目」は、情報工学分野との関連性や応用性が高い数理科学、データサイエンス分野や工業技術に関する基礎的な教育内容を取組むための科目として、2 2 科目 4 4 単位を選択科目として配置する。</p> <p>⑥ 研究科目 「研究科目」は、情報工学に関する問題発見方法や課題解決手法の修得及び批判力、論理性、表現力を高めるための科目として、3 科目 1 0 単位を必修科目として配置する。</p>	<p>情報工学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（工学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、情報工芸実習科目、知能・機械工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。各科目群については情報工学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿って以下の方針をもとて実施する。</p> <p>「専門教育科目」</p> <p>「必修科目」</p> <p>本課程に必須となる基礎的な知識と技能を講義と演習、実験・実習を通して修得させる。卒業研究に関連する科目を4年次に配出し、各専攻分野の学術的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な観点においても興味を理解させた上で、取組むための課題を発見させ、これまでに得た知識、技能、コミュニケーション力を用いて課題解決に向けて意欲的に取組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。</p> <p>「情報工芸実習科目」</p> <p>情報工芸における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し、論理的に思考する力を実習を通じて修得させる。</p> <p>「知能・機械工学実習・実験科目」</p> <p>人間・機械系分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・実習を通じて修得させる。</p> <p>「基礎科目」</p> <p>主1年次、2年次に配出し、情報科学分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。</p> <p>「発展科目」</p> <p>2年次、3年次に配出し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。</p> <p>「専門選択科目」</p> <p>人間・機械系分野における基礎知識や基礎的な技能を修得させ、知識と技能を伸張させる。</p> <p>「他領域科目」</p> <p>特定の分野に拘りこまず、多様な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識・能力を修得させる。</p>	<p>①学科の学修を円滑に進め、また自立した社会人としての基礎的な素養を養成するため、教養教育科目にコア科目群、教養教育科目群を配置する。思考力などの汎用的技能や主体的に学びを続ける態度を醸成する科目並びに、幅広い教養を教授する科目を配置する。</p> <p>②学生が社会のつながりや自らの将来を深く考え、キャリア実現に向けた積極的な行動を促すため、教養教育科目にキャリア教育科目群を配置する。</p> <p>③自立した社会人として仕事に従事するうえで不可欠となる、論理的・批判的思考力や実践力、コミュニケーション能力、リーダーシップの養成および専門的知識・技能の深化のため、専門教育科目に演習科目群を配置する。1年次から4年次までの学びの段階に応じた必修の演習科目で実践的な学びを展開する。</p> <p>④情報工学を学ぶ学生が、共通して身につけるべき基礎的な知識や技能を養成するため、専門教育科目に基礎科目群を配置する。</p> <p>⑤情報工学の基礎的な知識や技能を養成するため、専門教育科目に基礎科目群を配置する。</p> <p>⑥情報工学の各領域における専門的な知識や技能を身につけるため、専門教育科目に分野科目群を配置し、ソフトウェアデザイン、ネットワークデザイン、IoTシステム、メディアデザイン、データサイエンスに関連する科目を配置する。</p> <p>⑦学部を超えた文理融合の学びを促すため、専門教育科目にクロスオーバー科目群を配置し、他領域の科目を厳選して配置する。</p>
課題解決型授業	本学科のみの「数理・データサイエンス演習」1科目2単位だけでなく、理工学部機械工学科、電気電子工学科、情報工学科共同で実施する「理工学プロジェクト」2科目2単位を必修科目として配置。	課題解決型授業に特化した科目配置はなし。	「プロジェクト演習Ⅰ」「プロジェクト演習Ⅱ」「プロジェクト演習Ⅲ」「プロジェクト演習4」「プロジェクト演習Ⅴ」5科目●単位を必修科目として配置。
倫理	学部共通科目群である基礎共通科目として「技術者倫理」1科目2単位を必修科目として配置。	科目配置なし。	教養科目として「倫理学概論」1科目3単位を選択科目として配置。
その他競合校に対する教育課程の特長	「情報セキュリティ」1科目2単位を選択科目として配置するとともに、「セキュアネットワーク」1科目2単位を選択科目として配置。	「暗号と情報セキュリティ」1科目2単位を選択科目として配置。	「情報セキュリティⅠ」1科目2単位を必修科目として、「情報セキュリティⅡ」1科目2単位を選択科目として配置。
S/T比	S/T比 31.1 教員数 9人 収容定員 280人	S/T比 27.7 教員数 13人 収容定員 360人	S/T比 26.0 教員数 15人 収容定員 390人
受験期間と入学手続時期	一般公募入試 試験日：11月下旬～ 一般入試 試験日：2月上旬～3月上旬 手続締切：3月27日	総合型・探究評価型入試等 試験日：9月下旬～11月上旬 手続締切：3月1日 一般入試 試験日：2月上旬 手続締切：3月15日・3月22日	公募制推薦等 試験日：11月上旬 手続締切：1月9日 一般選抜 試験日：1月下旬～3月上旬 手続締切：2月28日・3月8日・3月21日
学生納付金（初年度）	152万5,000円	171万1,000円	152万5,000円
奨学金制度などの就学支援の内容	日本学生支援機構の奨学金制度 地方公共団体・民間育英団体が実施する支援制度 高等教育修学支援制度 追手門学院大学桜みらい奨学金（入学前未定型） 追手門学院大学桜みらい奨学金（学業・課外活動奨励型） 追手門学院大学教育後援会給付奨学金 校友会将軍山奨学生制度 学院生表彰制度	日本学生支援機構の奨学金制度 地方公共団体・民間育英団体が実施する支援制度 高等教育修学支援制度 入学時貸与奨学金 入学前予約型奨学金	日本学生支援機構の奨学金制度 地方公共団体・民間育英団体が実施する支援制度 高等教育修学支援制度 京都橋大学経済援助給付奨学金 つながるたちはな修学支援給付奨学金 京都橋大学緊急就学援助奨学金 京都橋大学緊急貸与奨学金 入学前京都橋大学入学時成績優秀者特別奨学金
就職支援の内容	・キャリア・アドバイザーによる個人面談 ・テーマ別の解説講座、実践講座の開催 ・学内企業説明会、登録会の開催 ・企業と独自に開発したプログラムの提供	・キャリア・アドバイザーによる個人面談 ・基礎から実践まで、キャリアガイダンス・各種セミナーの実施 ・実践形式の面接トレーニング ・オンデマンドセミナー ・学内企業セミナーの実施 ・筆記試験対策の実施 ・4年生内定者によるアドバイス	・キャリアアドバイザーによる個別指導 ・多彩なキャリアガイダンスと就職活動実践講座 ・OB/PGをはじめとした、社会人との交流 ・4回生就活下りたーによる低回生の就活支援
取得できる資格	該当なし	中学校教諭一種（数学） 高等学校教諭一種（数学） 高等学校教諭一種（情報）	高等学校教諭一種（情報）